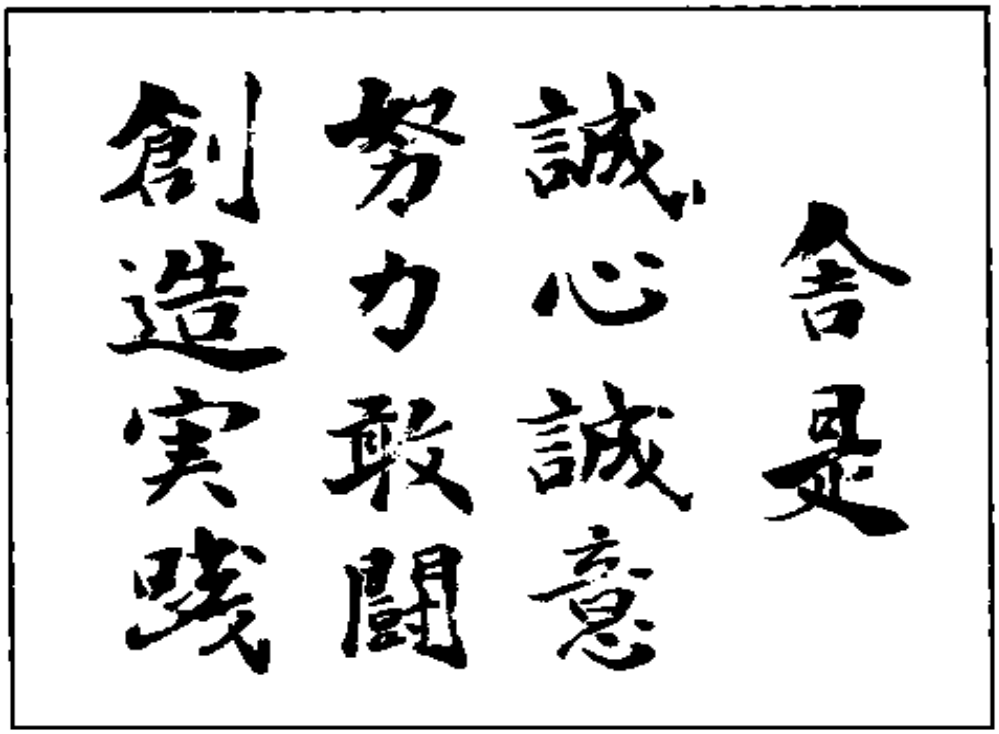
２０２２年度

経営計画書

社会福祉法人　北海道光生舎

目　　次

舎是・経営の原点、経営理念・経営ビジョン	１～　２
組織機構図	３
各部門のキーワードと重点事項（各施設、授産、管理部門）	４
「法人経営計画」	５～　１０
「財務部経営計画」	１１
「経理部経営計画」	１２～　１５
「管理部情報システム課経営計画」	１６～　１８
「総務部経営計画」	１９～　２１
「本舎施設経営計画」	２２～　２５
「厚生部経営計画」	２６～　３０
「ケアホームメイプル経営計画」	３１～　３２
「ホームクリーニング工場経営計画」	３３～　３５
「赤平リネンサプライ工場経営計画」	３６～　３７
「地域福祉ターミナルていく経営計画」	３８～　４３
「そうだんのていく経営計画」	４４～　４６
「きっずていく経営計画」	４７～　５１
「きっずていくあしべつ経営計画」	５２～　５６
「きっずていくさくらんぼ経営計画」	５７～　６０
「光生舎メディック・エル経営計画」	６１～　６４
「ケアハウスすいこう経営計画」	６５～　７９
「光生舎内託児所経営計画」	８０～　８３
「光生舎虹の里経営計画」	８４～　９２
「光生舎虹の里デイサービスセンター経営計画」	９３
「光生舎フーレビラ経営計画」	９４～１０５
「光生舎クリーン・セブン経営計画」	１０６～１０７
「特別養護老人ホームしらかば荘経営計画」	１０８～１１７
「救護施設親愛の家経営計画」	１１８～１２３
「光生舎プラザ・イン・サッポロ経営計画」	１２４～１２８
「グループホームパル経営計画」	１２９～１３０
「光生舎フロンティア経営計画」	１３１～１３３
「光生舎ゆいま～る・もみじ台経営計画」	１３４～１４２
「光生舎スクエア経営計画」	１４３～１４５
「グループホームピノ経営計画」	１４６～１４７
「キャンパスＫＩＴＥ経営計画」	１４８～１４９



経営の原点

◆日々、己に問え「今日一日、誠心誠意、仕事に励んだか」立派な舎員とは、真心一途に働く人である。

◆日々、己に問え「今日一日、精一杯、努力敢闘したと言い切れるか」企業は、真の努力人間が集まってこそ、勝者になれる。

◆日々、己に問え「今日一日、創造実践の舎是に悖ることなかりしか」舎の未来「明日をひらく」のは良い着眼と、緻密な計画と、それを確実に実行する能力である。

経営理念

わたしたちは、「働く喜び」「誇りある人生」「きれいと快適」を追求し、地域社会に貢献します。

１　働く喜びを
わたしたちは、利用者・職員共に全員がいきいきと活躍することができる職場づくりを続けます。
２　誇りある人生を
わたしたちは、法人に関わる一人ひとりの個性を尊重し、皆が充実して誇りある人生を送ることを目指します。
３　きれいと快適を
わたしたちは、職場においてきれいと安全を徹底すると共に、お客様に清潔で快適な環境を提供します。

以上の経営理念を実現するため、常に革新的経営の実践に努め、事業を発展させ、地域福祉と社会に貢献します。

経営ビジョン

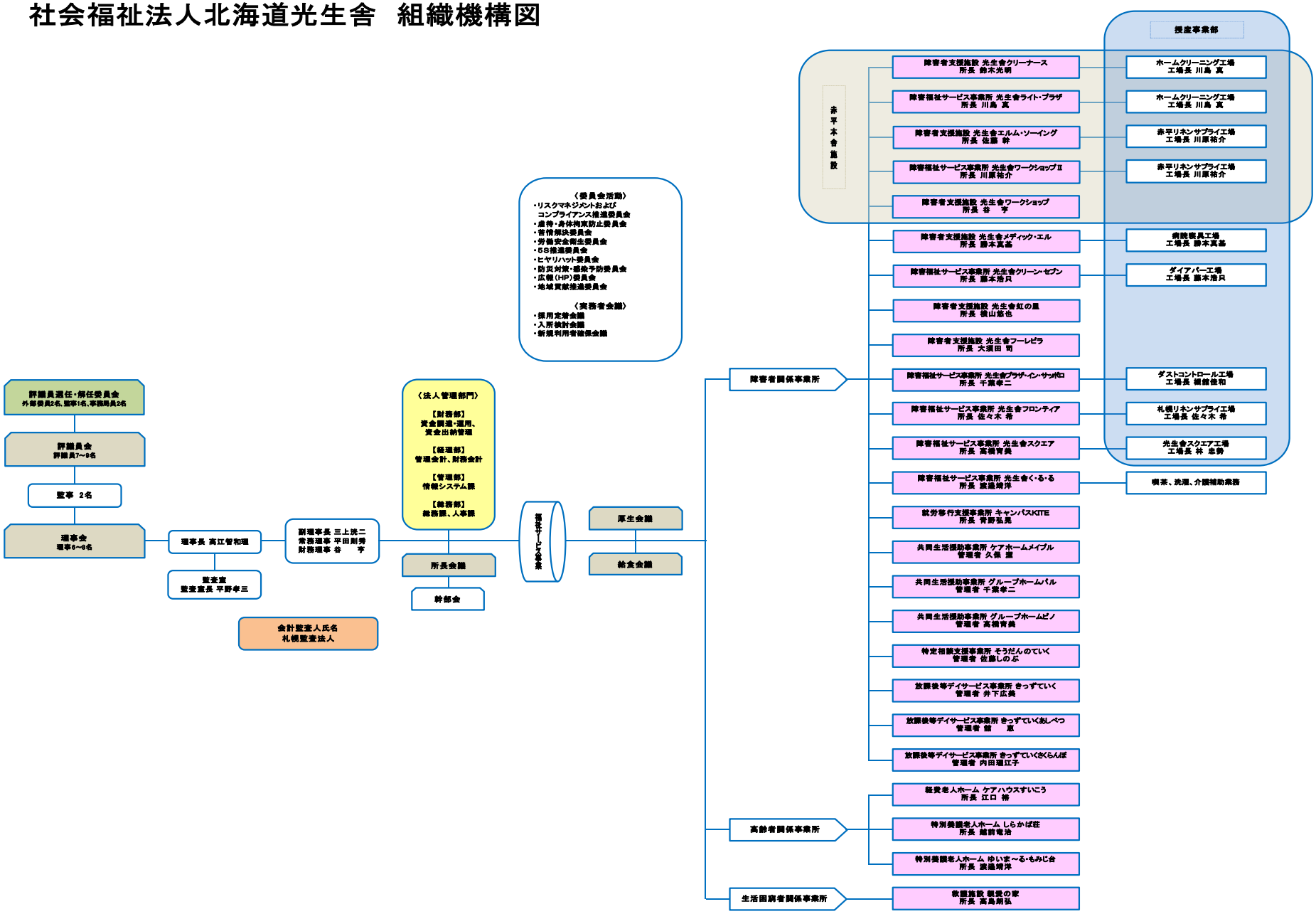
『100 年続く社会福祉法人へ』

福祉と企業経営の融合による進取果敢な取り組みで、障がい者就労支援のトップリーダーとして走り続けます。

常に専門性の向上に努め、一人ひとりに寄り添い、個別ニーズを叶えるための支援を提供します。

地域の人たちと協力し合い、地域共生社会の中心的役割を担います。

社会福祉法人北海道光生舎　組織機構図



令和4年度　各部門のキーワードと重点事項

社会福祉法人 北海道光生舎

令和4年1月12日

令和4年度の方針　施設キーワード『この施設にいて良かったと言われる施設にしよう』
工場キーワード『反転攻勢で黒字化を目指せ』

法人の重点方針　啐啄同時（そったくどうじ）[学ぼうとする者と教え導く者の息が合って、相通じること] ･･･ 仕事を通して成長する
一億一心（いっとくいっしん）[目的や利益が同じ者同士が心を一つにして事にあたること] ･･･ 知恵と力を結集する
万里一空（ばんりいっくう）[どこまでも同じ一つの目標を見据え、たゆまず努力を続けること] ･･･ 決して諦めない

●法人の取り組み

キーワード
施設「この施設にいて良かったと
言われる施設にしよう」
工場「反転攻勢で黒字化を目指せ」

重点事項
1．収益改善
(1)就労支援事業の収益を大幅に改善させて
経常増減差額をプラスにする
(2)福祉事業サービスの利用率向上
2．教育・研修体制の構築および推進
(1)法人による教育・研修体制の要なる発展
(2)各事業所における教育・研修体制の構築
3．確かな品質の追求
(1)施設：利用者に満足して頂ける高水準の
サービス提供
(2)工場：工程管理体制構築による品質安定
4．職員定着率の向上
(1)働きやすい職場づくりの推進
(2)皆が活躍できる業務体制の整備
5．重たい者の一般就労・施設外就労の促進
(1)キャンパスKITEの就労・定着サービスを
軌道にのせる
(2)施設外就労の要なる拡大
6．地域共生社会実現に向けた活動の推進
(1)歌平市内における地域共生社会実現に
向けた業務の推進
(2)地域への公益的取組の促進
7．ICTの活用推進
(1)法人内の作業効率・質の向上のためICT
活用の取り組みを進める
(2)ペーパーレスの促進

●財務部の取り組み

キーワード
「財務基盤の健全化」

重点事項
1．コロナによる財政基盤のダメージの回復
2．今後5年は多額の投資は行わない
（令和3年度より）
3．法人の経常増減差額を黒字化する
4．投資効果の確認と確実な資金回収
5．低利での資金調達に努める
6．遊休資産の洗い出しと処分

●経理部の取り組み

キーワード
「より少なく、しかしより良く」

重点事項
1．みんなが分かり易い管理会計の構築
2．業務効率化と正確性の両立
3．部内の情報共有と他部署への情報発信の明確化

●情報システム課の取り組み

キーワード
「デジタル化の推進・アナログからの脱却」

重点事項
1．ICT推進
2．文書の電子化、データの活用
3．新システムの構築、移行

●本舎施設の取り組み

キーワード
「ＱＯＬ～笑顔のために～」

重点事項
1．利用者の生きがいに向けた支援
2．連携された利用者支援の活性化
3．みんなで一緒にステップアップ

●厚生部の取り組み

キーワード
「ためになる」

重点事項
1．個別支援計画に基づいた支援
2．利用者支援に資する体制強化
3．ルールの徹底と実行

●ケアホームメイプルの取り組み

キーワード
「自己実現～堅実にステップアップ～」

重点事項
1．安定した生活基盤のための個別支援
2．GHから一般住居生活への移行
3．新GH開設と新体制移行後の体制整備

●ホーム工場の取り組み

キーワード
「片手で縫が揺ぬぬなら、
我らで揺んでみせまSHow！」

重点事項
1．職場環境の整備・保全・活用
2．経費抑制活動
3．工場内研修の実施
4．事業体連携

●リネン工場の取り組み

キーワード
「Ｈ・Ｒ・Ｓ（ほう・れん・そう）」
～ハイクオリティ・リアライズ・セーフティ～

重点事項
1．安定品質
2．生産性向上
3．利用者職域拡大

●総務部の取り組み

キーワード
「共に考え、実行する」

重点事項
1．働きやすい環境作り
2．人事管理体制の強化
3．ペーパーレスの推進

●地域福祉ターミナルていくの取り組み

キーワード
「Ｗｉｔｈ」

重点事項
Ⅰそうだんのていく
1．相談支援の充実
2．地域の相談窓口の設置
3．福祉のネットワークづくり

Ⅱきっずていく
1．環境と支援の充実
2．託児所との合同活動
3．支援に対する理解の統一
4．児童発達支援の開始

Ⅲきっずていくあしべつ
1．芦別2事業所の運営
2．特性に合わせた支援の提供
3．地域との連携活動
4．支援に対する理解の統一

Ⅳきっずていくさくらんぼ
1．芦別2事業所の運営
2．地域との連携活動
3．支援に対する理解の統一

Ⅴ託児所
1．安全な保育環境の整備・改善
2．年齢に合わせた活動・行事の充実化

●メディック・エルの取り組み

キーワード
「正しい根拠と行動、そして大きな成果へ！」

重点事項
Ⅰ収益向上
1．職上げ交渉による収入増
2．A型利用者37名雇用
3．補助リネン費収入比25%以内

Ⅱ内部統制
1．事業所内研修活動の発足
2．委員会活動、WTの見直し

Ⅲ施設サービスの充実
1．生活介護サービスの計画及び支援内容の見直し
2．行事を充実させる為の活動促進

●すいこうの取り組み

キーワード
「スクラム」

重点事項
1．多様な余暇活動の提供
2．改善活動におけるPDCAの「C・A」強化
3．基本的介護技術・医療知識の復習と習得

●虹の豆の取り組み

キーワード
「ＰＤＣＡを基本に！」

重点事項
1．基本の整備と徹底
2．利用者「日中活動」の充実
3．情報の整理
4．人材育成

●フーレピラの取り組み

キーワード
「プラスワンの気遣い
～心ひとつに勝れる施設へ～」

重点事項
1．基本の徹底
2．個別対応への支援水準向上
3．適当な施設環境の実現

●クリーン・セブンの取り組み

キーワード
「三位一体」
～正しい『型』をしっかり身につける～

重点事項
1．質質向上
2．安全対策と きれいな職場づくり
3．作業の効率化
4．利用者満足度向上

●しらかば荘の取り組み

キーワード
「Smile one Word」～笑顔一言～

重点事項
1．職員育成　～ 目配り・気配り・心配り
2．ケアの充実 ～ 笑顔を増やす取り組み

●親愛の家の取り組み

キーワード
「共に働き、共に学び、共に育む」

重点事項
1．就労率50%
2．地域貢献活動の要なる展開

●プラザ・イン・サッポロの取り組み

キーワード
「一味同心」

重点事項
1．基本の徹底
2．風通しの良い職場環境
3．支援の専門性の向上
4．利用者とともに創る活動

●グループホームパルの取り組み

キーワード
「連携」

重点事項
1．基本の徹底
2．事業所との情報共有
3．支援の向上

●フロンティアの取り組み

キーワード
「Do one's best～ 全力を尽くす」

重点事項
1．利用者サービスの充実
2．地域・行政・KKとの連携
3．コスト抑制（生産経費）
4．業務改善

●スクエアの取り組み

キーワード
「殷賑」

重点事項
1．基礎の定着
2．利用者契約数35名以上の実現
3．サービスの安定と向上

●グループホームピノの取り組み

キーワード
「松ぼっくりから新芽」

重点事項
1．運営体制づくり
2．定員増に向けた取り組み

●キャンパスKITEの取り組み

キーワード
「FLYaKITE」

重点事項
1．新規開拓活動（利用者、企業）
2．サービスの基盤作り
3．営業体制の基盤作り

●ゆいま～る・もみじ台の取り組み

キーワード
「伝えて頼いて、聞いて伝える」

重点事項
Ⅰ共通
1．ゆいま～る全体の稼働率向上に努め、黒字化
経営を目指す
2．研修体制を充実させ、個々の資質向上を図る

Ⅱ特養
1．サービスの質の向上
2．安定した運営
3．感染症との共存

Ⅲショートステイ
1．個別計画に基づいた支援の統一
2．稼働率72.5%の達成と自事業所の特養待ちと
定期利用者の獲得
3．他業種間の連携

Ⅳデイサービス
1．ご利用者の笑顔と生きがいを引き出す支援の
提供
2．稼働率75%の到達と維持

Ⅴケアプランセンター
1．真のニーズの発掘
2．居宅担当数の確保

Ⅵ就労A
1．自己実現に向けた支援
2．稼働できる環境
3．稼働率の向上

Ⅶ就労B
1．利用者それぞれに合わせた能力向上を目指す
2．他者理解や社会性を身につけられるよう支援
する
3．利用者家族や各機関との連携を図る
4．利用者親家の取り組み

「法人経営計画」

〈キーワード〉

施設『 この施設にいて良かったと言われる施設にしよう 』
工場『 反転攻勢で黒字化を目指せ 』

【施設】

さて今年度のキーワードを「この施設にいて良かったと言われる施設にしよう」にしました。良い施設にする条件で重要なのは、職員の質が一定レベル以上にあるという事です。光生舎では新入社員から幹部職員まで一定の教育を受ける制度があります。施設の内部研修としてはかなり行っている方だと思います。しかし、このキーワードをかなえるにはそれでも不足だと考えています。各施設において、全職員を対象に一定レベルの、定期的な勉強を続ける仕組みを計画の中に入れて下さい。

今は外部研修にも出かけていますが、良い研修はどんどん受けてもらいたい。そして受けてきた人たちは、関係施設において、必ず受けてきた研修内容を、伝達研修で発表してもらいたい。教えてもらったことは、そのままだと忘れてしまいます。それを他人に教えることによって、再度勉強しなくてはならず、体で覚える事になります。

まずは各施設の経営計画に必ず研修時間を入れてください。日々の仕事で追われているのも分かりますが、この勉強時間を入れていかなければ、職員皆さんの質の向上は出来ません。施設内に研修委員会を作り、今年の研修テーマと、どの月に何を勉強するのかを必ず計画に落とし込んで下さい。勉強の工夫はいくらでもできます。研修内容をビデオに撮って、空いた時間に個々人で見てもいいし、時間がなければ聞くだけでもいい。各種別団体の研修はコロナ禍の中でリモート研修が多く、ある程度の期間で見られるようになっています。それを録画しておいて見てもいいし、録画できないものは、内容を録音して、聞いてもらってもいい。ユーチューブでも様々な研修の内容が流れています。毎月テーマを選んで発表してもいい。やり方やテーマについては各施設で考えていただければ結構ですが、その研修計画については経営報告会で報告してもらいたいと思います。

どの施設でどんな研修テーマを選び、どんな研修を行い、どのような成果が出るのかを今から楽しみにしています。成果はすぐに出るものではないでしょうが、必ず形になって表れてくると思っています。

昔の光生舎は障害者が多く、教育もそんなに受けていませんでした。お金も信用も技術も五体満足の体さえない中で、光生舎はスタートしました。その実践の中でのスパルタ教育で光生舎は伸びてきました。毎日名誉理事長に呼ばれて、何時間も怒られたことを思い出します。どんなに歯がゆい思いをして、社員教育をしてきたのか。教育は技術も、内容も大事ですが、一番大事なのは、本気で我々を怒っていたあの名誉理事長の情熱ではないかと思います。会社をよくしたい、施設をよくしたいという情熱をもって教育に取り組んでください。

【工場】

工場のキーワードは「反転攻勢で黒字化を目指せ」である。この2年間コロナ禍で売上が落ち、赤字経営であった。しかしその中で、不必要な経費を削り、売上減の中で、利益を上げようと努力してきた。今は経費についてはかなり絞り切ったと言える。後はこれに売上が乗れば、これまで以上の利益が出るはずである。

リネンサプライはホテルにお客様が戻ってこなければ売上にならない。今のところは北海道割りなどの地方の政策しか行っていないが、早く全国的なGOTOキャンペーンなどでお客様が戻ってくることを待つしかない。

ホームクリーニングは新しいサービスである「モッテッテ」や保管が本格的に始まる。また法人開拓も本格的に実施する予定である。まだ動きは鈍いが、来年度にはSNSやTVでのCMも行う予定である。売上を上げるための準備は出来ている。今年は売上増を達成し、反転攻勢で黒字化させよう。

「法人重点方針」

令和３年から、新しく五か年計画がスタートした。

計画二年目になる令和４年度は、しっかり練られた計画を、確実に遂行していくことが求められる。そのためには、全職員が仕事を通して成長し、力をつけ、その力を結集し、一つの方向に向くことである。

困難な課題があっても、思わぬ難題が発生しても、知恵と力を結集して、たゆまずそれらに立ち向かっていくことを重点事項に定める。

啐啄同時（そったくどうじ）（学ぼうとする者と教え導く者の息が合って、相通じること）

仕事を通して成長する

一徳一心（いっとくいっしん）（目的や利益が同じ者同士が心を一つにして事にあたること）

知恵と力を結集する

万里一空（ばんりいっくう）（どこまでも同じ一つの目標を見据え、たゆまず努力を続けること）

決して諦めない

「法人重点項目」

１．収益改善

⑴就労支援事業の収益を大幅に改善させて経常増減差額をプラスにする

⑵福祉事業サービスの利用率向上

２．教育・研修体制の構築および推進

⑴法人による教育・研修体制の更なる発展

⑵各事業所における教育・研修体制の構築

３．確かな品質の追求

⑴施設：利用者に満足して頂ける高水準のサービス提供

⑵工場：工程管理体制構築による品質安定

４．職員定着率の向上

⑴働きやすい職場づくりの推進

⑵皆が活躍できる業務体制の整備

５．障がい者の一般就労・施設外就労の促進

⑴キャンパスKITEの就労・定着サービスを軌道にのせる

⑵施設外就労の更なる拡大

６．地域共生社会実現に向けた活動の推進

⑴赤平市内における地域共生社会実現に向けた業務の推進

⑵地域への公益的取組の促進

７．ＩＣＴの活用推進

⑴法人内の作業効率・質の向上のためＩＣＴ活用の取り組みを進める

⑵ペーパーレスの促進

「理事会・評議員会」

当法人は「北海道光生舎定款」、「理事会運営規程」及び「評議員会運営規程」等の規程に基づき、理事会並びに評議員会の適正な運営に努めることとしている。

令和４年度は、定時評議員会を１回、理事会を年５回開催する予定とし、その他に審議・決議が必要な議案が発生した場合には、随時開催する。なお、建設工事請負や物品購入等に係る施設設備整備については、「経理規程」に基づき、購入予算金額が基準金額を超える事業案件の実施について理事会にて決議する。

定時監事監査は６月に開催し、その他随時実施する。

＜開催予定月と予定議案等＞

開催月	理事会 評議員会	主な予定議案
６月	理事会	令和３年度事業報告及び計算書類並びに財産目録について 評議員会の日時及び場所並びに議題・議案の決定について 定例報告 ほか
６月	評議員会	令和３年度事業報告及び計算書類並びに財産目録の承認について 定例報告　ほか
９月	理事会	理事長及び業務執行理事の職務執行状況報告 定例報告 ほか
１１月	理事会	上半期事業実績状況報告について 定例報告 ほか
１月	理事会	定例報告 ほか
３月	理事会	決算見込(報告)と新年度事業計画及び収支予算の承認について 理事長及び業務執行理事の職務執行状況報告 定例報告 ほか

※施設設備整備計画は、随時審議

※その他、定款及び理事会運営規程、評議員会運営規程に定める事項

※定例報告：理事長・副理事長・常務理事・担当理事の職務執行状況報告、事業実績及び資金繰り、運営状況報告ほか

「委員会活動」

委員会名	赤平圏	札幌圏	備　考
リスクマネジメントおよび コンプライアンス推進委員会	○		必要に応じて所長会議内で開催
防災対策・感染予防委員会	○	○	火災予防、交通安全、健康管理・増進含む
広報(HP)委員会	○		舎内報作成、ＨＰ更新
虐待・身体拘束防止委員会	○	○	
ヒヤリハット委員会	○	○	事故再発防止含む
５Ｓ推進委員会	○	○	
研修プログラム委員会	○		ホスピタリティ研修、光生舎職員研修会企画・運営
労働安全衛生委員会	○		安全管理、長時間労働抑制
地域貢献推進委員会	○		公益的取組の推進

◎法人委員会の取り組みを通して各事業所内委員会の活動を活性化させる

「定例会議」

会議名	実施頻度	役割・内容
所長会議	月１回	法人内における重要事項の検討・決議
厚生会議	月１回	利用者支援に関わる報告・検討
給食会議	月１回	食事提供に関わる報告・検討
経営報告会	月１回	各施設・工場からの経営状況報告
工場長会議	月１回	工場体制の改善を目的とした会議
幹部会	週２回	法人内情報共有および協議・勉強の場
Ｄ幹部会	月２回	次席の法人内情報共有および勉強の場

「実務者会議」

会議名	赤平圏	札幌圏	備　考
採用定着会議	○		１０月～９月任期
入所検討会議	○		新規受入・移動検討
新規利用者確保会議	○		利用者確保ＰＲ活動関係

「教育・研修」

研修名	期　間	研修名	期　間
新入舎員研修(大卒)	5月～10月	職員研修会	3月
サンキュウ研修	5月～10月	ＰＬ研修	４月～翌３月
管理者養成研修	令和２年６月～ 令和４年９月	基礎学力研修	４月～翌３月
中途採用者研修	７月～翌３月	損益勉強会	４月～翌３月
ホスピタリティ(伝達)研修	11月		

◎上記の他必要に応じて随時教育・研修を実施する

「プロジェクト活動」

プロジェクト名	活動内容	期　間
地域共生社会実現ＰＪ	赤平市内においてネットワークを構築し、地域共生社会実現に向けた拠点をつくり、新たなサービスを開始する	令和３年２月～ 令和５年３月
ペーパーレス推進ＰＪ	法人内で使用している紙の書類を極力電子化して、業務の質と効率を向上させる。データの保存方法の改善と有効活用の促進。	令和３年９月～ 令和５年３月

◎上記の他必要に応じてプロジェクトを発足・実行する

「財務部経営計画」

〈基本目的〉

１．財務状況の安定化と信頼を得るための健全化
２．将来を見据えた財務計画と資金運用
３．事業に必要な資金の調達と返済

〈基本方針〉

１．経常増減差額の黒字化（令和２年△439,852千円）
２．自己資本比率40%以上（令和４年1月:34%）
３．流動比率150%以上（令和４年1月:137%）

〈キーワード〉

『 財務基盤の健全化 』

〈重点事項〉

１．コロナによる財務基盤のダメージの回復
２．今後５か年は多額の投資は行わない(令和３年より)
３．法人の経常増減差額を黒字化する
４．投資効果の確認と確実な資金回収
５．低利での資金調達に努める
６．遊休資産の洗い出しと処分

〈実施事項〉

１．資金管理
　(1)銀行借り入れ及び割賦リースによる資金調達
　(2)調達した資金の運用管理
　(3)資金繰り予定と実績管理
２．銀行などの金融機関や格付け機関への対応
３．財務管理(財務計画・財務統制・投資活動の修正)
４．先行管理で安定したキャッシュフローを図る
５．設備投資に対して財務視点による経営層への助言

「経理部経営計画」

〈基本目的〉

１．法令、規範を順守し、明瞭で透明な経営を支える
２．経営状況を正確に把握し、的確な経営判断をするための情報を提供する
３．正確でかつスピードある行動で舎内および取引先との信頼関係を構築する

〈基本方針〉

１．舎全体のデスクワーク効率の向上のため、知識・技術を発信・伝達する
※各事務員が効率化すると支援をする時間が増えるため
２．真実性・明瞭性の原則に則した業務行う
※監査時に正しい計算書類を提出するため
３．正確かつ安全に業務を進めるため、計画期日を設定して業務を進める。
また計画が失敗した場合は必ず分析し次に繋げる
※より良くするため失敗は大切な情報源のため

〈キーワード〉

『 より少なく、しかしより良く 』

〈重点事項〉

１．みんなが分かり易い管理会計の構築
２．業務効率化と正確性の両立
３．部内の情報共有と他部署への情報発信の明確化

〈重点事項の詳細〉

１．みんなが分かり易い管理会計の構築
⑴予算シート改良
⑵月次事業活動計算書改良

２．業務効率化と正確性の両立
⑴経理の生産性向上のため、OCR・RPAの活用拡大
⑵資料の効率的な整理と保管

※効率的とは、正確性・速度・真実性の３つが最大になる状態を言う

⑶より効率的な作業手順への見直し

３．部内の情報共有と他部署への情報発信の明確化

⑴全舎のレベルアップのため、OCR・RPAの勉強会

⑵DX化に伴い各種ルールの見直しと周知

⑶より効率的コミュニケーションの仕組み作り

〈具体的計画の詳細〉

１．みんなが分かり易い管理会計の構築

⑴予算シート改良

・エクセルの機能を最大限に活用し、集計を簡単にする

・予算を作成する人が作りやすい様式する

・定型的な入力は自動化する

⑵月次活動計算書改良

・予算と連動する

・色やグラフを使用し分析をしやすくする

・MJSの元帳と連動させる

２．業務効率化と正確性の両立

⑴経理の生産性向上のため、OCR・RPAの活用拡大

・OCR・RPAを活用して給付費・エラー解除処理を効率的にする

⑵資料の効率的な整理と保管

・共有フォルダを整理し資料を探しやすくする

・登記資料を整理し資料を探しやすくする

⑶より効率的な作業手順への見直し

・MJS更新に伴う新機能(AI監査)の活用で伝票及び帳票のチェックの時間削減

・発注伺いと新規取引先に関するマニュアル作成し配布する

３．部内の情報共有と他部署への情報発信の明確化

⑴全舎のレベルアップのため、OCR・RPAの勉強会

・OCR・RPA・エクセルの勉強(部内)及び部外への活用事例や使い方の周知

・MJS操作の情報を共有そして定着させる

⑵DX化に伴い各種ルールの見直しと周知

・インボイス制度に伴い請求書等の様式変更の周知

・電子帳簿保存法に伴い請求書等の取り扱いについての勉強会を行う

⑶より効率的なコミュニケーション作り

・伝えにくい情報を効率的に伝えるためにコミュニケーション能力向上の仕組み作りをする

４．業務計画

⑴監査対応

①決算監査

②中間監査

③期末監査

⑵決算

①月次決算

②年度決算

③ダイアパーリースの決算

⑶予算策定

①当初予算の策定

②更正予算の策定

⑷出納管理

①施設小口現金の確認、実査

⑸利用者預り金・貴重品管理

①利用者預り金：毎日の出納処理・月次更新

②貴重品管理：年２～３回貴重品実査

⑹請求支払処理

①支払業務：取引先からの請求書金額のチェック・支払

②他支払業務：銀行口座引落分・個別支払分・現金支払分

⑺固定資産管理

①減価償却システムへの固定資産登録

②会計システムと減価償却システムの残高確認

③償却資産申告書作成

④機械、備品の管理方法の整備及び管理

⑻保険金請求業務

①建物火災保険請求

②機械等保険請求
③各種契約手続き
⑼補助金申請業務
①各種補助金申請

５．環境整備
⑴書類整理
①過年度資料の廃棄
⑵データ管理
①計算書類のＰＤＦ化
②保管データの整理

６．部門連携
⑴法人・本舎施設委員会活動
①防災対策感染予防委員会
②虐待身体拘束防止委員会
③５S推進委員会
④地域貢献推進委員会
⑵事務所活動委員会
①カイゼン活動委員会
②セルフチェック委員会
③５S推進委員会
⑶本舎施設との連携
①リネン繁忙期応援
②行事の引率

７．知識の向上
⑴担当者に合わせた研修への参加
⑵資格の取得

〈設備計画〉

（税込）

No.	実施月	設　備　名	台数	設　備　予　算	設　備　目　的
1	4月	ハンディスキャナー	1	20,000 円	OCR 作業効率化
2	9月	OKI プリンター	1	44,000 円	会計士監査用更新
3	9月	NEC プリンター	1	82,500 円	会計課用プリンター
4	9月	ヘッドセット	17	51,000 円	コミュニケーション効率化
			計	197,500 円	

「管理部情報システム課経営計画」

〈基本目的〉

１．IT化を推進し、業務の効率を高める
２．IT戦略、システム企画の実施、提案をする
３．システム、IT機器の適切な保守・運用を行い、安全で安定した作業環境を維持する

〈基本方針〉

１．ICT推進チームと連携し、効果的なシステムを導入する
２．K.K.情報システム課と連携し、システムの構築、再編成を行う
３．システムの運用支援、及び、問合せ、トラブルに対応し円滑なサポート体制を構築する

〈キーワード〉

『 デジタル化の推進・アナログからの脱却 』

〈重点事項〉

１．ICT推進
２．文書の電子化、データの活用
３．新システムの構築、移行

〈実施事項〉

１．ICTの活用推進
　⑴舎内無線LAN環境の整備
　⑵ICT推進WTと連携し、機器やシステムの検討、導入
　　①タブレット、スマホ等の情報通信端末の検討
　　②システム、アプリの調査、選定

２．書類の電子化
　⑴eValueNS文書管理システム、ワークフローの有効活用
　⑵Edge Trackerの導入
　　①給与明細を端末から閲覧
　　②年末調整申告の電子化推進
　⑶電子契約システムの導入
　⑷共有フォルダの整備

⑸データの有効活用

３．リスク管理、セキュリティの強化
⑴サーバ、業務システムのバックアップ
⑵サーバ、パソコンのWindows Update
⑶セキュリティに関する取組と情報提供

４．新システムの構築、移行
⑴ホームクリーニングシステムの構築
①毛皮、皮革台帳管理
②修理台帳管理
③和服台帳管理
④高級洋服台帳管理
⑤弁償保険請求管理
⑵K.K.情報システム課との連携
⑶既存システムの現状把握、解析
⑷移行用データ作成

5．コンピュータ関連機器の設定
⑴パソコンのセットアップ、設定変更、再インストール
⑵Windows11の検証
⑶iPad、無線LANの設定

６．Web会議の充実
⑴WebEX、Zoomを活用したオンライン会議の推進

７．業務システムの保守、運用支援
⑴ほのぼの福祉業務支援システム
①バージョンアップ
②給付費請求データ作成
③サーバ入替、障害者施設福祉業務支援システムの更新
⑵MJS人事・給与、財務会計システム
①バージョンアップ
②データ取込、連携
③システムの入替、更新
⑶MJS税務システム

①バージョンアップ

(4)クロノス勤怠管理システム

①バージョンアップ

②データ取込、連携

③システムの入替、更新

〈設備計画〉

No.	実施月	設　備　名	台数	設　備　予　算	設　備　目　的
1	４月	ほのぼのサーバ入替	1	5,148,000 円	
2	４月	ほのぼの more システム更新	1	6,465,000 円	
3	11 月	ＭＪＳシステム更新	1	2,404,000 円 使用料(月額)346,280 円	
4	11 月	クロノスシステム更新	1	3,516,000 円 保守料(年額)271,700 円	
			計	17,533,000 円	

「総務部経営計画」

〈基本目的〉
１．法人内の総てをつなぐ架け橋となる
２．誰もが働きやすい環境を提供する
３．中立・公正性を堅持する

〈基本方針〉
１．双方向のコミュニケーションで組織力を強化する
２．従業員満足度の向上を目指す

〈キーワード〉
『 共に考え、実行する 』

〈重点事項〉
１．働きやすい環境作り
２．人事管理体制の強化
３．ペーパーレスの推進

〈具体的取り組み〉
１．働きやすい環境作り
法改正や社会環境・経営環境の変化に対応した適切な見直しのもと規程規則を運用し、従業員が「働く喜び」を感じられる制度の拡充を検討する。また多様な働き方を推進する上で、受入側の理解促進に向けた取り組みを強化する。
⑴規程、就業規則の見直し
①働く喜び、働きがいに繋がる規程の検討・提案
・従業員満足度アンケート結果の分析・活用
②育児・介護休業法改正への対応
⑵多様な働き方への理解促進
①部門独自の対応・取り組み調査
・部門間格差の有無確認
・水平展開、規程化の検討・提案
②動画セミナーの配信

２．人事管理体制の強化
人材採用・定着の仕組みを拡充させるとともに、教育・研修を人事課で所管し一貫性のある継続的な活動の基盤を構築する。

⑴定着率向上に向けた取り組み
①紹介報奨制度の活用促進
②メンターと人事課の連携強化
⑵法人内研修の体系化
①基本プログラム運用による基盤構築
・新入舎員研修
・サンキュウ研修
・クロストレーニング制度

３．ペーパーレスの推進
ｅ文書法等に即し紙媒体文書・資料の電子化を促進する。電子化によりデータとしての活用度を向上させ、業務効率化、コスト削減、省スペース化を図る。
⑴MJS給与明細参照の運用
①給与明細書
②賞与明細書
③源泉徴収票参照
④社会保険通知書
⑵年末調整電子申告の導入準備
①電子申請動画マニュアル作成
②各部事務員向け説明会
③従業員向け説明会
⑶電子申請への移行
①社会保険関係
②雇用保険関係
⑷内部書類の電子化
①電子署名の活用検討
・雇用⑵嘱託⑵契約書
・同意書
・その他、署名が必要な書類
⑸SNSの活用
①舎内通知文書

４．部内研修の実施
外部研修への参加、伝達研修、部内研修を実施し、総務業務及び施設職員としての知識・スキル向上を目指す。
⑴外部研修への参加
⑵外部研修の伝達
⑶テーマ別研修

〈設備計画〉

No.	実施月	設　備　名	台数	設　備　予　算	設　備　目　的
1	4月	Edge　Tracker 給与明細参照導入	1	165,000円 使用料33,880円/月額	ペーパーレス、業務効率化
2	6月	マイナビEXPO夏の陣	1	300,000円	23卒合同企業説明会
3	9月	Edge　Tracker 年末調整申告導入	1	220,000円 使用料22,440円/月額	ペーパーレス、業務効率化
4	10月	ストレスチェック 代行サービス	1	478,522円	実施義務があるため
5	10月	マイナビプレサイト	1	350,000円	24卒学生募集、企業案内
6	11月	マイナビインターンフェア秋	1	300,000円	24卒合同企業説明会
7	12月 ～3月	除雪(本舎・若木GH他)	1	1,430,000円	冬期間除雪業務委託
8	1月 ～2月	排雪（本舎・若木GH他)	1	1,026,300円	排雪業務委託
9	3月	マイナビ基本パッケージ	1	1,440,000円	24卒学生募集、企業案内
10	3月	マイナビEXPO	1	450,000円	24卒合同企業説明会
			計	6,159,822円	

「本舎施設経営計画」

〈基本理念〉

本舎施設は、「先進的」「創造的」な運営で利用者の意向を尊重し、「働く・くらす」を支援する総合的なサービスを提供する場である。

〈基本目的〉

1．利用者が安全に安心して生活できる支援を行う。
2．利用者個々の状態や意向に合った働く場の提供・支援を行う。
3．「生きがい」・「やりがい」・「楽しみ」を提供する。

〈基本方針〉

1．常に「利用者のためになるか」を考えた支援を行う。
2．本舎各部が協力・連携し、一体となった支援体制を推進する。
3．目的に向かい、行動を積み重ね着実に前進する。

〈キーワード〉

『 QOL ～笑顔のために～ 』

〈重点事項〉

1．利用者の生きがいに向けた支援
2．連携された利用者支援の活性化
3．みんなで一緒にステップアップ

〈実施事項〉

1．利用者と職員が共にレベルアップを目指す。

〈日常生活における質の向上〉

【目的】利用者が満足するサービス立案と提供を行う。

⑴個別支援計画

- 計画内容の充実化
- レーダーチャートを取り入れた計画立案
- 利用者が計画内容を理解できる体系づくり
- 要望を踏まえた支援の確立と実施

⑵生活支援

- 一部利用者の作業工賃の自己管理化
  (工賃収入と生活費支出のシミュレーショや本人説明)

・スマホ使用のルール化と仕組み作り
(作業中の使用、課金、買い物へ使用、SNSへの課題)
・各寮の個室化への取り組みとGH及び地域への移行
・生活面に重点を置いた支援や介護の実施
・高齢者及び重度者への介護内容の見直しと実施
・身体清潔、身だしなみ(衣類、制服、整容)、居室整理支援の充実化

〈作業能力の向上〉
【目的】利用者の能力開発を推進しステップアップを目指す。
(1)施設内支援
・利用者への教育・研修(適材適所の職場体験・配置による職域拡大、ＯＪＴ等教育・研修による育成)
・B型からA型へ移行する仕組み作り
・新規利用者の特性に合わせた配置や短時間作業の実施
(精神疾患者が就労できるプログラムの作成・実施)
・高齢化、体力低下、精神的等に配慮した作業環境の整備
(2)外部就労支援
・施設外就労岡田水産の人数を３名から７名へ増やす
・施設外就労企業として１企業開拓を行う
・一般企業への就労者を２名行う

〈職員能力の向上〉
【目的】施設職員としての基礎知識の習得を目指す。
・職員能力向上チームを発足し教育計画立案(４月～６月)
(施設運営・制度の内容、介護・支援・相談技術的面等)
(各委員会による勉強会の企画、外部講師、WEB等)
・スキルアップを目指した職員教育の実施(７～３月)
・各施設の体験を通じたクロストレーニングの実施
(介護、支援、職場等)

２．施設内委員会活動
【目的】活動を活発化させ、施設機能としての充実化を図る。
(1)感染予防・防災対策委員会

〔感染予防〕
①新型コロナウイルスの予防対策と感染時対応の訓練
②熱中症予防対策
③講習・啓発活動
〔防災対策〕
①定期的な火災訓練と自然災害訓練の実施
②備蓄品の管理(備蓄品の期限の更新と活用)

⑵虐待・身体拘束防止委員会
①セルフチェックによる支援内容の確認
②虐待・権利擁護に関わる勉強会の実施
③虐待防止啓蒙活動

⑶ヒヤリハット委員会
①危険発見活動、ヒヤリハット活動の強化
②事故報告の徹底と検証活動
③安全対策、業務見直し、マニュアル化の推進
④勉強会の実施

３．施設運営

【目的】運営基準に沿った配置・書類・設備を点検する。
①監査書類の整備
②適正配置、適正人員の確保
③施設基準項目・加算項目の管理
④施設基準内容勉強会
⑤監査対応を熟知した職員の育成

４．食事提供

【目的】利用者の栄養面、健康面を形成した食事の提供体制強化。

⑴利用者と支援員参加による給食会議の開催
①要望を取り入れた楽しさあふれる行事食の提供
②年１回の嗜好調査
③利用者の身体状況に合わせた食事提供

⑵感染症や災害時でも対応できる非常食の整備

⑶栄養士増員による栄養士業務の見直しと業務効率化

⑷献立システムの入れ替え(4月：月額13,000円)

５．施設・利用者主体行事

【目的】利用者が主体となり、生きがいや楽しみとなる行事を実施。

(1)年間行事・予算

実施月	内　　容	金　　額	備　　考
４月	映画鑑賞会(リネン工場)	１０，０００円	利用者主体行事
６月	プロ野球観戦	５０，０００円	施設行事
７月	空知知的ソフトボール大会 赤平市身障協会パークゴルフ大会 光生舎夏まつり	５０，０００円 １０，０００円 ５０，０００円	スポーツ大会行事 スポーツ大会行事 施設行事
８月	大相撲観戦 赤平マラニック	５０，０００円 ３０，０００円	施設行事 スポーツ大会行事
９月	空知知的パークゴルフ大会	７０，０００円	スポーツ大会行事
10月	空知知的卓球大会 赤平市身障協会ボッチャ大会	３０，０００円 １０，０００円	スポーツ大会行事 スポーツ大会行事
11月	ボウリング大会 サッカー観戦	１５０，０００円 ５０，０００円	利用者主体行事 施設行事
12月	赤い羽根ティーボール大会 クリスマス会	６０，０００円 １，０００，０００円	スポーツ大会行事 施設行事
１月	ゲーム大会	３０，０００円	利用者主体行事
２月	バスケット観戦 映画鑑賞会(ホーム工場)	５０，０００円 １０，０００円	施設行事 利用者主体行事
	小　　計	１，７１０，０００円	
	利用者個別対応行事		
	5,000×200人	１，０００，０００円	
	合　　計	２，７１０，０００円	

(2)コロナウイルス感染状況により、行事を縮小する場合は、施設内での代替行事を企画し提供する。

(3)趣味的な活動(習字、絵画、スキー、写真、Ｅスポーツなど)小グループによる個別行事や同好会活動を企画する。

〈設備計画〉

No	実施月	設　備　名	台数	設備予算	設備目的
1	6月	ワーク給湯タンク配管工事	1	1,500,000 円	配管老朽化工事
2	6月	エルム火災警報装置修繕	1	1,400,000 円	雷による故障復旧
3	5月	食器購入	1	600,000 円	消耗、不足品購入
4	7月	エルム玄関ホール修繕	1	500,000 円	床修繕、壁天井塗装
5	8月	寮母寝具搬送台車	1	170,000 円	各寮搬送台車
			計	4,170,000 円	

「厚生部経営計画」

〈基本理念〉

支援・介護サービス、事務業務について、内容が適切であるかどうかを検証し、日々の利用者ニーズや制度に合わせた内容に変化させ、利用者支援の充実化を目指す。

〈基本目的〉

１．個別の状況に合わせた総合的な支援を実施する。

〈基本方針〉

１．利用者の意向を踏まえ、本人のためになるかを考え支援する。
２．部内オープンで協力・連携をする。
３．計画に基づいた一体的な支援をする。

〈キーワード〉

『 ためになる 』

〈重点事項〉

１．個別支援計画に基づいた支援
２．利用者支援に関わる体制強化
３．ルールの徹底と実行

〈具体的支援の詳細〉

１．施設サービス

目的：利用者のニーズに合ったサービス計画を立て、充実した施設生活や就労支援を実施する。

(1)個別支援計画の充実化

①生活・作業支援員、看護師、栄養士、家族、相談支援事業所ていくと協力し、計画作成に関わる連携を継続する。

②個別支援計画に基づいた支援

・みんなでと～くを活用し利用者のニーズの確認を行う。
・ニーズに対し支援員、看護師、栄養士、作業支援員等が検討を行い、効果的なサービスを実施する

・計画の内容のフィードバックの継続をし、検討を重ねながら適切なサービス提供を行う。

③レーダーチャートの個別支援計画への導入

・作業状況、生活状況をチャート化しどのようなサービスが必要なのか検討し、個々に合わせた支援を行う。

⑵生活介護

①筋力維持の為のリハビリや創作活動の機会を提供する。

②口腔ケアの強化と嚥下体操の実施をする。

③季節に応じた外出レクと買物支援を行う。

④利用者の状況認識や情報共有を行い、統一されたケアを実施する。

⑤研修会の参加や部内勉強会を開き介護知識・介護技術の向上を目指す。

⑶生活支援

①相談対応を行ない課題解決に向け、各部門との連携や情報交換を行う。

②利用者の自立生活に必要な基礎知識の習得。

・１日の生活リズムへの取り組み
(起床、入浴、整容、清潔などの日常生活支援)

・居室内の衣類、生活品の整理・整頓・清掃の強化

③金銭自己管理への取り組み(一部利用者)

・工賃を自己管理し収入内で生活できるよう支援する。

・工賃収入と生活支出をシュミレーションし個々の利用者へ内容説明を行う。

・工賃については銀行口座を利用し自己管理する。

・年金については施設管理とし、利用料支払い旅行など日常生活以外で使用する。

④スマートフォンの適正な使用説明の実施と課題対応

・動画、写真などの取り扱い方法

・利用者間、友人間のＬＩＮＥなどＳＮＳの使用方法

・課金に関わる収支バランスの説明と金銭管理

⑤エルム・ソーイング、ワークショップの個室化に向け、居室変更や施設異動を実施する。

⑷看護支援

①4 人体制での業務の変更。

(ワークに１名配置しリハビリ、介護内容の強化)
②糖尿・高脂血症者の栄養指導(栄養士も含む)/勉強会
③機能訓練・嚥下体操の実施
④月１回看護師ミーティングの開催

⑸食事提供
①栄養士が変更となる為、各施設の特色を理解、把握し新たな業務を確立する。
②利用者が参加する月１回の給食委員会、年１回の嗜好調査を実施し、好みを活かした食事提供を行う。
③屋外や外食も視野に入れた豊かな会食を実施する。
・バイキング会食　・ホットプレート会食　・利用者参加型の会食・お寿司会食　・飲食店への外食。
④看護師、栄養士、支援員、介護員による月１回の給食運営会議を設け、利用者の身体状況・病状や咀嚼・嚥下状況に合わせた、制限食・刻み食などを提供する。

⑹作業支援
①出勤に向けた各寮での支援の実施。
②レーダーチャートを活用、本人に合わせたサービス変更
(就労支援Ｂ型→就労支援Ａ型→就労移行支援→一般就労)
③ハローワークとの連携強化
(Ａ型利用者の充足・一般就労希望者への勤務先選定)
④岡田水産での施設外就労の充足(７名までの加入)
⑤一般就労者輩出への取り組みとフォローの実施
⑥積極的な施設外実習の実施
⑦就労定着に向けた支援の実施

⑺ヒヤリハット・事故の対応
①ヒヤリハット提出件数アップと、事故報告書の提出・報告を徹底する。
②危険発見活動、リスクアセスメント巡視等活動を促進し、事故原因の究明と対策を検討する。
③重大事故発生時には、緊急ヒヤリハットミーティングを開催し検討・対応を行なう。
④月１回ヒヤリハットミーティングの継続、より充実し検討や情報共有の実施

２．施設利用

目的：利用者の身体能力や病状などに合わせた適切なサービスを提供する。

⑴施設サービスの変更

①高齢化・精神病状などで他施設への施設異動を実施する。

②ワーク支援会議、厚生部 MT、個別支援会議で決定する。

⑵グループホームの利用

①自立訓練や GH 体験利用など地域生活移行を促進する。

⑶行事対応

①本舎施設年間行事予定を元に準備を実施する。

②コロナ禍での行事変更は施設内で楽しめる行事を実施。

３．衛生管理の徹底

目的：生活環境の充実と見せられる職場づくりを行う。

⑴居室２Ｓの推進

①毎朝の居室の整理・整頓等ベッド回りを強化。

②居室について、「いる物」と「いらない物」を区別し、古い物・使用していない衣類は自宅に送るか処分する。

⑵感染予防対策

①食事前外出後の「手洗い」「うがい」の徹底。

②外出時のマスク着用。感染状況による外出制限。

③利用者への感染予防講習の実施と感染症の発症に備え、実践講習を実施。

⑶３Ｓの日常化

①毎月、巡視を行い指摘箇所の改善をする。

②担当箇所をそれぞれ決め毎週確認を行う。

③安全・快適な職場を目指し、一人一人の意識を高める。

④共有スペースの整理整頓で仕事力を高める。

４．勉強会実施と職員向上

目的：個々の能力を向上させ、効率性と協力体系を高める。

⑴職員勉強会の実施

①勉強会 WT を設置し、月１回部内勉強会や朝夕の MT でのミニ勉強会を実施する

・利用者の障害・病状・薬の効能の理解、不良時の対応

や緊急時の対処方法など、基本的な医療面を学ぶ。
・介護の習得として、基本的な介護技術を学ぶ。
・障害支援施設の運営・管理方法等、制度面を学ぶ。
・在籍年数に応じた仕事習得し仕事の効率化取り組む。
②厚生部内の知識だけではなくクロストレーニングを実施。

⑵厚生部体制の変更
①クリーナース、ワークショップ、エルム・ソーイングに職員を配置。作業効率化とサービス向上を行う。
②週１回厚生部ミーティングを実施し、業務の状況や情報の共有化を図り、業務の円滑化を行う。
③コロナ禍での業務停滞防防止のため、請求業務、勤怠業務などが出来る担当者を数名配置する。
④支援業務、事務業務担当を分け実施する。

⑶監査への対応
①規定に沿った書類整備に年１回自己点検を実施する。
②毎月人員基準を確認する。
③毎月加算や基本単価に関わる条件内容を確認する。

５．利用者確保

目的：本舎施設の定員充足を目指した営業活動を行う。

⑴近隣の高等養護学校訪問の実施し、実習生や父母などの見学受け入れを積極的に行う。

⑵就労移行支援Ａ型等受け入れの為、ハローワークへの訪問や自治体への訪問営業を行う。

「ケアホームメイプル経営計画」

〈基本目的〉

１．利用者が安全に安心して暮らせる住まいの場を提供する
２．利用者が地域で可能な限り自立した生活を送れるよう必要な支援を行う
３．働きながら暮らす利用者の地域生活を支援するよう、個々のニーズに応じた計画と目標に沿った支援を行う

〈基本方針〉

１．利用者と家族へ安全と安心を提供する
２．常に利用者がより自立度の高い生活を送る為の支援を提供する
３．個々のニーズ・能力に応じた生活支援環境を整える
４．職員の支援体制向上に努め、必要かつ適切なサービスを提供する

〈キーワード〉

『 自己実現 ～堅実にステップアップ～ 』

〈重点事項〉

１．安定した生活基盤のための個別支援
２．GH から一般住居生活への移行
３．新 GH 開設と新体制移行後の体制整備

〈重点事項の詳細〉

１．安定した生活基盤のための個別支援
⑴個々の生活課題やニーズに合わせ、計画に基づき地域自立生活に必要な力が身に付くように支援する
⑵収支バランスを欠く利用者への金銭管理支援を推進し、将来に亘って堅実な生活を送れるよう基盤を整える
⑶次期 GH 用中古住宅物件(2 棟)の確保

２．GH から一般住居生活への移行
⑴GH から次の生活の場(民間住宅等の活用)への移行(2 名)
⑵将来一般住居生活移行を希望するＧＨ利用者に対して、段階的なステップアップができる支援体制の確立
⑶一般就労および一般住居生活に移行し、サービス利用終了となる利用者へのフォローアップおよびバックアップ体制の検討と確立

３．新 GH 開設と新体制移行後の体制整備

⑴新百戸 GH(4 名/旧蒲原邸)開設(10 月)、中古住宅活用 GH を改修(10 月)し、自立訓練・就労移行支援終了の利用者およびメディック入所から GH 移行利用者を受入れる

⑵１事業所体制(CH メイプル 102 名)から２事業所体制(錦町 泉町 若木町の本舎エリア、百戸町のメディックエリア)への 10 月移行を目指し、メディックと連携し準備を進める

⑶地域ニーズの高い日中および夜間を通じ人員配置された手厚い支援体制の GH 設置について検討する

４．その他取り組み内容

⑴新型コロナウイルス等、感染予防対策の徹底

⑵外部研修参加が困難な状況下において、Web 参加による各種研修(虐待防止・感染予防等)参加を推進し、職員の資質向上に努める

⑶本舎委員会活動と連携した、防災・感染予防、５S 推進、ヒヤリハット活動の推進

５．各種研修計画

・GH 世話人向けに GH 利用者の日中作業見学を実施
・GH 世話人向けにお掃除講習会(ハウスクリーニング講師)
・赤平 GH 世話人と札幌 GH 世話人との意見交換会を開催
・他法人共同生活援助事業所 見学会の実施
・職員向けに福祉サービス制度および対人援助技術の研修会を開催
・GH 移行予定利用者向けに GH 体験入居を実施
・GH 利用者向けに世話人と支援員を交えた各種日常生活課題に対する勉強会を開催

〈設備計画〉

No.	実施月	設　備　名	台数	設　備　予　算	設　備　目　的
1	７月	百戸町中古住宅ＧＨ改修	一式	3,000,000 円	メディック GH1 棟増設
2	１０月	錦町旧皆口邸ＧＨ改修	一式	3,000,000 円	錦町ＧＨ1 棟増設
3	７月	屋根塗装(アイリス)	１式	500,000 円	経年劣化メンテナンス
4	７月	屋根・外壁塗装(ハピネス)	１式	1,000,000 円	経年劣化メンテナンス
			計	7,500,000 円	

「ホームクリーニング工場経営計画」

〈基本目的〉
１．働く人に、安心・安全な職場を提供する
２．ホームクリーニングの技術習得への職業支援をする
３．時代のニーズに合わせ、専門的な知識と技術によるホームクリーニングを行う

〈基本方針〉
１．働く人の目線に立って、危険個所の改善に努める
２．利用者ひとりひとりに合った作業と、適切な職場配置を提供する
３．知識の習得と技術の継承の機会を設ける
４．時代の変化を捉えた商品を開発し提供し続ける
５．日々の喜びや苦労を分かち合える職場環境の形成に努める

〈キーワード〉
『 片手で錐が揉めぬなら、我らで揉んでみせまshow！ 』

〈重点事項〉
１．職場環境の整備・保全・活用
２．経費抑制活動
３．工場内研修の実施
４．事業体連携

〈具体的取組〉
１．職場環境の整備・保全・活用
⑴定期点検
・年間の機械破損状況表の活用
・メンテナンスカレンダーの運用
・部品管理の見える化
⑵職場の安全活動
・危険発見活動の仕組みづくり
・リクアセスメント巡視
・リスクアセスメントオリジナル
・ヒヤリハット勉強会の実施
⑶５Ｓ活動強化
・定期清掃の仕組みづくり
・老朽化、経年劣化箇所の発見と修繕
⑷設備の有効活用
・光生舎保管庫とライト保管庫の運用
・工場動線の見直し

２．経費抑制活動

⑴アンダー25PJ

・生産直接経費 25%以下にする

⑵稼働体制見直しによる生産性向上

・入荷物量に合わせた工場稼働日の設定

・班体制の見直し

・利用者稼働時間の確保

３．工場内研修の実施

⑴利用者を対象とした研修

①道徳とクリーニング知識を学ぶ

・読書、読み聞かせ　年６回、20 分/１回

②能力開発

・他部門見学と実習　年２回、１時間/１回

⑵一般者を対象とした研修

①生産性向上と品質安定

・技能講習と勉強会　年２回、30 分/1 回

⑶職員を対象とした研修

①クリーニング技術と知識向上

・技能講習と勉強会　年２回、30 分/1 回

②仕事観、リーダーシップ研修

・読書、読み聞かせ　年 12 回、20 分/1 回

・外部、WEB 研修への参加　年 1～2 回

４．事業体連携

⑴協議会、運営会議の活性化

①課題の発見と解決策への取り組み

・生販共同によるものづくり

②組織連携体制強化

・組織を超えた連携体制づくり

⑵生産性向上と品質安定への取り組み

①生産性向上

②品質安定

⑶職員資質の向上

①クリーニングのプロフェッショナルへ

・クリーニング好き好き PJ

・知識と技術の向上

②仕事観、リーダーシップ研修

・肥え掛け図鑑 PJ

・スマイルラビット PJ

〈設備計画〉

No.	実施月	設　備　名	台数	設　備　予　算	設　備　目　的
1	4	水分測定器	1	130,000 円	劣化による購入
2	7	台車	7	210,000 円	劣化による入替
3	6	消防防火扉	1	150,000 円	設備
4	6	エアコン室外機修繕	1	800,000 円	修繕
5	12	ドライフィニッシャー修繕	1	600,000 円	修繕
6	5	排水処理ブロア分解整備	1	260,000 円	整備
7	5	エアコン修繕	1	6,500,000 円	修繕
8	10	配管・バルブ交換	1	300,000 円	修繕
9	7	フィニッシャーラジエータ交換	1	500,000 円	修繕
10	8	ドライ機保守点検	2	300,000 円	修繕
11	5	屋外配線修理	1	1,080,000 円	修繕
12	11	ボイラ年次点検(1.2)	2	220,000 円	保守
13	11	消防設備点検	1	260,000 円	保守
14	1	ボイラ年次点検	1	389,000 円	保守
15	6	会議室作成	1	400,000 円	設備
			計	12,099,000 円	

「赤平リネンサプライ工場経営計画」

〈基本目的・理念〉

１．お客様に満足して頂けるサービスを提供し、お客様の要望には迅速かつ正確に対応する
２．利用者が安心、安全で楽しく働ける職場環境を作り、利用者の作業能力向上と自立を目標とした作業支援を行う
３．リネンサプライ工場は、業界や北海道発展に参画し、リネンサプライを通じて地域の経済発展に貢献する

〈基本方針〉

１．工場の職場環境の整備に努め、常に清潔・安定品質な製品をお客様に提供する
２．お客様の考えを大切にし、営業と共にお客様ニーズに対応する
３．利用者の能力を把握し、長所を伸ばし利用者の自立を目標とした仕事に向かう姿勢作りの支援を行う
４．従業員が長く働ける職場環境づくり、生産システムの構築
５．工場が持つ技術・設備・人を効率的に活用し、北海道の観光市場のニーズに合った工場運営の追求

〈キーワード〉

『 Ｈ（ほう）・Ｒ（れん）・Ｓ（そう） ～ ﾊｲｸｵﾘﾃｨ・ﾘｱﾗｲｽﾞ・ｾｰﾌﾃｨ ～ 』

〈重点事項〉

１．安定品質
２．生産性向上
３．利用者職域拡大
４．職員の質向上

〈具体的取組〉

１．安定品質
　⑴不良リネン返品率削減
　⑵出荷ミス削減に対する活動

２．生産性向上
(1)オリジナルリネンの共通化
(2)機械保守点検の活性化
(3)汚品分別回収推進

３．利用者職域拡大
(1)利用者の主要部門への配置、職域拡大
(2)高齢利用者用の軽作業新設

４．職員の質向上
(1)内部研修委員会の発足
(2)内部研修実施(年４回)

〈設備計画〉

No.	実施月	設　備　名	台数	設　備　予　算	設　備　目　的
1		新工場東面外壁改修工事		8,730,000円	雨漏り、腐食防止
2		事務所スライドドア		409,200円	車椅子出入改善
3		結束機２台		948,000円	老朽化
4		コンプレッサー年次点検		890,000円	過去2年見送り
5		排水処理ブロア分解整備		526,220円	老朽化
6		1号ロールヒートベルト交換		1,500,000円	老朽化
			計	13,003,420円	

〈リネン設備〉

No.	実施月	設　備　名	台数	設　備　予　算	設　備　目　的
1		リネン購入		55,603,000 円	廃棄補充
2		リネン購入		4,200,000 円	新規・変更
			計	59,803,000 円	

「地域福祉ターミナルていく経営計画」

〈基本目的〉
１．利用児者と家族の幸せな生活を支える
２．地域に頼られる事業所となる

〈基本方針〉
１．利用児者と家族に温かい心で接し支援する
２．地域貢献活動を積極的に行う

〈キーワード〉
『Ｗｉｔｈ』
利用者さんの幸せのために、みんなで一緒にやっていこう！

〈重点事項〉
１．働きやすい職場環境
２．人財育成
３．活動による連携体制

〈重点事項の詳細〉
１．働きやすい職場環境
目的：風通しの良い職場環境をつくる
⑴職場内アンケート調査の実施
・セルフチェック内部委員会の発足
⑵働き方改革による有給年５日以上の取得
⑶子育て支援制度の推進
⑷メンタルケア実施
・うつチェック：月１回
・ストレスチェック：年２回
⑸改善活動の推進
・改善評価会議の実施：月１回

２．人財育成
目的：利用児支援・相談支援の向上
⑴研修会

①事業所内研修の実施(研修計画参照)
②初任者研修の実施(新規職員採用月)
③外部研修参加、伝達研修の開催
・虐待防止研修：赤平１名、芦別１名
・発達障害児研修：赤平１名、芦別１名
・LITALICO 研修参加：芦別
④加算対象研修取得
・強度行動障害研修：相談１名
・精神障害者地域移行研修：相談１名
⑤ふくし講演会の開催
・相談：１回
・きっず：１回

⑵教育
①クロストレーニング実施
・赤平、芦別、さくらんぼ：9～10 月
②放デイ事業所見学
・赤平、芦別、さくらんぼ：９月
③サンキュウ研修参加
④PL 研修参加
⑤中途採用者研修参加

⑶資格取得
①主任相談支援専門員
・相談：１名
②児童発達支援管理者
・基礎研修：芦別１名、実践研修：芦別１名

３．活動による連携体制

⑴法人委員会活動
目的：法人委員会に基づく内部委員会活動の推進
①防災対策・感染予防委員会
②虐待・身体拘束防止委員会
③ヒヤリハット委員会
④5S 推進委員会
⑤広報委員会

⑥地域貢献推進委員会

⑵内部委員会活動

目的：各事業所で連携し協力し合う組織をつくる

①リスク管理内部委員会

構成：相談 1、赤平 1、芦別 1、さくらんぼ 1、託児所 1

〔防災対策・感染予防活動〕

⑺訓練

- 火災避難訓練）消防署の協力を得て実施：年２回
- 災害避難訓練）水害を想定した避難訓練、シェイクアウト：年２回
- 防犯訓練）警察署の協力を得て実施：年１回

⑴感染予防

- 勉強会：年１回
- 手洗いチェッカー使用の手洗い方法徹底
- 嘔吐物処理講習の実施

⑺車両の安全保持

- 車両保守点検：月１回

〔虐待・身体拘束防止活動〕

⑺虐待防止研修会の参加、事業所内伝達研修の実施

〔ヒヤリハット活動〕

⑺危険発見チェックによる事故の未然防止

⑴ヒヤリハット MT による原因究明と対策

②５Ｓ推進内部委員会

構成：相談 1、赤平・託児所 1、芦別 1、さくらんぼ 1

⑺何時でも誰にでも見せらせる事業所づくり

⑴事業所内不定期巡視の実施

③地域貢献推進内部委員会

構成：相談 1、赤平・託児所 1、芦別・さくらんぼ 1

⑺地域貢献活動の企画・実行

- ふくし講演会：年２回
- 地域食堂協力

・除雪ボランティア参加
・ゴミ拾い活動参加
・ふくしマラニック企画検討
(ｲ)場所の無償貸出し
・きっずダンス、ヨガ教室：スガイノベーション(滝川市)
・健康教室：赤平市健康推進課
・介護福祉士実務者研修：学校法人西野学園(札幌市)
・かえで塾：赤平市社会福祉協議会

④セルフチェック内部委員会
構成：相談 1、赤平・託児所 1、芦別 1、さくらんぼ 1
(ｱ)働きやすい職場環境の推進
(ｲ)職場内アンケート調査の実施
(ｳ)法人内セルフチェックの実施
(ｴ)虐待防止セルフチェックの実施
(ｵ)保護者・事業者評価の実施と公開

(3)PJ・WT 活動
①赤平の地域共生社会を共に考える会：佐藤
②地域共生社会実現 PJ：佐藤
③託児所移転 PJ：佐藤、井下(6 月終了予定)
④不登校児支援 WT：相談 1 名、赤平 2 名
⑤ICT 推進 WT：1 名

〈年間予定〉

実施月	内　　容	事業所	予　算	備　　考
4	きっずていくさくらんぼ開所 そうだんのていく改修工事	さくらんぼ 相談	 500,000 円	4/1 開所式 工期：3～4 日
5	そうだんのていく移転 赤平事業所改修工事	相談 赤平	250,000 円 2,420,000 円	5/1 変更届 工期：3 週間
6	託児所移転	赤平		6/1 変更届
7				
8	ふくし講演会	相談	50,000 円	
9	クロストレーニング	赤平・芦別		
10	クロストレーニング	赤平・芦別		
11	ふくし講演会	赤平・芦別	80,000 円	
12				
1				
2				
3				
		計	3,300,000 円	

〈設備計画〉

№.	実施月	設備名	数量	事業所	設備予算	設備目的
1	4 月	改修工事	1	相談	500,000 円	事業所移転
2	4 月	車輌	1	さくらんぼ	2,600,000 円	送迎車輌
3	4 月	パソコン	3	さくらんぼ	367,000 円	開所
4	4 月	パソコン	4	赤平	400,000 円	更新
5	4 月	パソコン	3	芦別	350,000 円	更新 2 増設 1
6	4 月	プロジェクター	1	相談	100,000 円	備品
7	5 月	改修工事	1	赤平	2,420,000 円	託児所移転
8	10 月	除雪機	1	赤平	600,000 円	除雪
9	10 月	除雪機	1	芦別	600,000 円	除雪
10	10 月	暖房	1	赤平	100,000 円	エントランス
11	10 月	融雪マット	1	赤平	100,000 円	玄関
				計	8,137,000 円	

〈施設内研修計画〉

実施月	事業所	テーマ	目的	担当	時間 予算
4	相談 きっず	法人理解	自法人の理解を深めよう	佐藤	60 分
5	相談	福祉サービスの理解		野島	60 分
	きっず	発達障害勉強会① (講師：西永教授)	発達障害の理解を深めよう	内田 木下	90 分 30 千円
6	相談 きっず 託児所	経営計画と進捗 (託児所合同)	各事業所計画の共有	佐藤	60 分
7	相談	野中式事例検討会(他施設合同)		野島	120 分
	きっず	支援検討会 (支援リフレーミング)	児童に対する見方を変え味方になる	舘	60 分
8	相談	野中式事例検討会(他施設合同)		相談員	120 分
	きっず	子どもと大人の感情コントロール	怒りの上手な表現、対処方法を学ぶ	井下	90 分
9	相談	野中式事例検討会(他施設合同)		池田	120 分
	きっず	発達障害勉強会② (講師：西永教授)	発達障害の理解を深める	舘 野崎	90 分 30 千円
10	相談 きっず 託児所	上半期の振り返りと今後の骨格(託児所合同)	次年度骨格の意見を話し合おう	佐藤	60 分
11	相談	野中式事例検討会(他施設合同)		池田	60 分
	きっず	発達障害勉強会③ (講師：西永教授)	発達障害の理解を深める	井下 小山	90 分 30 千円
12	相談	野中式事例検討会(他施設合同)		相談員	120 分
	きっず	支援検討会 (愛着の基礎知識)	愛着と基礎を学ぶ	内田	60 分
1	相談	野中式事例検討会(他施設合同)		池田	120 分
	きっず	支援検討会 (愛着障害の特徴)	愛着障害への理解を深める	舘	60 分
2	相談 きっず 託児所	次年度経営計画発表 (託児所合同)	共通理解	佐藤	60 分
3	相談	野中式事例検討会(他施設合同)		野島	120 分
	きっず	支援検討会 (愛着障害の支援)	愛着障害への支援方法を学ぶ	井下	60 分

「そうだんのていく経営計画」

〈基本目的〉
１．利用児者と家族の幸せな生活を支える
２．地域に頼られる事業所となる

〈基本方針〉
１．利用児者と家族に温かい心で接し支援する
２．地域貢献活動を積極的に行う

〈キーワード〉
『Ｗｉｔｈ』
利用者さんの幸せのために、みんなで一緒にやっていこう！

〈重点事項〉
１．相談支援の充実
２．地域の相談窓口の設置
３．地域のネットワークづくり

〈重点事項の詳細〉
１．相談支援の充実
目的：関係機関との信頼関係の構築・チーム連携を図り利用者支援の機能を高める
(1)法人内他部署との連携支援
①障害(児者)の相談支援
・本舎：「みんなでとーく」の充実
→厚生部と合同会議の実施
・本舎外施設：面談シートの作成(4 月)
・児童：自宅訪問の開始、きっずていくとの連携
(2)関係者との連携支援
①児童の関係者会議の実行
・学校、事業所、福祉課、保健師、保護者との会議開催
(3)働く環境を整える
①風通しの良い職場をつくる
・職場アンケート実施(セルフチェック内部委員会)
②情報の見える化

・「情報共有・意見交換」の場を設ける
・ミーティングの実施→月～金９：30～9：45
③集中して作成する環境の設定
・土曜日を１人出勤体制とする(毎週)
(4)人財育成
①事業所内研修実施
②資格取得の推進
・主任相談支援専門員研修(佐藤)
・強度行動障害研修(佐藤)
・精神障害者地域移行研修(相談員)
(5)時間を意識する
①10 分前行動をする→会議の時間、相手との約束時間
②提出物は期限２日前に提出する

２．地域の相談窓口の設置
目的：地域の人の困り感を聞き関係機関に繋げる
(1)事業所の移転
(2)よろず相談からの段階的取り組み
(3)福祉情報の提供
①福祉サービス、助成制度、イベント情報

３．地域のネットワークづくり
目的：福祉職で定期的に顔の見える関係性をつくり、利用者支援や新たな社会資源に活かす
(1)ワークショップの開催
①支援者の悩みや困り感を共感する→座談会の開催(年４回)
(2)ふくし講演会の開催
(3)福祉活動への協力
①アイスキャンドル、地域食堂、地域共生等
(4)地域の人の心を豊かにする場をつくる
①趣味や余暇活動の機会を設ける
・ランタンづくり、リース、笑いヨガ、手話等
②地域の人の交流の場をつくる
・写真展、利用児者の作品展等
③子どもの学びの場をつくる
・こども塾の開催、学生のコワーキングスペースの設置等

〈年間計画〉

実施月	内　　容	予　算	備考(担当)
4	物件賃貸契約 改修工事 児童モニタの自宅訪問開始	500,000 円	
5	事業所移転	250,000 円	備品購入
6			
7			
8	ワークショップ① 展示会(児童作品) 関係者会議開始(児童)	5,000 円	福祉職座談会(池田) (野島)
9	強度行動障害研修 主任相談支援専門員研修	40,000 円 50,000 円	(佐藤) (佐藤)
10	ワークショップ② 展示会(写真展) よろず相談開始	5,000 円	福祉職座談会(池田) (相談員)
11	ふくし講演会	50,000 円	
12	ワークショップ③ 展示会(利用者さんの作品展) 精神障害者地域移行研修	5,000 円	福祉職座談会(池田) (野島) (相談員)
1			
2	ワークショップ④ 展示会(アイスキャンドル写真展)	5,000 円	福祉職座談会(池田) (相談員)
3			
	計	910,000 円	

「きっずていく経営計画」

〈基本目的〉
１．利用児者と家族の幸せな生活を支える
２．地域に頼られる事業所となる

〈基本方針〉
１．利用児者と家族に温かい心で接し支援する
２．地域貢献活動を積極的に行う

〈キーワード〉
『Ｗｉｔｈ』
利用者さんの幸せのために、みんなで一緒にやっていこう！

〈きっずていく心得〉
「児童、家族の笑顔と安心を保証し、今を支え未来に繋げる」

〈重点事項〉
１．環境と支援の充実
２．託児所との共存、交流活動
３．きっずていく全体での支援に対する理解の統一
４．児童発達支援の開始

〈重点事項の詳細〉
１．環境と支援の充実
⑴学年・特性別の活動設定
⑵不登校児支援
①児童支援　毎週火曜日　10：00～12：00
②本人中心計画に基づいた支援の提供
③保護者座談会の開催　６月・９月・12月・３月
⑶地域との連携
①地域イベントへの参加
②エリアサポーターとの活動
・野菜作り　　５月
・ていく祭り　８月・９月
③敬老の日訪問　９月

・すいこう、しらかば荘、笑和道夢
④除雪活動　１月
⑷支援の質の向上
①関係機関との連携
・関係者会議開催　随時
・情報共有　随時
②全体勉強会　４月・６月・10月・２月
③発達障がい勉強会　５月・９月・11月
④支援検討会　７月・12月・１月・３月
⑤きっず全体勉強会　８月
⑥クロストレーニング　９月・10月
⑦放デイ見学　９月
⑧アセスメント月間　９月・３月
⑨虐待防止研修会　10月
⑩発達障害児童分野研修会　11月
⑸昼食提供～外部発注
①毎週土曜日　年間37日
②長期休暇時～希望者のみ：夏休み・冬休み・春休み期間

２．託児所との共存、交流活動
⑴協力体制の整備と連携
①会議・研修等参加時の人員減による応援・協力体制の構築
②ミーティング参加　随時
③共同通信発行　９月・１月
⑵交流活動
①行事交流
・ていく祭り　８月
・クリスマス会　12月
②所外活動
・公園遊び　６月～９月
・水・砂・雪遊び　随時
③製作活動　随時
④避難訓練・防犯訓練の実施　８月・11月・12月

３．きっずていく全体での支援に対する理解の統一
⑴支援検討会開催　７月・８月・12月・１月・３月

⑵テキスト購入　４月
⑶発達障害勉強会　５月・９月・11 月
⑷書式の統一
①書類の精査
②きっずマニュアルの更新
③ケアコラボとラインワークスの活用

４．児童発達支援の開始
⑴職員のスキルアップ・環境整備
①ミーティング時の読み合わせ　随時
②特性に合った遊具の選定　11 月
③環境整備～遊具棚・配置の見直し　11 月
⑵関係機関との連携
①保育所・幼稚園～関係者会議開催　12 月
②保健師・子育て支援センター～情報共有　随時
③周知活動　12 月
・パンフレット更新
・きっずていく通信
⑶指定申請・運営規程変更　11 月～12 月
⑷見学会実施　11 月～12 月

〈年間計画〉

実施月	内　　容	予　算	備　　考
4	不登校児支援 毎週土曜日：昼食提供(希望者自己負担) 初任者研修 テキスト購入	36,000 円 10,000 円	外部発注：1 食 500 円
5	砂場作り・タープ購入 玩具・児童書購入	120,000 円 30,000 円	
6	町内花壇作りボランティア 保護者座談会	 3,000 円	
7	カーペット洗浄 長期休暇時：昼食提供(希望者自己負担)	50,000 円	 外部発注：1 食 500 円
8	長期休暇時：昼食提供(希望者自己負担)		外部発注：1 食 500 円
9	放デイ見学 アセスメント月間 共同通信発行 保護者座談会 敬老の日訪問 放デイ見学	5,000 円 3,000 円 3,000 円 3,000 円	
10	虐待防止研修会参加 クロストレーニング 玩具・児童書購入	10,000 円 50,000 円	小山係
11	クロストレーニング 発達障害児童分野研修会参加	 10,000 円	 佐々木係
12	長期休暇時：昼食提供(希望者自己負担) 保育所・幼稚園関係者会議 児発周知活動 保護者座談会	 3,000 円	外部発注：1 食 500 円
1	長期休暇時：昼食提供(希望者自己負担) 共同通信発行		外部発注：1 食 500 円
2	カーテン洗浄	50,000 円	
3	アセスメント月間 長期休暇時：昼食提供(希望者自己負担) 保護者座談会	 3,000 円	 外部発注：1 食 500 円
	計	389,000 円	

〈行事・活動計画〉

実施月	内　　容	予　　算	担当者	備考
4	行事：クッキング(中学生以上) 活動：製作活動材料購入	10,000 円 20,000 円	高岩 井下	
5	行事：クッキング(小学生以下) 活動：ていく菜園 ゴミ拾い	10,000 円 10,000 円	佐々木 井下	
6	行事：焼き肉(中学生以上親子) 活動：花植え	50,000 円 5,000 円	小山 井下	
7	光生舎夏祭り 行事：焼き肉(小学生以下親子) 活動：七夕会 風水害避難訓練	10,000 円 40,000 円	井下 高岩	
8	行事：ていく祭り(中学生以上) 長期休暇活動 買い物レク(中学生以上) クッキング(小学生以下) 活動：火災避難訓練	50,000 円 20,000 円 10,000 円	井下 小山 高岩	地域交流
9	行事：ていく祭り(小学生) 活動：ていく菜園収穫 シェイクアウト	50,000 円	佐々木 井下 井下	地域交流
10	行事：ラウンド 1(中学生以上) 活動：防犯訓練	50,000 円	小山 高岩	
11	行事：ラウンド 1 (小学生以下親子) 活動：防犯訓練	60,000 円	高岩 井下	
12	行事：クリスマス会(中学生以上) 活動：クリスマス週間 避難訓練	30,000 円 10,000 円	佐々木 小山	
1	行事：新年会(小学生) 活動：除雪ボランティア	10,000 円	高岩 井下	地域貢献
2	行事：保護者会・茶話会 (中学生以上) 活動：節分会	10,000 円 3,000 円	佐々木 井下	
3	行事：保護者会・茶話会 (小学生以下) 活動：ひなまつり	10,000 円 3,000 円	小山 井下	
	計	471,000 円		

「きっずていくあしべつ経営計画」

〈基本目的〉
１．利用児者と家族の幸せな生活を支える
２．地域に頼られる事業所となる

〈基本方針〉
１．利用児者と家族に温かい心で接し支援する
２．地域貢献活動を積極的に行う

〈キーワード〉
『Ｗｉｔｈ』
利用者さんの幸せのために、みんなで一緒にやっていこう！

〈きっずていく心得〉
「児童、家族の笑顔と安心を保証し、今を支え未来に繋げる」

〈重点事項〉
１．特性に合わせた支援の提供
２．芦別２事業所での利用調整
３．地域との連携活動
４．きっずていく全体での支援に対する理解の統一

〈重点事項の詳細〉
１．特性に合わせた支援の提供
⑴特性理解
①資格取得
・児童発達支援管理責任者
②書籍購入
③研修参加：LITALICO 等
⑵２次障害への対応
①不登校支援
・受け入れ時間の柔軟対応
・関係機関との連携
⑶個別支援計画の充実
①アセスメント月間の実施　７月・12 月

⑷心理支援
①心理支援計画を個別支援計画に記載
②加算取得の為の人員体制整備
⑸保護者支援
①LINEWORKS 等を活用し連絡調整を容易にする
②保護者会の開催
⑹関係機関との連携
①相談支援事業所との連携
・関係者会議開催　随時
・情報共有　随時
・親子行事参加依頼　９月
②学校との連携
・メール、ケアコラボを活用した日常的な情報共有
・関係者会議開催　８月・１月
③芦別市との連携　随時
・児童課各係
・家庭児童相談室
・保健師

２．芦別２事業所での利用調整
⑴合同行事開催
①バーベキュー行事　８月
②ハロウィン　10 月
③クリスマス会　12 月
⑵児童のニーズに合わせた利用回数調整
①芦別２事業所間の支援調整会議開催(月１回)

３．地域との連携活動
⑴学生との交流
①星槎高校・芦別高校との交流
②学生の職業体験・ボランティア受け入れ(８月・１月)
⑵町内会加入
①町内会費・寄付の納入
・町内会費　５月
・秋祭り協賛　９月
・赤い羽根共同募金　10 月

・歳末助け合い　12 月

②行事参加

・町内運動会　６月

⑶地域施設との交流

①敬老の日訪問　９月

・慈恵園他

⑷景観整備

①花壇作成　４月

②イルミネーション　12 月

③除草　5～10 月

④除雪の業者委託　11～3 月

４．きっずていく全体での支援に対する理解の統一

⑴支援の共通理解

①支援検討会開催　７月・８月・12 月・１月・３月

②テキスト購入　４月

③発達障害勉強会　５月・９月・11 月

④他事業所見学　９月

⑤ふくし講演会　11 月

⑵書式の統一

①書類の精査

②きっずマニュアルの更新

③ケアコラボとラインワークスの活用

⑶赤平きっずとクロストレーニング実施　９月・11 月

〈年間計画〉

実施月	内　　容	予　　算	備　考
4	初任者研修 研修図書購入 防草シート購入	 20,000 円 30,000 円	嘔吐処理等含む テキスト含む
5	発達支援勉強会 玩具・製作材料・児童書 町内会費	10,000 円 50,000 円 8,000 円	西永先生謝礼按分 児童雑誌含む 募金含む
6	児発管研修 研修会参加 ロールカーテンクリーニング	20,000 円 10,000 円 50,000 円	林係 児童支援
7	児発管研修 アセスメント月間	20,000 円	林係
8	関係者会議実施 学生職業体験・ボランティア	 30,000 円	いんぐ・学校
9	発達支援勉強会 児発管実践研修 防犯訓練 クロストレーニング	10,000 円 30,000 円	西永先生謝礼按分 野崎係
10	虐待防止研修	10,000 円	
11	発達支援勉強会 除雪 クロストレーニング	10,000 円 165,000 円	西永先生謝礼按分 33,000 円×5 か月
12	アセスメント月間 感染症予防研修		
1	関係者会議実施 学生職業体験・ボランティア	 30,000 円	いんぐ・学校
2	救急訓練		誤嚥・てんかん等
3			
	計	503,000 円	

〈行事・活動計画〉

実施月	内　　容	予　算	担当者	備　考
4	親子行事(おさがり・茶話会)	10,000 円	舘・北山	25 日(土)特性別
5	親子行事(おさがり・研修)	20,000 円	野崎・河村	14 日(土)特性別
6	親子行事(町内運動会参加) 花壇・花植え	10,000 円 30,000 円	林 野崎	19 日(日)全員
7	光生舎夏祭り 長期休業所外活動 避難訓練(風水害)	10,000 円 10,000 円	林 舘・河村 野崎	？日(土)全員
8	親子行事(バーベキュー) 長期休業所外活動 避難訓練(火災) 老人施設交流プレゼント	40,000 円 20,000 円 5,000 円	野崎・林 舘・河村 林 北山	20 日(土) キラキラハウス
9	行事(就学進学相談会) シェイクアウト 老人施設交流	10,000 円	舘 林 舘	10 日(土)？ 親子来所と訪問
10	行事(ハロウィン)	50,000 円	野崎・河村	29 日(土)
11	親子行事(おさがり・研修)	20,000 円	林	19 日(土) テーマ設定
12	行事 (さくらんぼ合同クリスマス) 避難訓練(火災)	50,000 円	舘・河村 河村	24 日(土)
1	行事(鏡開き) 長期休業所外活動	10,000 円 20,000 円	林 林・北山	14 日(土)放デイ
2	親子行事(おさがり・研修)	20,000 円	舘	23 日(木・祝) 低学年
3	親子行事(お楽しみ・茶話会)	30,000 円	野崎	4 日(土) 高学年
	計	365,000 円		

「きっずていくさくらんぼ経営計画」

〈基本目的〉
１．利用児者と家族の幸せな生活を支える
２．地域に頼られる事業所となる

〈基本方針〉
１．利用児者と家族に温かい心で接し支援する
２．地域貢献活動を積極的に行う

〈キーワード〉
『Ｗｉｔｈ』
利用者さんの幸せのために、みんなで一緒にやっていこう！

〈きっずていく指針〉
「児童と家族の笑顔と安心を保証し、今を支え未来に繋げる」

〈重点事項〉
１．新事業所開設
２．芦別２事業所での利用調整
３．地域との連携活動
４．きっずていく全体での支援に対する理解の統一

〈重点事項の詳細〉
１．新事業所開設
(1)特性に合わせた支援の提供
①個別支援
・保護者同伴での支援：事業所内相談支援加算の取得
・児童のみの個別支援
・不登校児支援
②小集団支援
・特性を考慮した小集団支援
・余暇活動や買い物など生活に密着した経験が出来る活動の提供(土曜日活動)
③保護者同士の交流
・保護者会の開催　５月・９月・３月

・保護者が集える行事等の設定　８月・10月・12月

④関係機関との情報共有　８月・１月

⑵支援教材の充実

①特性に応じた遊具の準備

②個別支援に必要な教材作成

⑶安心、安全な環境づくり

①環境設定

・形跡管理　４月

・表示作成

②防犯、防災への取り組み

・避難訓練　８月・２月

・防犯訓練　９月

・嘔吐処理研修　12月

・救急訓練　２月

・防災対策自主点検　月１回

③内部活動

・ヒヤリハット活動

・虐待防止活動

２．芦別２事業所での利用調整

⑴合同行事

①バーベキュー行事　８月

②ハロウィン祭り　10月

③クリスマス会　12月

⑵個々のニーズに合わせた利用回数の調整

①芦別２事業所での支援調整会議開催(月１回)

３．地域との連携活動

⑴学生との交流

①星槎高校・芦別高校との交流

②高校生職業体験受け入れ

⑵地域資源の活用

①つばさ内体育館での活動

②消防署・警察署見学

③なまこ山体育館での活動

④図書館

⑶地域の訓練への参加
①つばさ内避難訓練　５月・６月・９月・10月
②地域防災訓練

４．きっずていく全体での支援に対する理解の統一
⑴支援検討会開催　７月・８月・12月・１月・３月
⑵テキスト購入　４月
⑶発達障害勉強会　５月・９月・11月
⑷書式の統一
①書類の精査
②きっずマニュアルの更新
③ケアコラボとラインワークスの活用

〈年間計画〉

実施月	内　　容	予　　算	備　　考
4	初任者研修 教材費購入 支援教材、環境整備費	10,000円 100,000円	
5	発達支援勉強会	10,000円	西永先生謝礼按分
6	支援検討会		きっず全体
7			
8	関係者会議 支援検討会		きっず全体
9	防犯訓練 発達支援勉強会	10,000円	西永先生謝礼按分
10	虐待防止研修 支援教材費・書籍代	50,000円	
11	発達支援勉強会	10,000円	西永先生謝礼按分
12			
1	関係者会議 支援検討会		
2	救急訓練		
3	支援検討会		
	計	190,000円	

〈行事・活動計画〉

実施月	内　　容	予　算	担当者	備　考
4				
5	親子行事(保護者会) 避難訓練(火災)	20,000 円	内田・木下 内田	子どもセンター全体
6	児童アセスメント月間 避難訓練(地震)		木下	子どもセンター全体
7	光生舎夏祭り(親子) 避難訓練(風水害) 警察署見学		内田・木曽 木下 内田	子どもセンター全体
8	避難訓練(総合) バーベキュー(合同)	40,000 円	木下 木下・北山	さくらんぼ単独
9	避難訓練(風水害) シェイクアウト 親子行事(施設見学)	20,000 円	木下 内田 内田・木曽	子どもセンター全体
10	ハロウィン祭り(合同) 避難訓練(火災) 消防署見学	50,000 円	木下・北山 木下 内田	子どもセンター全体
11	親子行事	20,000 円	内田・木曽	
12	クリスマス(合同) 児童アセスメント月間	50,000 円	木下・北山	
1				
2	避難訓練(火災)		北山	さくらんぼ単独
3	親子行事(保護者会)	20,000 円	内田・木曽	
	計	220,000 円		

「光生舎メディック・エル経営計画」

〈基本理念〉
企業授産を念頭に置き、顧客と利用者ニーズの実現

〈基本目的〉
１．利用者が自信を持って働く職場として、顧客と社会に貢献する
２．就労継続支援事業所として、雇用の拡大に貢献する

〈基本方針〉
１．労働者、入所者の安全を何よりも優先する
２．顧客に対し安全で良質な製品を提供し続ける
３．顧客の潜在的ニーズを発掘して信頼される存在になる
４．利用者の個性や可能性が活きる環境・活動を創造する
５．問題、課題には常に質の向上をもって解決を目指す

〈キーワード〉
『 正しい根拠と行動、そして大きな成果へ！ 』

〈重点事項〉
１．収益向上
２．利益率向上
３．内部統制
４．施設サービスの充実
５．設備、営繕、行事検討

〈重点事項の詳細〉
１．収益向上
(1)値上げ交渉による収入増(7,200 千円)
(2)Ａ型利用者 37 名雇用(68,000 千円)
２．利益率向上
(1)補充リネン費収入比 5%以内(白衣在庫の活用、廃棄削減)
(2)使用アイテムの統一(シーツ、掛布団、白衣)
３．内部統制

(1)事業所内研修活動の発足
(2)委員会活動、ＷＴの見直し

４．施設サービスの充実
(1)生活介護サービスの計画、支援の見直し
(2)施設行事の充実

〈具体的計画の詳細〉
１．収益向上
(1)値上げ交渉による収入増(7,200 千円)
①寝具病衣賃貸借料の値上げ
②サービスで提供しているアイテムの値付け
(2)Ａ型利用者 37 名雇用(68,000 千円)
①関係機関との連携強化

２．利益率向上
(1)補充リネン費収入比 5%以内(白衣在庫の活用、廃棄削減)
①白衣在庫システムの活用
②染み抜き作業の促進
(2)使用アイテムの統一(シーツ、掛布団、白衣)
(3)入院セット事業の拡販

３．内部統制
(1)事業所内研修活動の発足
①福祉的視点からの利用者支援について
②就労支援事業での専門的知識
(2)委員会活動、ＷＴの見直し
①６Ｓ推進員会(５Ｓ＋セーフティ(ヒヤリハット))
②虐待身体拘束防止委員会
③防災・感染予防委員会

４．施設サービスの充実
(1)生活介護サービスの計画、支援の見直し
①生活介護レーダーチャート見直し

⑵施設行事の充実
①利用者ニーズとの整合性
②広報誌の充実

5．設備・営繕
⑴施設、工場、設置レンタル全ての部門で必要な経費を計画して予算執行を確実に行う。
⑵利用者行事の充実と３部門の決算状況を把握して総合的な判断の基予算執行を行う。
①連続洗濯機の更新を第一優先と捉える

取　組　事　項	検　討　会　議
寝具病衣賃借料の値上げ	営業会議
Ａ型利用者 37 名雇用(6,800 千円)	戦略会議
補充リネン費収入比５%以内	生産会議
白衣在庫の運用	白衣在庫運用方法検討会議
使用アイテムの統一(シーツ、掛布団、白衣)	病院寝具事業運営会議
事業所内研修活動の発足	経営会議
委員会、ＷＴの見直し	経営会議
行事を充実させるための活動	支援会議
連続洗濯機更新	生産会議

〈部門別取組〉
1．業務部
「全舎員の現場力向上」
⑴職域拡大
⑵生産性と品質の維持
⑶ＫＰＩ目標数値

2．厚生部
「施設サービスの充実で利用率の向上」
⑴利用率向上に向けた効果的な面談
⑵職員間の情報共有によるサービス充実

3．営業部
⑴入院セット導入
⑵令和５年に向けた値上げ
⑶エアマット自舎化率 90%による利益率向上
⑷客先在庫調査の実施による補充リネン費抑制

〈設備計画〉

No.	実施月	設　備　名	台数	設　備　予　算	設　備　目　的
1	４月	静止型マット更新	100	3,000,000 円	顧客満足度向上
2	４月	エアマット購入	15	1,500,000 円	同上
3	４月	カーテン購入	208	4,500,000 円	同上
4	４月	静止型マット更新	35	1,200,000 円	同上
5	４月	静止型マット購入	100	3,000,000 円	同上
6	９月	静止型マット購入	75	2,500,000 円	同上
7	９月	静止型マット購入	120	3,700,000 円	同上
8	11 月	営業車	2	3,000,000 円	営業活動安全考慮
9	11 月	１号連洗脱水機更新	1	100,000,000 円	コスト削減と生産性向上
10	11 月	ホイルローダー	1	1,250,000 円	百戸地区３施設合同購入
			計	123,650,000 円	

〈リネン設備〉

No.	実施月	設　備　名	台数	設　備　予　算	設　備　目　的
1	５月	吉田病院白衣リース更新	1	8,500,000 円	
2	５月	平岸病院事務服リース	1	1,000,000 円	
3	５月	留萌市立病院入院セット	1	4,500,000 円	
4	６月	北の峰病院白衣リース更新	1	2,500,000 円	
5	６月	慈恵会病院白衣リース更新	1	2,000,000 円	
6	11 月	滝川コメディカル白衣更新	1	5,500,000 円	
7	３月	新卒者白衣購入	1	4,500,000 円	
8	３月	富良野協会白衣リース更新	1	12,000,000 円	
			計	40,500,000 円	

「ケアハウスすいこう経営計画」

老人文化憲章

髙江常男　作

１　我ら身体は老いても心は青春である
２　ここは社会生活の延長の場である
３　他人を思いやりルール、エチケット、マナーを守ろう
４　常に身体を動かそう、それがリハビリになる
５　趣味を沢山持って楽しく向上しょう
６　何事にも興味と好奇心を持とう
７　明るい心と笑顔で、仲間と付き合おう
８　毎日の生活に張りを持って暮らそう
９　仕事良し、スポーツ良し、歌うも又良し
１０　自分でボランティア活動をする自立心で助け合おう

〈基本理念〉
すいこうは、「すいこうを利用する入居者にとって生涯共に安心して楽しい生活が送れる居住の場」であることを理念とする。

〈基本目的〉
1．どんな時でも、安心安全を最優先し、入居者・家族へ不安を与えない。
2．入居者誰もが自主性のある生活が実現できるような混合型施設を目指す。
3．地域・市町村への貢献と密な連携を図る。

〈基本方針〉
1．型にはめない、柔軟性を持った安全対策への取り組み。
2．どんな状況におかれても、限界を決めない。常に他職種が連携し解決する。
3．入居者一人一人の残存能力を引き出し、出来る事の喜びを分かち合う。
4．出来ないと言わない。「出来る為に」を考える。
5．外部へ積極的に情報を発信し、混合型施設の良さを理解してもらう。
6．5S を徹底し、業務の効率化及びサービスの質の向上を目指す。

〈キーワード〉
『 スクラム 』

〈重点事項〉
1．多様な余暇活動の提供
2．改善活動における PDCA の「C・A」強化
3．基本的介護技術・医療知識の復習と習得

〈重点事項の詳細〉
1．多様な余暇活動の提供
(1)マンネリ化防止の為の内部レクの工夫
(2)外出行事の企画実行
(3)慰問やボランティアの活用
(4)５階の有効活用(入居者のくつろぎの場の提供)
2．改善活動における PDCA の「C・A」強化
(1)既存マニュアルの継続的な見直し(CA 強化)
(2)新たに作成するマニュアル(PD の実施)

３．基本的介護技術・医療知識の復習と習得
⑴身体介護技術の復習
⑵医療知識と各種対応技術の習得

〈具体的支援計画の詳細〉
１．多様な余暇活動の提供
［目的］
自立されている方、介護が必要な方、どんな方でも楽しめる余暇活動の企画実行を行い、多様性のある余暇活動の場を提供する。
⑴マンネリ化防止の為の内部レクの工夫
レク総括担当者を設定し､総括担当者が中心となり従来からあるレク用品を使用し、ルールや実施方法の工夫を行う。
【決定経路】
レク担当者(2 か月前に決定)が内容を検討し、レク総括責任者へ提出。リーダー会議にて決議・実行とする。
①入居者への聴き取り
レクの内容は、入居者より１名選任の上、レクへの意見や希望等の聴き取りを実施する。
結果を元に、レク担当者が内容を検討し、企画書を作成。
②入居者アンケートの実施
担当者：レク総括担当者
実施月と内容：４月～希望レク調査
１０月～実施済レクの意見収集
③アンケート実施後の改善活動
担当者：レク総括担当者
内容：入居者への意見収集結果を元に、改善策を検討し、その後のレク内容の改善・工夫へ繋げる。(12 月)
⑵外出機会やボランティア・慰問の提供
①日帰り旅行
実施時期：７月
WT 発足：４月
②大型店買い物ツアー
実施時期：９月
WT 発足：６月
③ボランティアの活用(絵手紙)
実施時期：６月・10 月
依頼先：赤平市社協
④慰問の活用
実施時期：６月・１月

慰問内容：歌謡ショー

⑶５階の有効活用

内容：運動後や入浴後の憩いの場の提供

方法：テーブルや椅子・応接セット・書籍等を設置し、
誰でも自由に過ごせるような環境を整備する。
準備期間：７月　開始時期：８月　＊WT 発足：５月

２．改善活動におけるPDCA の「C・A」強化

［目的］

各種マニュアルや事故予防策、業務改善等の様々な改善活動に対して、P(計画)D(実行)後の、C(評価)と A(改善)の仕組みを整備し、基盤を強化する。

⑴既存マニュアルの継続的な見直し(CA 強化)

決まったマニュアルに即した行動を身に付け、職員の資質を強化する。

①服薬介助マニュアルの実践指導

目的：定期的なテストと動作確認を行う事で、服薬事故を抑止する。

実施方法：テスト形式(7 月)
抜き打ちの動作確認(1 月)

評価・改善：テスト実施後は、動作手順の見直しを行う。(8 月)

実施担当者：ヒヤリハット委員会＋他委員１名

対象者：介護員、看護師

②火災発生時対応の実践指導とマニュアル見直し

目的：実際を想定した訓練の実施による火災発生時の対応徹底とマニュアルの整備

実施方法：訓練の実施(日中：６月、夜間：11 月)

評価・改善：６月訓練完了後の振り返りを元に、マニュアルを見直し、11 月の夜間訓練に活用する。

実施担当者：職員資質向上委員会

対象者：全職員

③救急対応の実践指導とマニュアル見直し

目的：実践訓練による救急対応のマニュアルを整備し、緊急時の敏速な入居者対応の徹底

内容：各種症状出現時の対応(胸苦・腹痛・発熱時)
AED 使用方法・救急要請の手順(意識不明時)

実施方法：現行マニュアルでの実践訓練
(5 月発足、６月実施)

評価・改善：実践訓練を元に、不明・問題点を洗い出し、

マニュアルを見直す。(7 月)
実施担当者：WT 発足　看護師＋介護員(1～2 名)
対象者：介護員

(2) 既存マニュアルの定期的な見直し(継続的な CA の実施)

マニュアルの継続的な見直しを行い、実情に即したマニュアルの整備・改善を図る。

①食事介助マニュアルの見直し
目的：実情に即した見守り・介助方法の見直し
見直し方法：アンケートによる意見収集
(4 月開始、5 月完成)
実施担当者：ヒヤリハット委員会
対象者：介護員、看護師、栄養士

②居室担当役割の定期見直し
目的：各担当介護員が統一した支援を実施し、入居者へ継続的に適切な支援を提供する。
見直し方法：アンケート形式による意見収集
(12 月開始、1 月完成)
実施担当者：5S 推進委員会＋ケアマネ
対象者：全職員

③勤務別の業務見直しと整理
目的：各勤務帯の役割の明確化、新人職員でも分かりやすい一覧の整備を行い、統一した対応が出来るようにする。
見直し方法：協議(2 月開始、3 月完成)
実施担当：SL＋夜勤職員 1～2 名

④看護業務の見直しと整理
目的：看護業務の明確化
入居者への健康管理や業務視点、対応方法の統一化
検討内容：個々の業務の洗出しによる看護業務の明確化
過剰・不足支援の整理
施設で実施する医療行為の内容の再確認
健康管理方法の再確認や対応方法の統一
多職種からの意見収集等
見直し方法：2 月開始、3 月完成
実施担当：看護師＋SL

⑤家事支援の支援内容の見直し
目的：入居者の ADL やニーズに沿った支援内容の統一化
見直し方法：協議(8 月開始、9 月完成)
実施担当：SL＋ケアマネ

⑥自己チェック・グランドルールの見直し

目的:実情に即したルールを見直し、ルールの徹底を図る。
見直し方法：アンケート＋協議
グランドルール～4 月完成
自己チェック～9 月開始、10 月完成
実施担当：経営会議、L＋SL

⑵新たに作成するマニュアル(PD の実施)

不透明な業務について新たにマニュアルを作成する。

①水分提供方法の見直し

目的：誰でも統一した水分提供が出来るようにし、より確実な入居者への促しと適正摂取量を保持する。
作成内容：量カウント方法の精査(コップの選定等)
個別の提供方法の統一、目標量の見直し
実施担当：WT 発足(介護員＋看護師＋L)
4 月発足→6 月完成周知→2 月効果検証•再作成

3．基本的介護技術と医療知識の復習と習得

[目的]

多職種で連携し、各種対応の基本的な知識や技術を習得し、重度化対応の基盤を強化する。

⑴基本的身体介護技術の復習

①施設内研修の実施

身体介護基本編の動画を参考に、指導担当者が職員個々へ実技指導を実施する。
指導に当たっては、職員がモデルとなり、安全安楽な方法だけではなく、危険苦痛な方法も実演もしくわ体感し、習得を深める。

- 移乗介助(5 月)
  内容：全介助の方のベッド～車椅子間の移乗方法
- おむつ交換(9 月)
  内容：テープ式オムツとパットの交換方法
- 体位交換(9 月)
  内容：左右側臥位の体位交換方法

②研修後の効果検証

検証時期：研修実施後から 2 か月後
評価方法：3 段階評価シート(大変良い・良い・苦痛)
検証方法：職員がモデルとなり、実技を実施。
指導担当者が評価シートに沿って評価を行う。

⑵外部実習の実施

実習依頼先：しらかば荘他

目的：特養の重度化利用者の移乗・入浴・おむつ交換・水分食事提供等の日常的な介護実践方法を学び、安全安楽かつ効率的な方法を自施設に取り入れる。

フィードバック：実習者間にて、安全安楽な介護技術、効率的な方法について検討の上、伝達研修の実施もしくは業務改善提案書を作成し、自施設に取り入れる。

⑶医療知識と各種対応技術の習得

①基本的医療知識の勉強会の開催

目的：高齢者に多い疾患２種に特化し、看護と介護間の連携と知識向上を図る為に、内部で勉強会を開催する。

勉強会開催方法：３種の疾患について、主な症状・重篤化すると出現する症状、観察ポイントについて記載した資料を作成し、勉強会を開催する。

＊実際の入居者を例に挙げ症例を伝える事で、より理解を深める。

疾患：心不全(８月)、脳梗塞(12月)

講師担当：看護師＋SL

②介護⇔看護間の健康管理における情報共有の場の活性化

目的：入居者個々の健康状況、各種サービス提供時に発生している問題点、変化等について、介護と看護が情報共有を図る事で、入居者への理解を深め、適切な視点でのサービス提供を図る。

実施方法：短時間介護・看護ミーティングの開催による

開催頻度：週２回(毎週火・木)

進行役：現場管理者

４．各種委員会等計画

⑴ヒヤリハット委員会

活動目的：ヒヤリハット活動・危険発見活動を活発化させ、事故を未然に防ぐ。対策は効果検証を図り、より確実な事故予防を目指す。

①周知シートを用いた対策の周知・効果検証の継続

周知シートの様式変更：周知後の経過記載欄を設け、対応職員が記載。対策実行後の状況の確認が出来るようにする。

＊対応職員～介護員、看護師等

対策実行方法：委員長(又は副委員長)により担当ケアマネ・介護員と協議、もしくは短時間ケース会議にて協議し、実行・周知する。

効果検証方法：対策実行から効果検証設定日に、ヒヤリ委員長(又は副委員長)＋担当介護員で検証

周知方法：検証結果は、検討者が周知シートに記載し、ほのぼの上にも記録を残す。

②福祉用具点検・施設内危険個所点検の継続(毎月)

危険箇所点検結果の数値化により表を用いて、改善効果の数値変化を表に表し、見える化を図る。

③マトリクス表の定期見直し(1 回／半年・７月)

④入居者向けの事故予防意識向上への取組み

内容：危険を伴う行動(外出時の行動や高所へ登る動作等)がどのように危険を伴うのか、実際の行動例を元に、回避する方法について入居者への説明会を開催する。

実施月：７月

企画者：ヒヤリハット委員会+他委員メンバー(2 名)

⑤職員向けヒヤリハット伝達研修の実施

内容：ヒヤリハットとは何か、ヒヤリと事故の違い・事故と過誤の違いは何か等、職員向けに伝達研修を実施する。

担当者：法人ヒヤリハット委員

対象者：全職員

実施月：10 月

⑵５Ｓ推進委員会

活動目的：「いつでも、誰でも」継続的に５Ｓの意識が保持出来るような活動をする。

①施設内５S 巡視

目的：継続的な５S 巡視による職場環境、ルールの維持
・指摘へのスピーディーな改善(10 日間以内)
・同じ指摘を繰り返さない取組み策

内容：ａ5S 委員以外の職員の巡視参加
委員と他委員のペアによる巡視を実施する事で、全職員が 5S に対する意識を高める。

ｂ形跡管理の更新・改善
毎月の巡視時に劣化している形跡管理の交換や

変更を毎月１件は更新する。
ｃ指摘の多い箇所の定例業務化
車両清掃～1 回/3 か月(2・5・8・11 月)
担当：車輌管理者
配電盤清掃～全 10 箇所(各 1 回/年)
(2 台ずつ/偶数月)
担当：営繕担当者
・清掃場所毎の清掃内容と頻度の明確化
清掃場所毎に清掃内容や頻度を各担当者が検討し、責任を持って各自が施設空間の清潔を保持する。
場所：事務所、医務室、薬品庫
職員個々のロッカー、靴箱等

②情報の２S 活動
・ＰＣ内報告書、議事録の保管ルール継続
内容：ａ何年保管かを明確にし、不要なものは破棄
ｂ１年間分はＳＳ内に保管し、それ以前は５階物品庫に保管する。
ｃ各委員会については、毎年３月にフォルダ内の整理を行う。
・書類保管ルールの継続
内容：ａレク行事は、付箋をつけて保管する。
ｂ各委員会は１年間ずつ保管
・ＰＣ内２Ｓ巡視
頻度：２回/年(6 月、12 月)
保管ルール：デスクトップ内に保存しない。
各委員会内にも必ずフォルダを作って保存

(3)職員資質向上委員会
活動目的：感染・防災・身体拘束・虐待に関わる必修活動の総括的役割を担い、全職員が偏りなく活動企画に携われるよう企画メンバーを選定し、実行後の反省点を元に、種別毎に各委員会を３か月毎に開催し、次回への改善に繋げる。

［感染予防活動］
①インフルエンザ対策
・流行時期前の現マニュアルの職員間周知
周知方法：どの職員も初動対応を事前に把握した上でマニュアルに沿って行えるよう、テスト形式

にて再確認と周知を図る。
担当者：防災対策感染予防委員会(10 月)
・体調不良者への初動対応：発熱・倦怠感等の症状出現時は居室隔離を行う事を徹底し、初動対応に当たる。

②ノロウィルス対策
・ノロシュミレーションの実施による感染拡大の予防
内容：基礎編(7月)
応用編(1 月)
担当者：防災対策感染予防委員会
・ノロ処理物品の定期チェックの実施(毎月)
担当者：職員資質向上委員会＋介護員

③共通取組み
・手洗い講習の実施(対象：入居者・職員　時期：10 月)
担当者：職員資質向上委員会＋他職員
・感染予防啓発活動の実施
内容：入居者に向けた運営懇談会での呼びかけ
(食中毒、熱中症・脱水、感染症)
担当者：職員資質向上委員会＋各専門職
・食中毒警報に応じた予防呼びかけ
食中毒警報発令時は、入居者へ放送にて呼びかけ、予防への意識付けに繋げる。
担当者：介護員

[身体拘束及び虐待防止活動]

①身体拘束防止への意識付け
活動時期：1 回/3 か月
活動内容：４・10 月身体拘束基礎知識の勉強会開催
7・1 月グレーゾーンの意見交換及び対策検討
担当者～虐待防止委員会＋他職員

②虐待防止への意識強化
・虐待防止勉強会の定期実施
実施内容：虐待防止勉強会(基礎知識)
実施時期：５・11 月
担当者：虐待防止委員会＋他職員
・認知症のある方への不適切ケア予防勉強会
実施時期：８月
担当者：職員資質向上委員会＋他職員
・グレーゾーン意見交換及び対策検討

実施時期：２月
担当者：職員資質向上委員会＋他職員

[リスク管理]

①災害訓練の実施

防災対策委員と連携し､防災設備の操作方法についてマニュアル化を進め、職員が偏りなく訓練の企画と実行に携わり、各自知識や初動対応の習得に繋げる。

- 火災訓練(６月：日中、11 月：夜間)
  担当者：WT 発足
  ＊日中避難訓練～訓練前に運営懇談会にて避難方法及び注意点の説明会を開催(５月)
- 地震避難訓練(９月：シェイクアウト)
  内容～運営懇談会にて入居者向けに訓練を実施
  担当者：防災対策感染予防委員会
- 風水害時避難訓練(８月)
  担当者：防災対策感染予防委員会
- 停電時対応シミュレーション(２月)
  内容：停電時のマニュアルを作成し、マニュアルに即した対応のシュミレーションを実施する。
  担当者：職員資質向上委員会
  着手時期：12 月

②防犯対策

- 防犯に関する研修の実施
  研修内容：防災対策感染予防委員会と連携し、勉強会を実施する。
  ＊内部での実施も必要に応じ企画実行する。
  実施時期：７月、１月
  担当者：防災対策感染予防委員会

③誤嚥時対応訓練の実施

- ヒヤリハット委員会と連携しシミュレーションを実施
  実施時期：８月～食堂にて起こり得る誤嚥時対応
  ２月～異物除去困難にて AED 使用対応

[入居者の意見の収集・対応策の実施]

①定期的な入居者の意見の収集

頻度：２回/年
内容：購買(６月)、環境(２月)

②対応策の協議

意見内容に応じ、各職種・担当者間で対応策を協議し、

改善に繋げる。

③意見への返答・改善策の見える化

入居者から出た意見に対しての返答や改善策は、掲示板を活用し、入居者が見えるようにする事で、信頼の獲得に繋げる。

⑷給食委員会

活動目的：「美味しく食べて健康維持」を目標とし、食事が生活の楽しみの一つとなるよう入居者・職員の声を基に、「楽しい食生活・安全な食事・健康維持」を向上させる。

開催日：毎月第４火曜日

参加者：入居者(１名)、所長、ＣＭ、相談員、NS、介護員、寮母、栄養士

①入居者参加型委員会の開催

＝入居者の意見・要望の献立への反映

・入居者１名に委員会に参加して頂き、意見・要望を求める。
内容に応じ、改善策を検討する。

・食事、嗜好調査を実施し、要望を取り入れると共に、問題点の改善に向ける。(調査月：２月)

②食事の楽しみの提供

・会食の改善：毎月実施の会食について、反省点を求め改善に努める。

・会食メニューの検討：各月の担当者(多職種参加)にて検討し、委員会にて決議する。

＊食事アンケート等の入居者の声を組み入れると共に、季節感を感じて頂ける物とする。

・セレクト食提供回数：１回/２か月の頻度で実施。

＊選択食には新しいメニューを取り入れるようにし、反響を見て通常メニューへ組み込む。

③自立維持の為の安全な食事の提供

・各職種と連携し、入居者に合った食事形態・自助具の検討や献立の調整を行う。

④健康維持の保持

・水分カウント者の選出
委員会内にて、必要水分量と理由を明確にし、入居者の選出を行う。
摂取手段の検討：各担当ＣＭ、ＮＳ，介護員にて協議

＊担当介護員と共に検討する事で、
より確実な具体的手段に繋げる
周知方法：担当介護員により周知シート使用にて周知

・摂取量不足者の把握と対応策協議
水分摂取量の月統計を出し、摂取量不足の入居者については、促し方法等の再検討を行う。
但し、水分摂取量が安定した方に対しては、カウント対応の終了を決定する。

・入居者の体重増減の把握と対応策協議
毎月測定の体重増減を確認し、問題が生じた場合は、他職種と共に原因を追究し、対応策を検討する。

⑸入所検討委員会

活動目的：スムーズな入退所による経営安定化及び待機者のニーズに応える。
施設内事業所移行(特定⇔軽費)ニーズに応える。

開催日：毎月第２火曜日
参加者：所長、ＣＭ、相談員、看護師、介護員、栄養士
目標空室期間：５日間(＊急な退去時：10 日間)

①入退院の支援

・入院中の入居者の病状把握と、家族・医師・CW 等と情報共有や相談を密に行い、ご本人・ご家族同意の元で、スムーズな退院の受入れに繋げる。

・退去の場合は、ご家族の意向に沿った相談援助を行い、円滑な退居に努める。
＊病状把握:２週間の入院期間が経過した後に病院へ連絡し、病状を把握する。退院ＯＲ退去見込みによる早期対応に繋げる。

②継続的な待機者確保へ向けた活動の促進

・待機者への定期連絡～毎月５名ずつの待機者に、郵送又は電話にて入居希望や現状把握を行う。(待機者１名につき年２回の頻度)
～上位３名については、退去者発生予測に応じ、早期連絡と準備を行い、入居に努める。

・面談の実施～必要に応じ、自宅訪問や施設見学を実施
担当者：特定～ＣＭ・相談員・ＮＳ
軽費～相談員、ＮＳ(ＣＭ)

③軽費入居者への特定移行聞き取り調査の実施

・調査の実施～全軽費入居者対象に、定期的に特定移行

への聞き取り調査を実施し、生活への不安解消及びスムーズな移行へ繋げる。

頻度：２回／年(４月・10月)

・特定移行選定基準表の運用

特定移行調査により移行希望のあった入居者へは、基準表を運用し、特定移行順位を決定する。

④退居予測検討の場

・退去の可能性のある入居者の状況把握と対応

頻度：定例ＯＲ臨時

内容：退去の可能性のある入居者の有無を検討し、退去の流れ、それまでの対応、次新規入居者への早期連絡等の段取りについて検討する。

⑤時代背景に合わせたPR活動の実施

・スポット的ポスティングの実施

実施月：７月

対象地域：住友・若木町

・生活情報誌SORAへの入居者募集記事の掲載

実施月：10月

〈研修計画〉

実施月	介護技術	医療知識・医療訓練	身体拘束・虐待
４月		・医療行為勉強会	・身体拘束基礎知識勉強会
５月	・移乗介助(施設内実技研修)		・虐待防止基礎知識勉強会
６月			
７月	・移乗介助実技　再研修	・服薬介助動作テスト ・ノロシュミレーション基礎編	・身体拘束グレーゾーン意見交換と対策協議
８月		・誤嚥時対応訓練(食堂Va) ・心不全基礎知識勉強会	・認知症基礎知識と不適切ケア予防勉強会
９月	・体位交換、オムツ交換(施設内実技研修)		
10月	・ヒヤリハット基礎知識勉強会	・インフルエンザ基礎知識テスト	・身体拘束基礎知識勉強会
11月	・体位交換、オムツ交換　再研修		・虐待防止基礎知識勉強会
12月		・脳梗塞基礎知識勉強会	
１月		・服薬介助動作テスト ・ノロシュミレーション応用編	・身体拘束グレーゾーン意見交換と対策協議
２月		・誤嚥時対応訓練(AED使用)	・虐待グレーゾーン意見交換と対策協議
３月			

〈設備計画〉

No.	実施月	設　備　名	台数	設　備　予　算	設　備　目　的
1	４月	EV 制御主回路交換工事	1	227,000 円	老朽化
2	４月	ホイールローダー	1	1,250,000 円	除雪作業補助
3	５月	栄養士室エアコン設置工事	1	324,000 円	業務環境整備
4	８月	厨房側屋上防水改修工事	1	2,750,000 円	老朽化
			計	4,551,000 円	

〈年間行事計画〉

★：PR 活動　　●営繕関係

実施月	レク行事	健康管理・環境整備	防災・調査・PR
４月	カラオケ喫茶 ボウリング大会 川柳	各階廊下窓拭き(4～7 月) 食堂ワックス掛け ●配電盤清掃 清掃区域担当者一覧作成	・軽費入居者特定移行調査 ・希望レクアンケート ★事業所訪問
５月	ポケネットゲーム 衣料品販売	ベランダ窓拭き(4・3 階) 春の健康診断(夜勤従事者) 食中毒予防説明会 ●車両清掃	
６月	玄関プランター花植え 絵手紙(ボランティア) 夏のミニ運動会 貼り絵 歌謡ショー慰問	ベランダ窓拭き(1・2 階、中庭) 熱中症・脱水症予防説明会 PC 内２S 活動 ●配電盤清掃	◎日中避難訓練
７月	風船ゲーム すいこう夏祭り(OR かき氷作り) 日帰り旅行	窓拭き(増床棟２・１階) 入居者向け事故予防説明会	・購買アンケート ◎防犯対策訓練 ★ボスティング
８月	七夕飾り・スイカ割り カラオケ喫茶 スロットゲーム	窓拭き(事務所) ●車両清掃 ●配電盤清掃	◎風水害避難訓練
９月	敬老会 滝川方面買い物ツアー ターゲットゲーム	食堂ワックス掛け	◎シェイクアウト
10月	ボーリングゲーム ちぎり絵 絵手紙(ボランティア) 衣料品販売	秋の健康診断(全職員) 感染症予防説明会 秋の手洗い講習 ●配電盤清掃	・軽費入居者特定移行調査 ・レク内容アンケート ★SORA 入居者募集記事掲載
11月	すいこう文化祭 ポケネット 輪投げ 秋のミニ運動会	インフルエンザ予防接種 居室電気傘清掃 事務所・ＳＳ大掃除(～12 月) ●車両清掃	◎夜間避難訓練
12月	忘年会 クリスマスツリー飾り 正月飾り・餅つき	PC 内２S 活動 ●配電盤清掃	★事業所訪問
１月	新春紅白歌合戦 宝引き 歌謡ショー慰問		◎防犯対策訓練
２月	雛人形飾り 玉入れゲーム	●車両清掃 ●配電盤清掃	・入居者食事調査 ・環境アンケート ◎停電時対応シミュレーション
３月	ボウリング大会 衣料品販売		

「光生舎内託児所経営計画」

〈基本理念〉

託児所は、舎員にとって「喜ばれる」福利厚生の施設であることを理念とする。

〈基本目的〉

１．保育環境を整え、安全に配慮した保育を目指す。
２．保護者に寄り添い、子ども一人一人の個性に合った保育を提供し、成長過程を支援する。

〈基本方針〉

１．子ども一人一人の個性を見つめ、子どもの利益を最優先に考えた保育を提供する。
２．子どもが心地良く過ごす事が出来る環境の維持・工夫改善を行う。

〈キーワード〉

『 with 』

〈重点事項〉

１．安全な保育環境の整備、改善
２．年齢に合わせた活動、行事の充実化

〈重点事項の詳細〉

１．安全な保育環境の整備、改善

目的：移転による環境変化での予期せぬ事故を予防する為、保育士間の事故予防への意識や視点を一致させる取り組みを充実化する。

(1)勉強会や研修実施によるヒヤリハット基礎研修の反復

①勉強会の開催

内容：法人ヒヤリハット基礎知識研修資料を参考に、
託児所独自の勉強会資料を作成する。その資料を
基に内部で勉強会を開催する。
勉強会開催時期：４月・９月
資料作成：保育士２名で保育現場版の資料を作成
する。
勉強会開催方法：進行係は担当制とし、下記の通
り実施。
資料の読み上げにより、習得した
内容を各自要約し、報告書にて
提出。

②伝達研修の開催
内容：事故予防セミナー参加時の伝達研修
実施時期：１月

⑵ヒヤリ危険箇所点検表の見直し
①危険箇所チェック表の見直し
内容：移転後の環境に合わせて危険箇所チェック表を見
直し、環境変化によって発生する子どもの事故に
よる怪我の予防に繋げる。
作成開始：６月
完成時期：７月
実施頻度：月１(月初)
改善期日：即日(改善内容によっては３日以内)

⑶ヒヤリハット活動の活発化
①ヒヤリハット区分追加、見直し
内容：移転による環境変化に応じ、考えられるヒヤリハ
ットの事案を予測し、改めてヒヤリハット区分の見
直しを行う。
開始時期：７月
完成時期：８月
②スピードある事故やヒヤリ発生内容の共有と対策実行
内容：当日発生した事故・ヒヤリハットの案件は即日保
育士間で共有し、対策の検討と実行を行う。
頻度：夕礼時
対策実行：対策案決定後即実行

記録方法：掲示板を利用して託児所内で共有する。

③定例ヒヤリハット会議の開催

内容：会議で検討する主な内容として、２か月間の事故・ヒヤリハット発生件数や内容の確認、実行済対策の効果検証、発生場所や時間帯等の傾向把握による更なる対策検討

頻度：１回/２カ月

２．年齢に合わせた活動・行事の充実化

目的：移転によるメリット(室内外活動スペースの拡大、近隣の公共施設、ていく職員との協力体制)を最大限活用し、活動の機会を増やすと共にていく児童との合同行事を通じ、より楽しい保育の提供を目指す。

(1)行事企画書の見直し

①企画書様式見直し

内容：現在の企画書様式を基に、ねらい・内容・子どもの活動を年齢別に記載できるよう企画書原本を見直す。

様式完成：４月

②月別行事テーマ

４～５月：お花見
６月：消防署見学
７月：運動会ごっこ
８月：夏祭り
９月：遠足
10月：食育
11月：公共施設見学(消防署等)
12月：クリスマス会
１月：雪遊び
２月：節分
３月：食育

(2)環境に慣れる為の保育活動やていくとの交流活動の実施

目的：移転に伴い、人・環境が大きく変わる為、不安感を除去し、安心して楽しめる活動を取り入れる。

内容：戸外活動(公園・水・砂・雪遊び)、製作活動、行事

交流(夏祭り・クリスマス)、避難訓練、ゲーム遊び等
＊(1)②の行事内でていくと連携し交流を深める。

〈年間行事・訓練・研修等計画〉

実施月	行事・購入(予算)	壁面・製作	防　災	研修・訓練等
４月	・お花見	壁面：動物・蝶々 製作：さくら	防災教育	・運営会議 ・薬管理方法定期検証 ・内部巡視 ・危険箇所チェック ・玩具点検
				ヒヤリハット基礎研修資料完成⇒勉強会 行事企画書様式完成
５月	・お花見 ・イベント行事 (3,000 円)	壁面：動物 製作：こいのぼり	不審者侵入時訓練	・内部巡視 ・危険箇所チェック ・玩具点検
６月	・消防署見学 ・遠足おやつ (1,000 円) 旭丘公園等	壁面：動物・雨 製作：かたつむり	火災時避難経路確認	・運営会議 ・薬管理方法の定期検証 ・内部巡視 ・危険箇所チェック ・玩具点検
				ヒヤリ危険箇所点検表作成
７月	・運動会ごっこ (2,000 円) ・誕生会 (1,000 円)	壁面：動物 製作：すいか	防災教育	・内部巡視 ・危険箇所巡視 ・玩具点検
				ヒヤリ危険箇所点検表完成 ヒヤリハット区分追加、見直し
８月	・夏祭り (5,000 円) ・誕生会 (1,000 円)	壁面：動物・夏 製作：プール	避難訓練 (ていく合同)	・運営会議 ・薬管理方法の定期検証 ・内部巡視 ・危険箇所チェック ・玩具点検
				ヒヤリハット区分追加、見直し完成
９月	・遠足 (1,000 円) ・誕生会 (1,000 円)	壁面：動物・コスモス 製作：敬老の日	停電時対応訓練	・内部巡視 ・危険箇所チェック ・玩具点検
				ヒヤリハット基礎知識勉強会
10 月	・食育 (3,000 円) ・誕生会 (1,000 円) ・イベント行事 (3,000 円)	壁面：動物・とんぼ 製作：ハロウィン	不審者侵入時訓練	・運営会議 ・薬管理方法の定期検証 ・内部巡視 ・危険箇所チェック ・玩具点検
11 月	・公共施設見学	壁面：動物・落ち葉 製作：くり	防犯訓漣 (ていく合同)	・内部巡視 ・危険箇所チェック ・玩具点検
12 月	・クリスマス会 (20,000 円)	壁面：クリスマス 製作：クリスマス・年賀状	避難訓練 (ていく合同)	・運営会議 ・薬管理方法の定期検証 ・内部巡視 ・玩具点検
１月	・雪遊び ・イベント行事 (3,000 円)	壁面：お正月 製作：雪だるま	火災時避難経路確認	・伝達研修(託児所内：事故予防) ・内部巡視 ・危険箇所チェック ・玩具点検
２月	・節分	壁面：鬼・豆 製作：ます	防災教育	・内部巡視 ・危険箇所チェック ・玩具点検
３月	・食育 (3,000 円)	壁面：お雛様 製作：お雛様	停電時対応訓練	・運営会議 ・薬管理方法の定期検証 ・内部巡視 ・危険箇所チェック ・玩具点検

「光生舎虹の里経営計画」

〈基本目的〉

１．利用者の安全を守る
２．利用者が個性やちからを発揮することができる生活を実現する
３．利用者、家族の安心と期待に応える
４．行政や他障害福祉サービス事業所、地域の期待に応える

〈基本方針〉

１．利用者の気持ちに寄り添い、個人の価値観に配慮した支援を行う。
２．なぜ？を大切に、一つひとつの仕事の目的を明確にする。
３．職員の前向きで自由なアイデアを大切にし、目的の実現に向けた取り組みを活発にする。
４．利用者に対する介助や支援の必要性を共有し、一貫性のあるチームアプローチを実践する。
５．現場の抱える問題点・課題を明確にし、職員全員で向き合い解決を目指す。

〈キーワード〉

『 PDCA を基本に！ 』

ＰＬＡＮ　　～「計画」は反省を活かし、具体的で分かりやすく！
ＤＯ　　～ポイントを整理、全体に周知して「実行」！
ＣＨＥＣＫ　～「反省、振り返り」を行い、今後の課題を明確に！
ＡＣＴＩＯＮ～課題に対する「行動」をコツコツ確実に積み重ねる！

〈重点事項〉

◎　利用者・待機者確保の中期計画

１．基本の整備と徹底
２．利用者「日中活動」の充実
３．情報の整理
４．人材育成

〈利用者・待機者確保の中期計画〉

１．内部に利用者確保担当部門を設置する
①利用者確保担当責任者　　１名
②利用者確保担当責任者補佐　２名
③利用者確保現場連携担当者　２名

２．養護学校卒後のコンスタントな受け入れ実績の確立
①入所利用を目指しての、高校１年生からの体験利用計画策定とメリットの明確化。
②養護学校訪問により、寄宿舎、学校生活と施設生活のギャップを共感しあい、学校と連携した卒後進路の支援に務める。

３．相談支援事業所等との連携強化による受け入れ実績の拡大
①年３回の DM 送信と電話挨拶、近隣関係機関への訪問
②新規受け入れ窓口となる関係機関の開拓
③介護の強みを生かし、障がい者の高齢化、ADL 低下等による、サービス提供維持が困難になってきたケースの相談窓口としての PR 活動。

４．リハビリ強化のデイサービス共生型
①週３日の稼働を週５日稼働に見直し
②リハビリ提供環境と体制整備
③定期の魅力的イベントの企画と PR
④市内高齢者ターゲットにした、折込チラシ、ポスティングによる PR 活動。

５．短期入所稼働率上昇
①近隣通所系事業所、相談支援事業所への PR 活動
②養護学校在学中からのプログラムに基づく体験利用の促進

６．中長期計画進捗管理にて KPI を設定して取り組む。

〈重点事項の詳細〉

１．基本の整備と徹底

⑴安全を守るための事故防止活動

①禁止食材、危険食材リストの作成と定期更新

②保守点検実施方法の見直し

③定例事故検証　転倒対策強化

⑵２S 巡視活動

①整頓を重点とした活動の推進

②必要なもの使いやすい場所に

③使った後は正しい置き場所に

⑶セルフチェック活動の活性化

①リーダー会議による課題選定と対策の推進、管理

②サービスの質の自己評価項目策定。評価の実施と対応による質を向上する取り組みの促進

③年に１回の雇用管理チェック実施と対応による、働きやすい職場環境づくりの促進

⑷カイゼン活動

①誰もが改善を考え、実行できる風土づくり

②施設レイアウト、建物使い方の見直し

⑸書類保管ルール確立

⑹個別支援の充実、質の向上に向けた FIM の運用

①FIM 点数の見直し方法、流れの明確化

②介護必要度のベクトル合わせと対応の標準化

２．利用者「日中活動」の充実

⑴レク(クラブ活動)毎週木曜 13：30～開催

①囲碁、将棋、麻雀＋手芸、工作

②カラオケ

③スポーツ(ボッチャ・風船バレー)

④TV ゲーム

⑤各クラブを通じた施設内大会等の開催

⑵外出支援　希望者年２回以上を目標

①5 月中旬～９月 外出レク実施

②近隣徒歩、車での外出支援実施(アイス・セブン等)

⑶映画観賞会の定期開催
①Amazon プライムビデオ加入
②月１回の映画観賞会開催(土曜日)
→好評であれば回数増やす

３．情報の整理
⑴ほのぼの記録システム活用による情報の整頓
①記録の使い方のルール運用と精査
②掲示板、申し送り機能の活用による引継ぎ精度の向上
③スマホアプリ版活用で、チェック類記録を手軽に
④利用者基本情報の、ほのぼの一元管理
⑤9 月までは準備、デモ期間とし 10 月から本格運用を目指す
⑵アナログ掲示板・回覧方法の見直し
①重要情報とそうでない情報のしわけ
②掲示板の情報レイアウト見直し
③回覧するものしないもののしわけ
④回覧の仕方の見直し
⑶朝夕礼記録作成の流れの見直し
①誰が何のために使うものなのかを再確認
②ほのぼの申し送り機能も含め、現在の作成、掲示の流れを見直す。
③ほのぼのを使用しない場合は７月、ほのぼのを使用する場合は 10 月からの開始を目指す。

４．人材育成
⑴福祉施設職員としての基礎を学ぶ研修
①支援者・介護従事者の倫理感
②接遇
③コミュニケーション(聞き方、接し方)
※リブドゥコーポレーションｅラーニングを活用
学習後のアウトプットとフォローアップを実施
⑵気づきの視点、利用者目線の考え方を学ぶ研修
①車いす体験研修
②水分トロミ材体験研修

⑶外部講師を招いての研修(ＷＥＢも含む無料講座)
・水分補給～大塚製薬を予定
・口腔ケア～保健師を予定
・オムツ充て方～リブドゥコーポレーション予定
・褥瘡ケア～モルテン予定
※(1)と(2)を優先し、開催回数は調整する。

５．委員会・プロジェクト活動
(1)ヒヤリハット委員会(月２回定例開催)
利用者の安全を守るための取り組み
①原因究明と対策
②保守点検
③禁止、危険食材・食形態
(2)運営推進室(月２回定例開催)
①感染予防委員会
感染症予防、発生時の安全確保と健康管理
・感染予防に関する研修等の運営
・季節、状況に応じた感染予防活動
・健康診断の準備、運営
②虐待防止委員会
施設で虐待を発生させない
・虐待防止に関する研修等の運営
・虐待防止に関するセルフチェック活動の推進
③防災対策委員会
予防と災害発生時の安全確保
・防災対策に関する研修などの運営
・消防訓練の運営と精度向上
・自然災害想定訓練の運営と精度向上
・ＢＣＰの策定
④身体拘束適正化委員会
適正を欠く身体拘束の発生ゼロを目指す
・身体拘束防止に関する研修等の運営
・身体拘束発生状況の毎月の点検
・自助具等の使用に関する毎月の適正評価
(3) ５S 推進委員会(月２回定例開催)

見せられる施設づくりと使いやすい施設づくり
①施設内２S 巡視
②施設内３定促進
③車両３S 活動
⑷カイゼン活動推進 WT(月２回定例開催)
①全員参加の改善活動の促進
②建物の使い方の見直し
⑸人材育成推進 WT
①経営計画に沿った体感型内部実践研修
②経営計画に沿ったｅラーニング 福祉の基礎研修
⑹地域貢献推進 WT
①経営計画７と年間計画に基づく活動の推進
②法人地域貢献推進委員会と繋がった活動の推進
⑺セルフチェック推進
①リーダー会議による活動テーマの選定
②分担されたチーム、担当者による対策の実践
③取り組み事項の検証(1 クール３か月)
⑻労働衛生委員会
①経営会議メンバーと産業医による月 1 回の会議
②時間外管理
③有給使用状況管理
④うつチェック管理
⑤労働環境の点検と対処検討
⑼倫理委員会

６．資格・研修
⑴資格
①介護福祉士　片山リーダー・鈴木係
②サービス管理責任者新規　根本係
③サービス管理責任者更新　小林リーダー・小泉係
⑵クロストレーニング
①リーダー層・一般職３級以上の法人内他事業所クロス
②介護員の内部厨房定期クロス(フォロー体制構築)
③調理員の他部門厨房クロストレーニング
⑶年間計画に基づく研修の実行、参加促進

７．地域貢献推進の取り組み

虹の里地域貢献推進に関する指針

・地域住民との関わりの機会を増加させる。

・可能な限り利用者が参画、関与できる方法で活動する。

⑴施設前側道美化活動

①花植え

②利用者・職員による活動から町内住民を巻き込んだ活動を目指す。

⑵交通安全街頭啓発への参加

①全国交通安全週間、朝全日程参加

②利用者事前参加希望調査の実施と参加者の調整

③1 日に参加する人員は職員１名、利用者２名メンバーは日替わり

⑶建物、設備の地域開放

①地域開放マニュアルの見直し

②百戸地区開放可能資源の取りまとめと地域へのお知らせ

⑷百戸神社草刈り

⑸指定避難所としての備えの再整備

①利用者３日間、地域住民１日程度を目安とする備品、消耗品類の点検整備と、管理方法の見直し。

②非常用ガス発電機の整備点検実施と、その後のメンテナンスに関する計画づくり。

⑹避難所受け入れ机上シミュレーションの実施

①2023 年度 内部実地訓練開催を前提とした準備とする。

②演習表(行動フロー図)の作成

③演習表を基にした机上シミュレーションの実施と演習表の修正と、実地訓練に備えた手順書や掲示物の整備。

⑺法人地域貢献推進委員会と連携した取り組みの推進

８．年間行事計画

⑴誕生者会食

①施設内にて出前＋誕生ケーキ提供で実施。

②誕生者席は装飾する。予算 2,000 円／1 回

③出前料理を写真撮影し、メニュー表を作ることで選択しやすく、視覚的にも楽しめるようにする。

〈年間予定〉（2022 年度）

	行　事　名	予算内訳	余暇充実
４月	開所 20 周年記念会食	行 625,000 円	クラブ活動４回 映画鑑賞１回
５月	GWお楽しみ会 鍋会食 オリジナル会食	行 50,000 円 給 100,000 円 給 150,000 円	クラブ活動４回 映画鑑賞１回 外出レク
６月	鍋会食 オリジナル会食	給 100,000 円 給 150,000 円	クラブ活動４回 映画鑑賞１回 外出レク
７月	ジンギスカン会食	給 180,000 円	クラブ活動４回 映画鑑賞１回 外出レク
８月	ジンギスカン会食	給 180,000 円	クラブ活動４回 映画鑑賞１回 外出レク
９月	敬老会(食事・写真込み) 鍋会食	行 250,000 円 給 100,000 円	クラブ活動４回 映画鑑賞１回 外出レク
１０月	ハロウィン(食事込) 鍋会食	行 250,000 円 給 100,000 円	クラブ活動４回 映画鑑賞１回
１１月	衣類移動販売 鍋会食 オリジナル会食	行 5,000 円 給 100,000 円 給 150,000 円	クラブ活動４回 映画鑑賞１回
１２月	大忘年会(食事込) クリスマス会食	行 812,500 円 給 100,000 円	クラブ活動４回 映画鑑賞１回
１月	お正月お楽しみ会 新年会食 鍋会食	行 50,000 円 給 150,000 円 給 100,000 円	クラブ活動４回 映画鑑賞１回
２月	豆まき 節分会食 鍋会食	行 20,000 円 給 150,000 円 給 100,000 円	クラブ活動４回 映画鑑賞１回
３月	ひな祭り会食 鍋会食	給 150,000 円 給 100,000 円	クラブ活動４回 映画鑑賞１回

※20 周年内訳…利用者 75 名　職員 45 名　ゲスト５名
（@5,000 円／1 人）

※大忘年会内訳…利用者 75 名　職員 45 名　ゲスト５名
（@6,500 円／1 人）

９．リスク管理計画

(1)ヒヤリハット活動

①事故事例から改善活動

②危険発見活動
③保守点検
④法人委員会による他施設からの情報収集

⑵感染予防活動
①感染予防マニュアルの見直しと予防の取り組みの整理
②ノロウィルス初期対応シミュレーション
③コロナウィルス等感染症初期対応シミュレーション

⑶救急救命訓練
①施設内訓練　…　消防の協力を仰ぐ
②施設外訓練　…　赤平市で行う訓練に参加する

⑷消防訓練
①年２回の消防訓練(昼間、夜間)
②部分訓練(通報・避難誘導・消火)

⑸災害避難訓練
①風水害を想定した避難訓練の実施
②シェイクアウト訓練の実施
③非常用発電機起動訓練
④非常用備蓄品使用訓練(照明設備、食事提供等)

⑹BCP の策定と内部説明会

10. 設備・環境整備計画

⑴安全を守るための環境設備
⑵快適を提供するための環境設備
⑶生産性を向上するための環境設備

〈設備計画〉

№.	実施月	設　備　名	台数	設　備　予　算	設　備　目　的
1	11 月	電動ベッド	5	1,100,000 円	老朽化
2	10 月	浴室改修	一式	23,000,000 円	老朽化
3	10 月	食堂照明改修	一式	4,000,000 円	快適
4	5月	屋上水漏れ改修工事	1	1,400,000 円	老朽化
5	9月	ほのぼのインストール	11	1,485,000 円	生産性
6	9月	スマホヘッドセット	一式	1,050,000 円	生産性
8	8月	バス	1	10,050,000 円	老朽化
			計	42,085,000 円	

「光生舎虹の里デイサービスセンター経営計画」

デイサービスは 2022 年１０月に共生型サービスに移行。
移行と同時に、共生型デイサービスの経営計画に変更する。

１．各種行事への参加
以下の行事に参加します。(時期は昨年度のもの)
・お膳会食(5 月、９月、１月、３月)
・夏祭り(7 月)
・クリスマス会(12 月)

２．レクリエーションの提供と充実
・カラオケ、ウノなどを中心に、希望に合わせたレクリエーションを提供します。
・月に一度のお楽しみ会の実施。
・入所者も参加できるレクリエーションの導入で、デイサービス利用者以外の人との関わりの場を構築する。
・デイサービス専属スタッフも視野に入れた配置体制を検討する。

３．情報の見える化
・利用スケジュールが伝わりやすい仕組みづくり。
・活動内容が分かる日課表づくり。
・利用者の状態や家族の意向、相談内容等が伝わる環境づくり。

４．デイサービスミーティング
・毎月１回開催
・レクリエーション・お楽しみ会内容の検討
・経営計画の具体案の検討
・ケアプランの作成について(支援会議含む)
・その他

「光生舎フーレビラ経営計画」

〈基本目的〉

１．障害者支援施設として、利用者の安全を守る
２．利用者の「より主体的な生活」の実現に向けた支援を行なう
３．家族の安心と行政や教育機関の期待に応える

〈基本方針〉

１．利用者一人ひとりの人格と個性を尊重する
２．利用者が意欲的に取り組める関わりや、環境を提供し、自立度を高める
３．課題に対し安易に量(時間延長や人員増など)に頼ることなく、常に質の向上をもって解決を目指す
４．仕事上の喜びや悩みは一人のものとせず、職員全員で共有する
５．仕事の成果は日常の現場にあると肝に銘じ、現場主義に徹する

〈キーワード〉

『 プラスワンの気遣い ～心ひとつに誇れる施設へ～ 』

〈重点事項〉

１．基本の徹底
２．個別対応への支援水準向上
３．適当な施設環境の実現

〈重点事項の詳細〉

１．基本の徹底
三つの活動
⑴ヒヤリハット活動
施設から危険要素を排除し、安全を追求する活動を続ける
⑵施設３Ｓ巡視活動
毎月の施設内巡視で整理・整頓・清掃の制度を上げる
⑶セルフチェック活動
毎月のセルフチェック実施と、結果後の改善活動で職場規律を向上

２．個別対応への支援水準向上

⑴他者理解プログラム
①他者理解プログラムの継続
⑵支援対応力の向上
①担当制廃止の推進
②クロストレーニング
⑶個別情報の一本化
①新シートの作成
②情報の更新
⑷多職種間連携
①健康推進会議の開催
⑸活動効果の検証

３．適当な施設環境の実現
⑴快適な居住空間の実現
①安全な居住空間の整備
②快適な居室空間の提供
⑵快適な業務環境の実現
①業務効率の向上
②ICT の導入
⑶障がい者一般雇用へ向けた業務の細分化
①業務の細分化
⑷活動効果の検証

〈計画の詳細〉
１．個別対応への支援水準向上
目的：特性に合わせた一貫した支援よる、自立度の向上と、
安心できる生活の実現
支援スキルの習得による、個別支援への対応力向上
⑴他者理解プログラム
①他者理解プログラムの継続
利用者理解、特性理解を深める活動の展開
【取組内容】
Ⅰ他者理解シートの更新
支援員各々が実施している支援・対応の工夫を
シートに追加
※利用者対応への参考、支援視点の広がりに繋げる

Ⅱ他者理解活動
対象利用者を選定し、理解を深めることを１ヵ月意識し支援する
※毎月２名を選定、内１名は前年実施利用者より
Ⅲディスカッションの実施
毎月、活動結果をもってディスカッションを実施
新入舎員の理解と把握へ繋げる

⑵支援対応力の向上

①担当制廃止の推進
担当制廃止の実践を進め、15名追加を達成させる
※介助率の高い方も追加対象

②クロストレーニング
サービス形態が同様の他施設で働くことにより、視野の拡大と支援知識の幅増に繋げる
【取組内容】
Ⅰトレーニングシートの作成と更新
観る視点や、学ぶ視点等をまとめたシートを作成
活用開始以降、必要性に応じ、シートの見直し実施
Ⅱクロストレーニングの実施
＜支援員の派遣＞
実施先：他及び自法人の他施設(暑寒の里を予定)
期間：７月～11月(毎月１名、計５名)
日数：平日５日間
＜支援員の受入＞
※期間、日数は派遣同様
・行動予定表を作成し、様々な現場に入る
・担当者は決めず、様々な支援員と関りを持つ
Ⅲ内部伝達研修
トレーニング実施後、シートを元に内部伝達実施
※自施設の支援向上に繋げる

⑶個別情報の一本化
利用者の性格や特性、支援や対応における情報の一本化を図る
〇利用者理解を深めるためのツールとして活用
〇新入舎員に対する利用者理解促進のツールとして活用
〇支援方法の検討材料として活用

〇誰でも対応ができ、統一した支援の提供を可能とする
ツールとしての機能

①新シートの作成

Ⅰアセスメントシート

Ⅱ他者理解シート

Ⅲその他、担当が中心に対応している支援情報

※上記、Ⅰ～Ⅲの情報をまとめ、一つのシートとする
新入舎員へ活用の為、利用者顔写真をシートに添付

②情報の更新

支援会議にて確認、更新を基本とする
但し、現場活用する上で、随時更新が望ましい項目に
関しては変更を可能とし、記載情報を都度更新とする

⑷多職種間連携

利用者の健康状況の共有を図り、健康維持・増進に努める

①健康推進会議の開催

医務主体にて、利用者の健康管理データより対応協議

【会議概要】

会議参加者：SL、看護師、栄養士、支援員
役割：看護師(進行、レジュメ作成、議事録作成)
SL(レジュメ確認)
会議日：バイタル測定結果の報告完了後
会議内容：バイタルの結果より支援対応の検討の
必要性がある事項
医務からの議題提案事項
支援開始以降の状況確認
バイタル結果より支援対応が必要な事項
医務より議題提案事項
支援対応後の結果確認

⑸活動効果の検証

ＫＰＩ指標：担当制廃止１５名追加で 100%達成

２．適当な施設環境の実現

目的：安心安全な環境を整備し、快適な居住空間を実現
働きやすい業務環境を実現させ、充実した支援を提供

⑴快適な居住空間の実現

①安全な居住空間の整備

【整備内容】

・廊下誘導灯設置(手摺位置)
消灯後に廊下が照らされ、手摺の位置もわかり、夜間移動時の安全化を図る
※LED テープライトを設置

・浴室洗身チェア設置(各階浴室)
全て介護用チェアへ変更し、安定性が保たれた座位で洗身できる事で、浴室内の安全化を図る
※介護用シャワーチェアを設置

・ドアレール撤去(全利用者使用空間)
レールを撤去する事で、車椅子や歩行器の引掛かりを防ぎ、移動時の安全化を図る
※令和４年度は検討期間とし、70 カ所以上の該当ドアレールを検証

②快適な居室空間の提供

【提供内容】

・居室ベッド入替(2 階 1 人部屋)
寝具交換や掃除が行いやすく、スペースの広さも確保され、居室生活における快適化を図る
※軽量な扱いやすいシングルベッドを設置

⑵快適な業務環境の実現

①業務効率の向上

【取組内容】

・施設内ドア施錠の電子ロック(施設全体)
カードキーシステム施錠とし、電子ロック化することで、利便性を向上させ効率化を図る
※計 21 カ所の電子ドアを設置(自動ロック)

②ICT の導入

ICT 導入により、業務の効率化や情報共有の快適化を実現(施設内 Wi−Fi 環境整備のもと)

【取組内容】

・業務用スマートフォン導入
日誌や報告書記入、業務連絡、在庫管理等、スマホ導入により、あらゆる効率化を図る
※スマホ５台を購入
＜具体的使用方法＞

設置場所：事務所・各階ステーション等
アプリ：服やっくん(誤薬防止)
バディコム(連絡ツール)

・厨房業務のデジタルツール
掲示物確認や業務工程確認等、デジタル化する事により、効率化を図る
※タブレッド、サイネージの検討と設置

(3)障がい者一般雇用へ向けた業務の細分化

①業務の細分化
2023 年度に計画されている、障がい者一般雇用へ向け、準備を行う
【取組内容】
・支援、間接業務の洗い出し
・洗い出した業務の細分化
・業務内容の確立

(4)活動効果の検証

①各項目取り組み後、効果検証と見直し
ＫＰＩ指標：各計画の具体的な準備段階で KPI を選定し、計画着手とする

３．福祉ステークホルダーとの関係強化

目的：地域や家族、関係機関との結びつきを強化し、期待に応えられる事を前提に、質の高い施設運営を目指す

(1)関係機関との情報共有

関係機関へパンフレットを郵送し、情報提供

①情報提供方法
・相談支援事業所(空知管内)
・養護学校(空知管内及び入所歴のある旭川地区)
※4 月より準備し、５月中に全機関へ送付

②情報提供内容
・施設紹介パンフレット
・待機情報
・施設活動(行事、日中活動)の様子

③養護学校卒業生の近況報告
・２年間の卒後支援中を対象(7月・１１月・３月)
・養護学校と家族へミニ広報誌を送付する

④利用相談は書類確認、面談実施の上受け入れの判断(道外含み)　※面談はオンラインを含めて対応

(2)地域(町内会)との連携拡充

町内の清掃活動、交通安全街頭啓発や行事に参加する事とともに、施設行事への参加を呼掛け、地域との交流を図る

①全国交通安全運動期間の町内街頭啓発への参加

・春、夏、秋の年３回参加

②町内ゴミ拾いを実施

・４月～９月の間、月に１回実施

③町内会行事への参加

・８月に行われる七夕・盆踊りに参加

・子ども向けの出店を行い、町内の子ども達を対象

④イルミネーション

・明るく活発的な町内づくり

・防犯を含めた啓蒙

設置場所：玄関・食堂窓・庭等へ

※令和３年度の実施をもとに対応(必要に応じ増)

⑤町内除雪を実施

・冬季間、町内の除雪活動を行う

(3)赤平市内の社会奉仕団体との連携強化

ライオンズクラブ、社会福祉協議会、市役所との連携

①ライオンズクラブ主催の餅つき交流会、他行事への参加

②ごみゼロ運動、ゴミ拾いへの参加

(4)家族会、地域との交流事業開催

①５月に家族交流会(総会)を実施する

４．年間行事計画

(1)活動のポイント

「利用者と職員が共に作り上げる行事(利用者の意欲向上)」

(2)利用者の役割

①利用者の実行委員を選定し、利用者の意向を反映

②準備・後片付けの時に、始まりと終わりに挨拶を行う

③準備・買い出し・司会進行・後片付け・放送係・挨拶係等

④反省会へ参加し意見を把握(反省会の前半に参加する)

(3)職員の役割

①利用者の特性に合わせた行事を組む

②利用者の能力に応じ、利用者の役割を提供する
③日中活動・余暇時間を活用し、利用者と準備する
④反省会に利用者の参加を促し意見を取り入れる
⑤実行委員会の役割として会計を入れる
⑥行事計画の進捗状況を定期的に報告し、決裁を受け行事の３日前には職員に行動予定・概要を周知する。

(4)会食の概要

①誕生者会食
毎月、誕生者と会食

②施設会食
毎月施設会食を実施(野外・鍋)
【誕生月該当者】
・利用者、職員ともに会食でお祝い
・長寿祝いも兼ねる
(還暦・禄寿・古希・喜寿・傘寿・半寿・米寿・卒寿)
・衣装や被り物で「誕生者」を一目でわかる工夫
・年間で対象者リスト表を作成

③行事会食
年間行事計画に基づいた会食を実施

〈行事 年間予定〉

月	行　事　名	指定会食	行事費	給食費 福利厚生費	互助会
4月	ザ・フーレベストテン！(食)	麺	50,000 円	＋給食費	
5月	家族交流会(食) GWおたのしみ会	マグロ解体	200,000 円 30,000 円		350,000 円
6月	e-スポリンピック(食)	グローバル	50,000 円		150,000 円
7月	法人夏まつり 花火		20,000 円		
8月	町内会盆踊り お盆お楽しみ会		30,000 円		30,000 円
9月	あにまるキッチンパーク		200,000 円		
１０月	秋の味覚祭り(食)		150,000 円	＋給食費	
１１月	学芸会(食)	ご当地グルメ	50,000 円	＋給食費	
１２月	ライオンズ餅つき会 クリスマスパーティー(食)		550,000 円	200,000 円	20,000 円
1月	新春お楽しみ会		50,000 円		
2月	節分 FRB オリンピック(食)	バイキング	10,000 円 30,000 円		100,000 円
3月	ひなまつり♡(食) 球技大会	お寿司	50,000 円 30,000 円	＋給食費	

※　　は給食材料費(10 万円程度)捻出し、行事費用とバランスを取る
※(食)は食事込みの行事
※家族会の実施有無により、互助会よりグルメツアーの経費捻出の判断をとる

【新行事概要】
・ザフーレビラベストテン：カラオケ大会をベストテン風に(ゲスト招待)
・あにまるキッチンパーク：動物園と軽食を提供(小学校・保育所への案内)
・秋の味覚祭り：秋の盛大なお祭りで、味覚を堪能
・学芸会：劇・器楽・合唱・演奏等、学芸会を開催
・球技大会：「球」をモチーフとした球技各種による大会

＜ドライブグルメツアー＞
少人数グループで利用者の嗜好を主に、「ドライブ」「グルメ」に特化した外出支援
〇予算：互助会を予定 182,000 円(91 名×2,000 円)　※職員込
〇期間：５月～10 月(月２回程度計画)
〇時間：５時間程度を目途(片道１時間以内の距離)

〈地域貢献 年間予定〉

実施月	地域交流事業、行事
４月	春の交通安全街頭啓発(6 日～15 日)、町内ゴミ拾い
５月	町内ゴミ拾い
６月	町内ゴミ拾い
７月	夏の交通安全街頭啓発(13 日～22 日)、町内ゴミ拾い
８月	町内七夕・盆踊り参加・出店、町内ゴミ拾い
９月	秋の交通安全運動街頭啓発(21 日～30 日)、町内ゴミ拾い
１０月	落ち葉拾い＆焼芋(10 月下旬～11 月上旬)
１１月	イルミネーション点灯(～3 月)
１２月	ライオンズ餅つき会、町内除雪
１月	町内除雪
２月	町内除雪

※一部、行事計画と比例

５．委員会・プロジェクト活動

(1)ヒヤリハット委員会

①原因究明と対策
②危険発見活動
③保守点検

(2)虐待防止委員会

①伝達研修(外部・内部)

②セルフチェック
③身体拘束確認
⑶５Ｓ推進委員会
①施設内の３Ｓ
②情報の２Ｓ
③車両の２Ｓ
⑷運営推進委員会
①健康管理部会
②防災対策部会
⑸研修管理委員会
①施設内外の研修計画
②研修報告と伝達研修のとりまとめ
⑹セルフチェック活動
①セルフチェックアンケート配布と集計
②各会議等より課題選定、各委員会等に対策検討指示
③各委員会中心の点数向上に向けた対策の実施と検証
⑺業務見直し活動
①各委員会からの問題提起による見直し活動
②リーダー会議からの問題提起による見直し活動
③個人からの問題提起による見直し活動(改善提案)
⑻資格
介護福祉士　菊地係
サービス管理責任者　坂本係
社会福祉主事　坂本係

６．リスク管理計画
⑴ヒヤリハット活動
①事故事例から改善活動
②危険発見活動
③保守点検
④法人委員会による他施設からの情報収集
⑵感染予防活動
①ノロ発症初期対応のロープレ実施
②感染病発症時の対応再確認
③運営推進委員会　年間スケジュールに沿った活動
⑶虐待防止活動

①内部研修の開催と外部研修への参加
②考え方の共有を図るためのディスカッション開催
③虐待防止委員会　年間スケジュールに沿った活動

⑷救命救急訓練
①施設内訓練　…　消防の協力を仰ぐ
②施設外訓練　…　赤平市で行なう訓練に参加する

⑸消防訓練
①年二回の消防訓練実施(昼間、夜間)
②部分訓練の強化(通報・避難誘導・消火)
③運営推進委員会　年間スケジュールに沿った活動

⑹災害避難訓練
①地震、土砂、風水害を想定した避難訓練を実施
②シェイクアウトへの参加

7．研修計画

研修管理委員会を設置し、研修全般の管理を行う

〇委員会の役割
- 月に１回開催
- 研修内容より、研修参加者を選任
- 研修の振返り、伝達方法を決める
- 参加研修、伝達研修の記録
- 各委員会内容に付与する研修は、各委員会と連携

＜施設外研修＞

研修内容	受講者
タナベ幹部候補生スクール	池田主任
サービス管理責任者取得講習	坂本係
サービス管理責任者実践研修	池田主任
サービス管理責任者更新研修	長谷川係長
介護福祉士実務者研修	菊地係
社会福祉主事スクーリング	坂本係
虐待防止研修	支援員

＜施設内研修＞

虐待防止伝達研修	全職員
ノロシュミレーション	全職員

＜法人内研修＞

管理者養成研修	長谷川係長
サンキュウ研修	該当者
ホスピタリティ研修	該当者

＜クロストレーニング＞

暑寒の里	支援員５名

※上記研修は基本受講研修
※福祉実務等、その他関連する研修は委員会にて選定

８．住環境整備計画
施設内ドア電子施錠(効率化)
野外散水栓(効率化)
体育館手洗い場蛇口(効率化)
書庫扉(効率化)
各階段踊り場窓結露防止(快適性)
アプリケーションツール(効率化)
タブレット(効率化)
廊下 LED ライト(危険防止)
各浴室シャワーチェア(危険防止)
１人部屋ベッド(快適性)

〈設備計画〉

No.	実施月	設　備　名	設　備　予　算	設　備　目　的
1	6月	居室エアコン設置工事	20,377,620 円	危険防止
2	6月	居室エアコン	12,002,380 円	危険防止
3	12 月	食堂手洗い場シンク	926,000 円	老朽化
4	8月	アコーディオンカーテン	390,500 円	老朽化
5	4月	足元灯	470,000 円	危険防止
6	10 月	ホイールローダー	1,250,000 円	効率化(百戸４施設共有)
7	10 月	服やっくん初期費用	300,000 円	危険防止
		計	35,716,500 円	

「光生舎クリーン・セブン経営計画」

〈基本理念〉
企業授産の追求・発展と利用者ニーズの実現

〈基本目的〉
１．利用者が自信をもって働く職場として、顧客と社会に貢献する。
２．障害者支援施設として、利用者の主体的かつ安定した生活を実現する。
３．就労継続支援事業所として、障害者雇用の拡大に貢献する。

〈基本方針〉
１．労働者、入所者の安全をなによりも優先する。
２．顧客に対し安全で良質な製品を提供しつづける。
３．顧客の潜在的なニーズを発掘し、一番に選ばれる工場を目指す。
４．企業授産の理念を念頭に利用者の個性や、可能性が活きる環境・活動を創造する。
５．生産や支援の課題には常に質の向上を持って解決を目指す。
６．共に働き、生きる仲間として、すべての舎員の喜びや困難を共有する。

〈キーワード〉
『 三位一体 』～正しい『型』をしっかり身につける～

〈重点事項〉
１．資質向上
２．きれいな職場と安全対策
３．利用者確保と満足度向上
４．作業の効率化

〈重点事項の詳細〉
１．資質向上
⑴報連相の徹底。
⑵自ら考え行動する。
⑶内部研修の実施と外部研修の参加と伝達。

２．安全対策ときれいな職場づくり
⑴区画整備と工場内形跡管理の見直し。

(2)巡視指摘箇所 100%改善。

3.　作業の効率化
(1)作業内容の見直し(アンラーニング)
(2)改善提案書の全員提出。

4．利用者確保と満足度向上
(1)利用者さんのニーズを実現させる。
・アンケートの実施

〈研修計画〉

No.	実施月	研　修　名	対象者	回数	担当者
1	８月	クリーニング基礎知識	利用者・一般者	1	馬場係・髙橋係
2	10月	機械メンテナンス	男性	1	塚川主任・馬場係
3	12月	虐待防止	職員・一般者	1	清水主任
4	２月	虐待研修	利用者	1	清水主任
5	毎日	本読み	職員		
6	随時	外部研修	職員	6	

※ 外部研修の参加は施設・工場に合った研修に随時参加する。

〈設備計画〉

No.	実施月	設　　備　　名	台数	設 備 予 算	設　備　目　的
1	６月	事務所照明 LED 化	1	308,000 円	安定器故障により照明数減の為
2	10月	タオルフォルダー増設	1	2,680,000 円	タオル処理量増の為
			計	2,988,000 円	

〈リネン設備〉

No.	実施月	設　備　名	台数	設 備 予 算	設　備　目　的
1		バスタオル		4,500,000 円	新規リネン・廃棄補充（前年の購入と廃棄より試算）
2		フェイスタオル		2,000,000 円	新規リネン・廃棄補充（前年の購入と廃棄より試算）
3		オシボリ		1,000,000 円	廃棄補充(前年の購入と廃棄より試算)
4		ベビー		400,000 円	廃棄補充(前年の購入と廃棄より試算)
5		つなぎ		400,000 円	廃棄補充(前年の購入と廃棄より試算)
6		肌着		100,000 円	廃棄補充(前年の購入と廃棄より試算)
7		ニットウェア		7,860,000 円	新規リネン・廃棄補充（前年の購入と廃棄より試算）
8		その他		200,000 円	廃棄補充(前年の購入と廃棄より試算)
			計	16,460,000 円	

「特別養護老人ホームしらかば荘経営計画」

〈基本理念〉

特別養護老人ホームしらかば荘は、利用者様一人ひとりが尊重され、「幸せな生活である」と感じられる施設サービスを提供すると共に、地域住民と協力や連携をしながら高齢者福祉を促進していくことを理念とする。

〈基本目的〉

１．利用者の１日１日を大切にする
２．個性を尊重した支援を行う
３．高齢社会の担い手として地域の期待に応える

〈基本方針〉

１．利用者目線で物事を考え、その人らしい生活が送れるよう支援する
２．職員が連携を強化し、統一したケアを行う
３．利用者が快適な生活を送れるように環境を整備する
４．地域・病院・福祉機関等との連携を深め、頼られる施設づくりを行う

〈キーワード〉

『 Smile one Word ～笑顔一言～ 』

〈重点項目〉

１．職員育成
⑴目配り・気配り・心配りのできる人材育成
⑵言葉遣いの教育・指導

２．ケアの充実
⑴サービス計画に基づいたケアの徹底
⑵余暇時間の充実

〈重点項目の詳細〉

１．職員育成 〔R３年～R７年(R４年度/２年目)〕

具体的活動

(1)目配り・気配り・心配り

①【しらかば荘のルール】セルフチェック実施と評価

・実施率が低い項目を１カ月の活動目標に設定し、実施・評価・反省を行う(目標：実施率 100%)

②セルフチェック【利用者サービス】の項目の見直し

・項目の見直しを行い、内容の変更や追加をする(4～6・1～3 月)

(2)良いケアを増やす取り組み

①良いケアを増やす活動

・良い行動・良いケア報告書提出 BOX を設置する

・提出された内容は、良い対応として掲示する

②『対応４原則』を作成し朝礼時に声に出して読み上げ、意識を高める

・対応４原則を作成する(4 月～7 月)

・行動４原則の後に続いて斉唱する(8 月～)

(3)接遇研修・教育

①接遇勉強会

・研修会を開催する：USB 接遇研修用テキストを使用する

・入舎１年目…介護現場における接遇の重要性(30 分)

・２年目以降…接遇の基本とコミュニケーション(90 分)

・研修後は報告書を提出する

・研修報告書の「業務に取り入れたいこと」に記載した内容を現場で活用する取り組み(どんな場面でどのように活用したのか)

②アンガーマネジメント勉強会

・例を用いてディスカッション形式で考える

・奇数月の第３週目にディスカッション週間を設定する

・ディスカッションの内容を全体回覧し、情報共有を行う

２．ケアの充実 WT

具体的活動

(1)サービス計画に基づいたケアの徹底(毎月)

①サービス計画の周知徹底

・各階寮母室のホワイトボードに利用者個別の重点的なケア内容を掲示

ケア内容を見える化する【担当：利用者担当】

②サービス計画の実行

・実行出来たかどうかを○×で記載【担当：日勤帯勤務者】
最低限、午前と午後１回ずつ実施し１日２回記入する

③サービス計画実行後の評価【担当：利用者担当】

・毎月実施率や実施後の状況を評価
・評価を元に次月の取り組みを検討

⑵利用者の余暇時間の充実

①移動動物園(6 月)【計画担当：ＷＴ、実施担当：当日出勤者】

・水曜日 14:00～16:00 に施設前駐車場で実施【ﾉｰｽｻﾌｧﾘｻｯﾎﾟﾛ】
・希望する利用者を順番に案内し動物と触れ合ってもらう
地域住民や病院へ案内し地域貢献も兼ねる

②ＤＶＤ鑑賞会(月１回)【担当：当日出勤者】

・毎月第２日曜日 14:30～16:30 に実施
・映画や音楽コンサートのＤＶＤを鑑賞する

③敷地内散歩(5～9 月)【担当：当日出勤者】

・気温 20～27 度位を目安に実施
・10:00～10:30、15:30～16:00 の時間で実施
・散歩が出来そうな日には朝礼で呼びかけを実施
天気、気温、人員を考慮し主任、リーダー、サブリーダーが判断する

④希望レクリエーション(11～2 月)【実施担当：当日出勤者】

・毎月第４水曜日 15:30～16:30 に希望者を集い実施
・10 月 風船バレー【計画担当　介護】
・11 月 カラオケ　【計画担当　看護】
・　１月 書　　道　　【計画担当　事務所】
・　２月 将　　棋　　【計画担当　介護】

⑤利用者の希望に沿った個別ケア(年１回)【担当:利用者担当】

・利用者の希望調査(前年度の調査を参考に)
・実施月と実施内容の検討、報告
・実施日の１週間前までに実施計画書の提出
・実施【担当：利用者担当】
・実施報告書の提出(実施後１週間以内)
・進捗状況確認【担当：ＷＴ】

３．各委員会活動

〔ヒヤリハット委員会〕

重点項目

・事故原因の究明、周知

・ヒヤリハット発見活動の強化
具体的活動内容
(1)事故原因の究明、周知
①ヒヤリハットミーティング開催(１回/２週間…第２,４週)
・対策評価や対応の協議
・協議結果の周知
②センサー見直しの検討会議の開催(１回/月)
・ケアマネージャー、看護師、虐待防止委員、ヒヤリハット委員で協議
(2)ヒヤリハット発見活動の強化
①ヒヤリハット発見活動の取り組み
・事故・ヒヤリハット報告書の提出目的についての勉強会(５月…職員に伝達講習を行う)
・事例検討会議(１回/月…第２週の週末までに開催)
・重大な事故や、特殊なヒヤリハット等、周知に急を要する案件の内容、対応の周知(朝礼、夕礼での数日間の集中的呼びかけ)
・ヒヤリハット報告書の提出方法の見直し(６月まで)
②臨時ヒヤリハットミーティングの開催(随時)
・事故ランクＡの事故を、介護員、ケアマネージャー、看護師、ヒヤリハット委員で検証
・検証内容の周知
③セルフチェック(１回/月)
・職員原因の事故防止の観点から実施
・項目は必要に応じて都度更新
・統計で点数の低い項目や重要項目から、今月の目標として朝礼で注意喚起
④設備定期点検
・ナースコール動作点検(１回/月)
・扉センサー電池チェック(１回/月)
・テーブル、椅子、手すり点検(１回/２ヶ月)

〔感染予防委員会〕
重点項目「感染予防に対する知識を深め、感染拡大防止に努める」～持ち込まない・拡げない～
具体的活動
(1)感染予防活動 ～持ち込まない～
①感染症・対応への知識の向上

・講習会を開催し、感染予防・拡大防止の手順を職員へ周知
新型コロナウイルス講習会(5 月)4 月資料準備
手洗い講習会(6月)
インフルエンザ・ノロウイルス講習会(11 月)

②感染予防強化の取り組み

・出勤前の検温、出勤時・外出後の手洗いうがい、手指消毒の継続
・感染症流行状況を情報収集(保健所ホームページ等)し状況に応じた対応をとる(毎月)
・食中毒警報発令時、期間中ホワイトボードにマグネットを貼り朝礼で呼びかける
・加湿器の設置(冬期間)
共有スペース・各居室への加湿器の設置
・緑茶提供期間の設定(11 月～翌年 5 月)
インフルエンザの流行時期に予防効果のある緑茶を提供する

(2)感染拡大防止活動 ～拡げない～

①各感染症発症時の対応マニュアルの周知(新型コロナ・ノロ・インフルエンザ)

・各感染症対応装備について動画マニュアル(4 月 5 月 6 月)
・新型コロナウイルス隔離方法の周知(11 月)
・施設内の温度・湿度計にてデーター収集(夏季・冬季)
  ➢ 掛け布団を出す、片付ける判断の目安にする
  ➢ 衣替えの時期の判断(5S 委員と連携)など目安にする
・湿度 40%を下回った場合、行動予定表に「乾燥注意報」を掲示し、朝礼で呼びかける(冬季のみ)

②次亜水噴霧器の管理

・次亜水の補充　毎月 1 回洗浄

③感染予防セルフチェック実施

・毎月セルフチェックを実施することで啓発、結果を基に課題を設定し取り組む

〔5S推進委員会〕
重点項目
・3S(整理・整頓・清掃)
・居室巡視・3S 巡視
具体的活動

(1)３Ｓ(整理・整頓・清掃)

①施設内共有スペースの清掃活動(１回/月)

・各委員会ローテーションで実施する

②形跡管理の点検と維持(1 回/月)

③セルフチェックの実施

・実施率の低い結果から毎月の目標を立て、朝礼で周知する

④カーテン洗濯４月～９月

⑤ワックス掛け

・９月～3 月(2 階居室、その他は進行状況を見ながら実施)

⑥「5S とは、3S とは何か」プリントにて再周知し、後日抜き打ちテスト行う(全職員対象、周知５月 テスト６月)

(2)居室巡視・3S 巡視

①居室巡視

・巡視日は毎月の委員会で決定。巡視日前に担当者に居室清掃するよう周知する。

・指摘箇所の写真を撮影し、結果と担当者別のグラフを掲示。推移を把握しやすくし 3S に対する意識の向上を目指す。

・指摘後、改善率を出し改善されてない居室担当者に個別に指摘を行う。
担当居室者に周知後、委員会メンバーで確認を行う。

②3S 巡視

・3S 巡視指摘箇所の迅速な改善の実施。

・各部署ごとに過去の指摘箇所を一覧にして掲示。見落としがちな箇所を把握してもらい注視した清掃を行うようにする。

・3S 巡視　指摘件数推移(施設)グラフ回覧。

〔防災対策・交通安全委員会〕

重点項目

「もしもの時に備え、防災、安全に対する意識を高める」

具体的活動

(1)防災対策

①消防訓練の実施

・日中消防訓練：７月、夜間消防訓練：２月
日中消防訓練準備５月～6 月 日中消防訓練実施・反省

７月～８月
夜間消防訓練準備 12 月～1 月 夜間消防訓練実施・反省２月～３月

②地震・風水害・土砂災害想定訓練(施設電気設備点検に合わせ実施)
・準備８月 実施・反省９月～10 月

③勉強会の開催(実際に手で触れ、体験・習得してもらう)
・車両操作講習(4 月～9 月)
・水、電源確保(7 月～9 月)
・事故発生時対応周知(10 月～12 月)

④セルフチェック(毎月)
・実施率低値項目についての個別指導や目標設定へつなげる

⑤防災点検(毎月)

(2)交通安全

①春夏秋冬の各交通安全週間時の呼びかけの実施

②セーフティラリー開始に伴う、呼びかけの実施(開始、中間、最終月)

③車両管理（毎月）…車両点検、タイヤ交換

④セルフチェック(毎月)
・実施率低値項目についての個別指導や目標設定へつなげる

(3)緊急時対応(もしもの時の緊急時の流れを実際に確認する)

①全職員に緊急メール送信と緊急連絡網での連絡
・地震、風水害、土砂災害想定訓練内に組み込む
・災害用携帯使用
・緊急連絡網…安否確認を含め電話
(メール…定例文作成、緊急連絡網…連絡先確認)

②返信と連絡網の流れ確認

〔虐待防止委員会〕

重点項目
・定期的な虐待セルフチェックによる、虐待の早期発見に努める
・虐待について職員に具体的な例を用いて周知指導
・虐待が発生した場合、迅速に再発防止活動を実施

具体的活動

①虐待防止に関する研修を、全職員を対象に実施する。

(年２回)
・内１回は、外部研修(年１回以上)の伝達研修とする
②具体的な例を用いて指導や勉強会を実施する(定期)
③新人採用時に虐待防止の研修を行う(随時)
④虐待が発生した場合、臨時会議を行い、再発防止活動を進める(随時)
⑤セルフチェック(毎月)

〔身体拘束廃止委員会〕
重点項目
・定期的な身体拘束チェックによる、身体拘束等の早期発見に努める
・身体拘束について職員に具体的な例を用いて周知指導
・緊急やむを得ない身体拘束が発生した際、迅速に身体拘束廃止活動を実施
具体的活動
①身体拘束チェック(毎月実施)
②センサーについて、身体拘束の観点から見直しする(毎月)
③適正化に関する研修を、全職員を対象に実施する(年２回)
・内１回は、外部研修(年１回以上)の伝達研修とする
④新人採用時に身体拘束の研修を行う(随時)
⑤身体拘束が発生した場合、臨時会議を行い、廃止活動を進める(随時)

〔広報委員会〕
重点項目
「ご家族等に日常の様子と施設の活動を発信する」
具体的活動
①定期的な広報誌の発行(６月、10月、３月)
②毎月利用者の写真をご家族に送付
・日常風景を毎月撮影(利用者担当)

４．教育・研修・講習会
(1)教育
①接遇
②アンガーマネジメント
③介護技術・知識
(2)研修

①身体拘束廃止　内部・外部研修
②虐待防止　　内部・外部研修

(3)講習
①各感染症・予防
②手洗い
③嘔吐物処理
④救急救命
⑤車両操作(事故発生時対応含む)
⑥水・電源確保

5．カイゼン活動

(1)Kリーグの継続

6．修繕計画

(1)修繕計画
①ボイラー部品交換　　411 千円
②エレベーター修理　1,641 千円

〈設備計画〉

No.	実施月	設　備　名	台数	設　備　予　算	設　備　目　的
1	6月	給水・給湯管更新工事	1	6,000,000 円	老朽化
2	7月	食器洗浄機	1	778,000 円	20 年経過 故障時部品供給不可
3	8月	車椅子対応体重計	1	250,000 円	16 年経過 故障時部品供給不可
4	9月	パソコン	4	500,000 円	作動不良
			計	7,528,000 円	

〈年間計画〉

	行事	研修・講習	健康管理(看護) 感染予防	施設整備･訓練他	備品購入・修繕
	会食 誕生会 彼岸法要	研修(内部・外部) 講習会 勉強会	体重、血圧測定 往診、定期薬処方 定期採血 口腔チェック 栄養ｶﾝﾌｧﾚﾝｽ 機能訓練 DVD 体操	防災点検 ｴﾚﾍﾞｰﾀｰ点検 電気工作物点検 (1/2 ヶ月) 非常通報装置保守 点検(1 回/6 ヶ月)	車椅子 ｳｫｰﾀｰﾄﾙｿｰ 昇降式テーブル ファンヒーター
４月	鍋会食	身体拘束研修内容確認 虐待防止研修内容確認 新型ｺﾛﾅｳｨﾙｽ講習会	職員健康診断準備 (夜勤従事者) 手指消毒月間	交通安全啓蒙活動 消防立入検査 加湿器片付け カーテン洗濯(4 月～9 月)	
５月	子どもの日会食 母の日ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾄ	身体拘束研修実施 虐待防止研修実施 ﾋﾔﾘﾊｯﾄ基礎勉強会	職員健康診断 (夜勤従事者)	災害時使用物品の 点検・更新 車両操作講習会 扇風機設置	
６月	会食 父の日ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾄ	身体拘束研修反省 虐待防止研修反省 調理ﾏﾆｭｱﾙ研修(調理員) →食中毒 手洗い講習会 →感染予防委員会 食中毒予防啓蒙活動	食中毒予防呼掛け	ﾎﾞｲﾗｰ定期点検 受水槽・給湯タンク 洗浄・消毒	ﾎﾞｲﾗｰ部品交換 (411 千円)
７月	会食	風水害、土砂災害に係る防災教育 →防災対策委員会	手指消毒月間	日中消防訓練(火災) 水・電源確保訓練 (7 月～9 月)	
８月	夏祭り (80 千円) 家族会総会	救急救命講習会→看護 介護技術勉強会 →介護 身体拘束外部研修参加 虐待防止外部研修参加	肺炎球菌ﾜｸﾁﾝ接種 (準備)	消防設備点検 手指消毒強化月間	
９月	敬老会 (100 千円) 秋の彼岸法要	感染症基礎勉強会 ・インフルエンザ ・ノロウィルス ・コロナウィルス →感染予防委員会	職員健康診断準備 (全職員) 肺炎球菌ﾜｸﾁﾝ接種	電気工作物年次点検 自然災害訓練(停電) 交通安全啓蒙活動 ワックス掛け (9 月～3 月)	ｴﾚﾍﾞｰﾀｰ修理 (1,641 千円)
10 月	会食	身体拘束外部研修参加 虐待防止外部研修参加 ノロ処理講習会準備 →感染予防委員会	職員健康診断 (全職員) ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ予防接種 (準備) 手指消毒月間	消防立入検査 オゾン発生装置点検 車両事故発生時 対応周知 (10 月～11 月)	
11 月	会食	調理ﾏﾆｭｱﾙ研修(調理員) 感染症対策→給食 ノロ処理講習会 →感染予防委員会 身体拘束研修内容確認 虐待防止研修内容確認	感染症発症状況報告 (11 月～3月) ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ予防接種 緑茶提供 ～翌年５月	交通安全啓蒙活動 加湿器設置	
12 月	クリスマス会 (100 千円) 年越し会食	身体拘束研修実施 虐待防止研修実施	利用者健康診断準備 (区分変更ない者) 手洗いうがい実施 強化月間	消防立入検査	
１月	会食	介護技術勉強会→介護 身体拘束研修反省 虐待防止研修反省	利用者健康診断 利用者歯科検診 手洗いうがい実施 強化月間	消防設備点検 非常通報装置点検	
２月	豆まき 節分会食	救急救命講習会→看護	利用者歯科検診	夜間消防訓練(火災) 加湿器洗浄	
３月	誕生会 会食 ひな祭り会食 春の彼岸法要				

「救護施設親愛の家経営計画」

〈基本理念〉

施設は利用者の共同、集団生活の場であり、かつ利用者一人一人の個性を尊重し、心身の健康の維持に努め、潤いと生きがいのある充実した生活が送れるよう支援するとともに、地域等との交流を図り、社会参加をもたせ、更生・自立の機会を与えることを理念とする。

〈基本目的〉

１．生活困窮者の生活と命を守る
２．自立生活に向けた中間的(就労・居住)役割を担う

〈基本方針〉

１．個別支援計画・生活の質を向上させ、自立に向けた支援・自立度の高い生活環境を提供する
２．目的を共有し、積極的に行動・考える力を身につける
３．地域貢献を通じて地域との繋がりを深める

〈キーワード〉

『 共に働き、共に学び、共に育む 』

〈重点事項〉

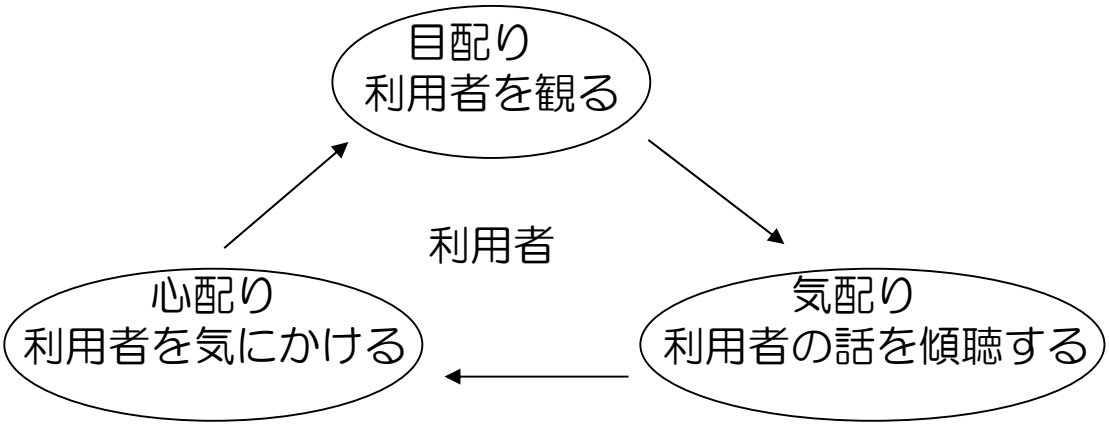
１．就労率 50%
２．地域貢献活動の更なる展開

〈重点事項の詳細〉

１．就労率 50%
　(1)仕事量確保
　(2)親愛ルールの見直し(賃金ルール、外出制限、日課変更)
２．地域貢献活動の更なる展開
　(1)移動動物園の開催 ～ 活動 PR
　(2)避暑地の設置、開放
　(3)市内企業の就労協力
　(4)町内会との交流

〈具体的計画の詳細〉

１．利用者主体の施設運営



親愛の家職員心得

⑴笑顔と礼儀を大切にしよう
　内にも外にも笑顔で挨拶。
　職員間だけでなく、利用者さんとも同じように行いましょう。

⑵常に謙虚であれ
　素直に聞く耳を持って愚直に行動しよう。
　謙虚な人ほど成長します。

⑶頼まれごとは大小にかかわらず実行せよ
　面倒なことは後回しにしない。
　自分の仕事に責任を持ち、相手を待たせないようにしよう。

⑷10 分前行動ができること
　心に余裕をもって行動しよう。

⑸利用者の笑顔を引き出すために職員自身も幸せでいよう
　(ワークライフバランス)
　多趣味であれ。趣味を持つことで、人としての幅も広がります。支援には、多角的な視野、広がりが必要です。

２．介護計画

ポイント：利用者を理解しQOL 向上に向けての支援を実施する

⑴利用者とのコミュニケーションの時間を増やす
⑵個別支援計画に沿った支援の実行
⑶利用者の就労活動の拡充(当番、施設内外作業の活動を含む)
⑷居宅生活訓練の実施

３．日中活動

ポイント：地域貢献に繋がる活動を目指す

(1)クラブ活動の充実
(2)施設内外作業支援計画
①施設内清掃(お掃除班としての活動継続)
②施設外作業(除草、除雪、ゴミ拾い等)
(3)軽作業
①委託作業の充実
②町内会での奉仕活動(除雪、環境美化など)

4．年間行事計画

４月	買い物レク	(予算：12 万円)
５月	移動動物園 日帰り旅行：５月～８月 買い物レク	(予算：20 万円) (予算：50 万円) (予算：12 万円)
６月	買い物レク	(予算：12 万円)
７月	買い物レク 納涼祭り	(予算：12 万円) (予算：15 万円)
８月	買い物レク	(予算：12 万円)
９月	秋祭り 敬老の日 買い物レク	(予算：35 万円) (予算：20 万円) (予算：12 万円)
10 月	買い物レク	(予算：12 万円)
11 月	買い物レク	(予算：12 万円)
12 月	クリスマスパーティー	(予算：50 万円)
１月	初詣レク 餅つき	(予算：５万円) (予算：５万円)
２月	豆まき	(予算：３万円)
３月	運動会	(予算：15 万円)

＊その他　移動動物園　⇒　しらかば荘と合同開催

5．看護計画

ポイント：利用者の充実した生活を実現するためには、適切な健康管理が必要である

(1)適切な病院受診と薬の管理
①往診を活用、不要な受診を減らし医療費を削減する
②一番近くにいる医療従事者として利用者の健康状態を把握、薬を理解するとともに他職種にもわかりやすく薬を準備する。必要に応じて、往診医と連携し薬の調整及び受診調整を行う
(2)健康維持、疾病予防
①６月、１２月健康診断の実施。適切な再検査の実施
②毎月体重・血圧測定を行いデータ化し、栄養士と連携し

適切な食事療法の実施
③感染症発生予防と予防接種の実施
④歯科往診医と連携し適切な治療と口腔ケアの実施
⑤皮膚の観察・適切なスキンケアを行って皮膚トラブルを未然に防ぎ、皮膚疾患・褥瘡の予防を行う

⑶介護予防
①ADL 維持、転倒防止のためのリハビリ体操の実施
②嚥下体操・発声練習により誤嚥を防ぐ

6．食事計画

ポイント：個々の健康状態に合わせた食事の提供

⑴利用者の嗜好にあった食事の提供
給食運営会議からの利用者の声をメニューに反映する

⑵予算にあった食事の提供
普通食：1 食単価　262 円
会　食：1 食単価 1,000 円

⑶食事提供方法の充実
食事選択の機会をつくる(会食・セレクト)

⑷厨房の作業効率・品質の向上
厨房会議内等で話し合いの機会を設ける

7．委員会活動計画

ポイント：施設内委員会活動の活性化

⑴ヒヤリハット委員会
①事故を未然に発見、防止する活動(危険発見活動)の仕組み作りと実施
②事故事例から事故を分析し、対策を立て、実行、評価する
③危険発見活動を活かし、多くのヒヤリハット件数を集め事故防止につなげる

⑵防災・感染対策委員会
①避難訓練の実施
火災避難訓練(日中・夜間)、風水害避難訓練の実施
②職員への防犯・防災教育の実施
③利用者への防災教育の実施
④地震の際の安全確保行動訓練(シェイクアウトの参加)
⑤親愛自衛団訓練の実施
⑥救命処置及び一次救命処置訓練の実施
⑦感染予防に関する知識及び技術の向上と対応方法の講習

・吐物処理訓練等の実施
⑧感染症発生時の迅速な対応
⑨職員及び利用者への手指衛生、手洗い指導
⑩熱中症対策のための環境調整、水分提供の徹底
⑶自己評価・虐待防止委員会
①虐待防止研修会の参加
②セルフチェック表の見直し、課題を見つけ達成率を上げる
⑷居宅訓練委員会
①自立の向けた生活・就労支援
②個別支援計画に沿った訓練の実施
⑸広報委員会
①利用者、家族対象の施設広報誌定期発行(９月・３月)
②施設利用案内の定期更新
③実施機関に向けた「親愛たより」の発行(年４回)

８．地域との連携
ポイント：地域住民のニーズに合わせた活動実施
⑴歌志内市地域福祉計画の策定に積極的に関わる
①地域住民の施設見学実施(親愛の家、しらかば荘、クリーンセブン)
②こども園、小中学生との交流
③社会福祉協議会との合同活動
⑵地域交流
①地域住民への施設の開放
②地域住民との交流から地域に必要な活動を検討
⑶地域貢献
ゴミ拾い、除草、除雪、美化活動、広報活動等
⑷地域イベントへの参加
祭り、クリスマス会への参加と受入

９．実施機関との関係強化
ポイント：入所者数の定員維持は実施機関との良好な関係が重要であるため信頼関係の強化をはかる
⑴実施機関訪問
積極的に実施機関を訪問し、情報交換を実施する
年間スケジュールを組み道内振興局を訪問実施
⑵実施機関からの依頼は簡単に断らない
①書類による情報だけで判断しない

②どんなに遠い実施機関でも会って相談する
③依頼を断らなければならないケースでも最大限努力する
⑶実施機関への情報提供
①施設利用状況
②入所後の利用者の状況を定期的に担当者へ連絡する

１０．教育、研修、施設見学、資格取得

ポイント：「人材の育成が施設の優劣を決める」の考えに基づき、OJT、OFF-J-T 両面から教育の充実を図る

⑴施設外研修
①救命講習⇒歌志内消防に協力依頼
②外部講師による講習など
⑵施設見学
救護施設の視察⇒札幌圏、函館圏
帯　広、萬像園
⑶資格取得の促進
①防火管理者
②社会福祉主事
③介護福祉士

１１．職場環境

ポイント：働きやすい環境を作る

⑴有休取得の推進
⑵メンタルケア
⑶なんでも話し合える雰囲気作り

〈施設内研修計画予定〉

４月	KYT	坂田Ｎ
５月	救護施設について	副所長
６月	支援報告会	SL 以下
７月	ストレス解消法	秋山Ｎ
８月	報連相	主　任
９月	虐待について	加賀Ｌ
10 月	感染予防	坂田Ｎ
11 月	伝達研修	参加者
12 月	伝達研修	参加者
１月	アンガーマネジメント	吉森Ｎ
２月	重点事項活動報告	加賀Ｌ 岩井Ｌ
３月	経営計画書・当初予算の説明	所　長

「光生舎プラザ・イン・サッポロ経営計画」

〈基本目的〉
１．心身ともに安心して働ける職場を提供する。
２．プラザー丸となりお客様に信頼されるサービスを提供する。
３．それぞれの自立を実現し、豊かな人生を支持する。

〈基本方針〉
１．安全な職場環境の実現に真摯に向き合う
２．舎員(利用者、職員)が活躍できる職場へ
３．一致協力し、信頼のある工場・施設へ

〈キーワード〉
『 一味同心 』
～共通の目的に向かって、信頼関係をもって取り組む～

〈重点事項〉
１．基本の徹底
２．風通しの良い職場環境
３．支援の専門性の向上
４．利用者とともに創る活動

〈重点事項の活動計画〉
１．基本の徹底
⑴ヒューマンエラーの排除
⑵安全活動の徹底
⑶活動の見える化

２．風通しの良い職場環境
⑴作業の無駄な時間を削減
⑵人間関係、職場環境等いろんな意味での風通し
⑶スマイルレポートの充実

３．支援の専門性の向上
⑴支援の統一
①学ぶ場・考える場の増加

②作業満足度の向上
⑵個別支援計画の質の向上
①二者面談
②シート・作成手順の見直し
⑶連携強化
①保護者
②ＧＨ・関係機関

４．利用者とともに創る活動
⑴委員会活動
①３S 活動の定着
②危険個所の改善
⑵地域貢献活動
①屋外清掃
②除雪活動
⑶行事企画会議
①利用者参加型の企画・行事
②KK との合同行事
③保護者参加の行事
⑷利用者勉強会
①ＳＳＴ(ソーシャルスキルトレーニング)

〈内部体制〉
１．会議体系
⑴経営会議
⑵生産会議
⑶支援会議

２．委員会活動計画
⑴リスク管理委員会
防災対策・感染予防・虐待・身体拘束・健康管理に関わる総括的役割を担う
①防災対策訓練
・火災避難訓練
・地震避難訓練
・風水害避難訓練
・停電時対応訓練

②感染予防活動
・コロナ対策
・インフルエンザ対策
・手洗い講習
③虐待及び身体拘束防止活動
・セルフチェックの実施
④健康管理
・健康診断
・予防接種
・体重測定
⑵運営推進委員会
きれいな職場環境と安全対策の徹底を推進する役割を担う
①利用者参加の巡視活動
・３S 巡視
・危険発見巡視
②ヒヤリハット活動
・安全規則の順守
・聞き取り調査
③3S 推進活動
・整理活動　不要なモノを捨てる
・整頓活動　置き場所を決める
・清掃活動　きれいな状態を作る
・見える化　３Ｓを維持するルール
④カイゼン推進活動
・作業改善
・環境改善
・カイゼン甲子園
⑶法人委員会・会議
①防災対策・感染予防委員会
②虐待・身体拘束防止委員会
③ヒヤリハット委員会
④３Ｓ推進委員会
⑤広報ＨＰ委員会
⑥地域貢献推進委員会
⑦採用定着会議
⑧新規利用者確保会議
⑨施設請求業務実務者会議

〈リスク管理委員会　活動計画〉

リスク管理委員会				
実施月	防災対策訓練	感染予防活動	虐待・身体拘束防止	健康管理
４月		コロナ		健康診断(利用者)
５月	訓練計画策定			
６月	火災避難訓練			
７月	交通安全街頭啓発			
８月	停電時対応訓練	手洗い		
９月	交通安全街頭啓発		チェック項目見直し	
10月	風水害避難訓練			健康診断
11月		インフルエンザ		インフルエンザ予防接種
12月				
１月	訓練計画策定			
２月	火災避難訓練			
３月				

〈運営推進委員会　活動計画〉

運営推進委員会				
実施月	ヒヤリハット活動	3S 推進活動	カイゼン推進活動	巡視活動
４月	安全規則の勉強会	整理活動	テーマ改善	３Ｓ
５月				防災
６月	聞き取り調査			ヒヤリ
７月		整頓活動		３Ｓ
８月			カイゼン甲子園	防災
９月	聞き取り調査			ヒヤリ
10月		清掃活動	テーマ改善	３Ｓ
11月				防災
12月	聞き取り調査			ヒヤリ
１月		見える化	カイゼン甲子園	３Ｓ
２月				防災
３月	聞き取り調査			ヒヤリ

〈設備計画〉

No.	実施月	設　備　名	台数	予　算	設　備　目　的
1	７月	連洗脱水機入替撤去	1	5,000,000 円	作業工程見直し
2	８月	屋上防水工事	1	9,150,000 円	老朽化
3	６月	送迎・移動車両	1	1,500,000 円	利用者送迎・会議等
			計	15,650,000 円	

〈行事・研修計画〉

実施月	行事計画		研修計画	
	内　容	予算（円）	内　容	予算（円）
４月			安全規則	
５月	季節行事	50,000		
６月	イベント行事	250,000		
７月			利用者支援	
８月	季節行事	50,000		
９月	イベント行事	250,000		
10月			虐待防止	
11月	季節行事	50,000		
12月	イベント行事	250,000		
１月	季節行事	50,000	ＳＳＴ	
２月				
３月	イベント行事	250,000		
	合　計	1,200,000	合　計	

「グループホームパル経営計画」

〈基本目的〉
利用者が自立した社会生活を送るための支援を行う

〈基本方針〉
１．家族的雰囲気を大切にし、居心地の良い場所とする
２．共同生活を通して、社会ルールを学べるようにする
３．個別性を尊重する
４．利用者が自分でできることを、１つでも多くする

〈キーワード〉
『 連携 』

〈重点事項〉
１．基本の徹底
２．事業所との情報共有
３．支援の向上

〈具体的取組〉
１．基本の徹底
⑴２Ｓ(整理・整頓)の徹底
⑵日々の記録の徹底
⑶制度・利用に関する手続きの理解

２．事業所との情報共有
⑴連携支援で方向性を合わせる
・連絡ツールの見直し
・連携会議の設置
⑵継続した利用者確保の活動
・相談室、実施機関への情報提供
・積極的な見学・体験利用の受入れ

３．支援の向上
⑴一人ひとりに応じた生活支援
・清潔を保持する整容支援

⑵安心できる環境の提供
・日々の様子を観察した健康管理
⑶充実した余暇活動の提供
・各ＧＨの特色を考えた季節行事

〈設備計画〉

No.	実施月	設　備　名	台数	設　備　予　算	設　備　目　的
1	10月	カーポート(発寒)	1	1,200,000円	冬季除排雪負担軽減
			計	1,200,000円	

〈行事・研修・管理計画〉

実施月	行　事	研　修	管　理	備　考
4	誕生者会食			
5	お花見会食・誕生者会食	GH見学		
6	誕生者会食	発達障がい研修	避難訓練	
7	焼肉会食			
8	誕生者会食			
9	誕生者会食	精神障がい研修	全員健康診断	
10	秋レクレーション		風水害避難訓練	
11	誕生者会食	虐待予防研修	インフルエンザ予防接種	
12	クリスマス会 誕生者会食			
1				
2		スキルアップ研修	避難訓練	
3			夜勤者のみ健康診断	

「光生舎フロンティア経営計画」

〈基本目的〉
１．パートナーを尊重し、互いに学べる環境をつくる
２．働く喜びを感じられる施設をつくる

〈基本方針〉
１．目標に向かって力を発揮し、達成感を得られる支援を行う
２．職場での危機意識向上を図り、労災ゼロを目指す
３．基本を見直し、「変える」を追求する
４．全ての繋がりを大切にし、相互理解を深める

〈キーワード〉
『 Do one’s best ～ 全力を尽くす 』

〈重点事項〉
１．利用者サービスの充実
２．地域・行政機関・KK との連携
３．コスト抑制(生産経費)
４．業務改善
５．研修計画

〈部分計画〉
１．利用者サービスの充実(◎鷲見 L、野口 AD、小杉係、菊池係)
⑴施設満足度調査
利用者対象に満足度調査を実施し､調査の結果を元にアプローチを行いサービスの拡充を図る。
⑵レクの実施
５月　円山登山と円山動物園ツアー
７月　野外焼肉会食
９月　仁木町にてぶどう狩り
12 月　クリスマスケーキ配付
隔月　誕生者会食
⑶厚生旅行 11 月　企画案
小樽→定山渓
旭山動物園→東神楽

恵庭エコリン→北湯沢
ウポポイ→北湯沢 or 洞爺
⑷個別支援計画に沿った適切な支援
⑸社会性を身に付ける為の勉強会の開催
⇒挨拶のマナー、公的機関での書類の取り扱い方、写真や動画の取り扱い方など

２．関係機関との連携(◎橋本主任、野口 AD、今井係、小杉係)
⑴高等養護学校・相談事業所訪問
⑵地域との連携
⇒除雪活動、献血活動、一般企業の就労体験
⇒近隣小学校へ工場見学を実施
⑶KK との連携
⇒各種会議・WT を活用し円滑に業務を行う

３．コスト抑制活動(◎大田主任、佐々木所長、中村 M、橋本主任、鷲見 L、北川 SL、木村 SL、増田係)
⑴生産経費削減への取り組み
⇒t 当たり消費量削減
⇒歩留まり率向上
⑵コスト消費計画会議の実施
⇒次月使用するコスト試算を実施、各部摺り合わせを行い適切な経費の使い方に取り組む
⑶固定費の変動費化推進
⑷使用機器の低コスト化の推進
⇒40ｋｇ水洗機更新(100 kg水洗機)
⇒消耗部品の国産化による低コスト化
⑸ペーパーレス化推進
⇒法改定に伴う書類保管スペースの削減、業務効率改善
⑹業務の ICT 化推進
⇒業務効率化、残業抑制

４．業務改善推進(◎北川 SL、橋本主任、榊原係、佐々木係)
⑴安全な職場環境作り
⇒他施設・他工場へ見学し知識と見聞を広める
⇒外部研修に率先参加

⇒労働災害事故０件を目指す

⑵品質・生産性向上への取り組み

⇒ティマテック撤去･コンベア配置を見直し生産ロスを解消

⑶職場内作業環境改善

⇒暑さ・寒さへの対策・工場内負圧による吸気対策

⑷不要な業務の洗い出し

⇒業務の見直しを行い不要な業務を撤廃し、作業効率向上、残業抑制を図る

⑸リネンサプライ技能講習会への参加で業務改善推進

⇒木村 SL、菊地係

⑹社会福祉協議会主催の研修へ率先参加

⇒発達障害の方への接し方

５．研修計画(◎大田主任、橋本主任、鷲見 L、北川 SL、木村 SL)

⑴部内研修による職員のスキル向上

⇒3 行週省の部内指導による計画的な業務の遂行

⑵外部研修

⇒同業者の工場見学、福祉に関する研修会に参加し、自身の知識向上を図る

〈リネン資材〉

No.	実施月	設　備　名	台数	設　備　予　算	設　備　目　的
1		リネン購入		49,544,000円	廃棄補充
2		リネン購入		32,000,000円	新規
3		リネン購入		15,000,000円	新規
			計	96,544,000円	

「光生舎ゆいま～る・もみじ台経営計画」

《ゆいま～る共通》

〈基本理念〉

１．わたしたちは、すべての人が生きがいを感じられる人生を実現するために存在する

〈基本目的〉

１．安全・安心・安泰を実現する
２．ゆいま～るに関わるすべての人を幸せにする

〈基本方針〉

１．入居者・利用者・職員の想いを受け止め実現する
２．入居者・利用者のニーズを部門を越えて実現する
３．職員が働きやすい環境を構築する
４．地域の活動拠点となる
５．質の高いサービスを提供し、稼働率上昇を目指す

〈キーワード〉

『 伝えて聴いて、聴いて伝える 』

〈2022 年度重点事項〉

１．ゆいま～る全体の稼働率向上に努め、黒字化経営を目指す
２．研修体制を充実させ、個々の資質向上を図る

〈2022 年度研修計画〉（※伝達研修に関しては、年間予定に合わせて記載）

	指導層（主任）	リーダー層（下記集合研修に加え、主任による運営のスーパーバイズを行う）			一般層
4月	リーダー層研修の上位研修 月に1回の1on1ミーティングをベースにスーパーバイズを行う 内容は各管轄の運営と自己革新目標に関すること	現状の確認　方向性の説明			1.従来の伝達研修 2.外部・内部講師（指名･持ち込み）による早番後の時間を活用した研修 ⇒ゆくゆくは体系化し、時間内で一般職向けの履修計画を作成 ・オムツ講習（外部） ・コミュニケーション（外部） ・相談援助技術 ・認知症基礎（外部） ・PC ・介護技術（オムツ以外） ・ユニットケア ・介護保険 ・理念 ・規定・規則 ・心理 ・専門職研修 ・リフト研修 ・医療　…等 内部講師体制については、別途計画あり
5月		PL初級	問題の本質をとらえる練習 + 三行報告	問題の本質をとらえ、打つべき手を考える座学・実習	
6月					
7月				自己革新計画作成	
8月				自部門の打つべき手を考える①現状認識	
9月				部下の育成の現状　個別面談の仕方	
10月				自部門の打つべき手を考える②問題の本質	
11月				集団に対する支援	
12月				自部門の打つべき手を考える③打つべき手	
1月				自部門の打つべき手を考える④行動計画	
2月				自己革新計画振り返り	
3月		予備枠			

〈地域貢献の活動計画〉

１．コロナウイルス対策を徹底した上で地域開放スペースは団体登録を行ったもみじ台の団体へ貸し出しを行う(月～金の９時～20 時)
２．地域開放スペースは福祉避難場所としての機能を果たす
３．地域交流スペースは、障害福祉サービス事業所(就労継続支援Ｂ)の利用者が働く場とするとともに、地域住民が交流できる場とする
４．コロナウイルス対策を徹底した上で体育館は施設行事で使用する以外の時間帯は、体育振興会と連携して極力地域住民へ開放する(月～日の９時～21 時 45 分)
５．体育館は地域の避難場所としての機能を果たす
６．地域防災計画、防災訓練への積極的な参加を行う
７．夏祭り等を通して地域住民と入居者、利用者、職員の交流を行う
８．地域交流運営協議会を定期的に開催し、地域住民と協議を行う

〈各種委員会活動〉

１．ヒヤリハット委員会
　(1)報告書の確認
　(2)家族連絡含む事故対応の精査
　(3)事故発生時の対応等
　(4)重大事故会議を通して再発防止に注力する
２．感染予防・環境衛生委員会
　(1)感染対策、職員への普及活動
　(2)５Ｓ活動
３．虐待防止・身体拘束禁止・褥瘡予防委員会
　(1)センサーの使用の適正チェック
　(2)褥瘡防止への対策立案
　(3)支援の見直し

〈安定経営に向けた取り組み〉

１．部門間を超えた相談員チームを発足し、稼働安定・向上推進に向けた取り組みを行う
２．相談員チームが全部門を対象とした営業活動の実施

〈資格取得計画〉

個の力を伸ばす為、下記の資格取得を計画する

１．介護福祉士　介護職員数名
２．介護職員実務者研修　介護職員数名
３．社会福祉主事(今季該当者なし)
４．社会福祉士(今季該当者なし)
５．サービス管理責任者　石本係・寺見係
６．衛生管理者　(今季該当者なし)
７．社会福祉施設長(高田係)
８．ユニットリーダー研修　介護職員数名

〈部門を越えた情報共有〉

部門を越えて協力する体制ができる為に

１．部門ごとの縦割り体制を脱却する
２．各種行事は全部門が協力して実施する

〈ベクトルを合わせる為の活動計画〉

ゆいま～るの理念が全職員へ浸透する為に

１．ゆいま～る理念研修を全職員対象に実施する
２．考課面談＋パート面談を年２回実施する
３．新規採用職員へのマンツーマン指導

〈職員定着・職員満足度向上への取り組み〉

採用定着・職員満足度向上ＰＪを発足する

１．離職率の傾向把握
２．職員満足度調査
３．アンケート調査
４．面談・聴き取り調査

〈設備計画〉

No.	実施月	設　備　名	台数	設　備　予　算	設　備　目　的
1	８月	移動用リフト	1	400,000 円	増設
			計	400,000 円	

《特別養護老人ホーム》

〈重点事項〉

1．サービスの質の向上

想いを受け止める

職員のケアの質を向上する

ケアプランに沿ったサービスの提供

2．安定した運営

人員の安定と人の成長

組織体制の見直し

特養の黒字化

3．感染症との共存

楽しい生活を送る為に創意工夫する

感染症への対応力の強化

2022年度　特養行動計画

Ⅰ半期			Ⅱ半期			Ⅲ半期			Ⅳ半期		
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月

想いを受け止める
- 相手を思い遣り、優しくなれる環境作りを行う

人員の安定と人の成長
- 離職を減らす、定着
- 募集方法の検討
- 既存職員のレベルアップ
- 新職員の教育

職員のケアの質を向上する
- お客様と従業員で有る事を念頭に、正しい敬語を使い、過ごしやすい関係性を築く
- 正しい知識と介護方法の習得

組織体制の見直し
- 特養組織体制の明確化、役職・職種の業務明確化

ケアプランに沿ったサービスの提供
- 個別支援内容を理解し、誰もが同じ対応が出来るようにする

特養の黒字化
- 稼働率の維持、待機者の確保、経費削減、入院日数を減らす、日常生活継続支援加算の算定、その他加算算定の準備・実施

感染症との共存
- 楽しい生活を送るために創意工夫する、感染症への対応力の強化

《ショートステイ》
〈重点事項〉

１．個別計画に基づいた支援の統一

⑴介護支援専門員が作成したケアプランに沿った計画書を作成し、計画に基づいた支援を統一して実施する。

⑵個別の利用者の心理・身体状態をよく理解・把握し、相談員を含め、ユニット職、外部の支援事業所等全体で連携する。

２．稼働率 72.5%の達成と自事業所の特養待ちと定期利用者の獲得

⑴ショートステイ相談員は、年間 72.5%の稼働率を達成するために、厚別区内外の居宅介護支援事業所、病院、老健にも営業を行う。

⑵特養待ちの方へは、空きが出そうになった際にすぐにFAX・メール・訪問等の営業を行う。

⑶定期利用者の獲得のために、新規利用者の獲得を月 2～3 人、年間 20 人以上を確保し、利用定着に繋げる。

３．他業種間の連携

⑴ユニット職員と相談員の連携を強め、必要な情報が適切な人に伝わるよう、報告連絡を行う。また、在宅生活が困難になった方の相談に応じ、迅速に案内を行う。

⑵特養入居待ちの利用者も入所されるので、機能訓練指導員、看護師などの職種と連携し、生活課題の把握、対応を行う。

《デイサービスセンター》
〈重点事項〉

１．ご利用者の笑顔と生きがいを引き出す支援の提供

⑴誰もが安心して気軽に来られる場所に向けて

①ケアプランに基づいた介護・健康管理などの支援の提供

②これらの支援や過ごし方の情報を用いた『ご家族や他事業所との連携』

③居心地の良さ(ありのままを認め、受入れられる)を目指す、『利用者本位』の支援

④所属の安心を満たす『ブランド力確立』の基盤作り

⑵来たら元気になれる場所に向けて

①元気になって帰ってもらおう！

…『ニーズを的確に捉えて個別機能訓練！！』

②顔を見たら元気になれる『馴染の関係』

③職員が元気でいられる職場環境づくり

（日々のカイゼンを積み重ね、偏りや残業を減らして、楽しい仕事を！）

２．稼働率 75%の到達と維持

⑴体験してくれた方の 70%を契約に結び付ける『おもてなし』

⑵キャンセル後の『気遣い』と振替利用の声掛け、長欠の方への声掛け

⑶<u>ロコミ（利用者・CM 等）から相談へ繋げる『善循環の確立』</u>

⑷営業目標として契約数 64 名（≒月稼働 75%）を維持する為、状況を先読みし、必要な体験数・新規利用数を確保する

行動計画のポイント	行動計画			
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
朝礼・ミーティング力UPで、PDCAを回す＆みんなで成長！	【通年】 日々のサービス提供（あり方を含む）や機能訓練、 業務についての、振り返り・目標設定・実行 （朝礼で目標・ミーティングで振り返りの流れを繰り返す）			
	（１）相談員と現場の情報の偏りをなくす	（２）外部への情報発信の在り方を見直す	（３）評価を共有し、『売り』を言語化する	（４）『どう売るか』を計画
	①ミーティングを使い、現状（5W2H）と方向性を擦り合わせる	①CM・家族との情報交換の見直し（5W2H）と実践	①サービスの見直しや情報交換で得られた評価を『売り』として言語化	①抽出した『売り』をどのように強化し、PRするか

《ケアプランセンター》
〈重点事項〉
1．真のニーズの発掘
日々の訪問時に思いや希望を話していただくことが出来る関係作りに努め、また各事業所との丁寧な情報共有を通して、より深いニーズを発掘し、ケアプラン作成に活かすことでその方が望む自立した生活を送ることが出来るよう支援する。
2．居宅担当数の確保
要介護担当者数３０名以上を確保するため、地域包括支援センターや病院、介護予防センター等関係各署との連携、顔の見える関係作りを進め、相談や新規依頼に繋がる関係性を構築する。

《く・る・る(就労継続支援Ａ型)》
〈重点事項〉
1．自己実現に向けた支援
・個別支援計画を充実させ、偏りのない利用者支援を目指し、新規獲得・定着・挑戦のサイクルを維持する。
2．協働できる職場
・利用者、入居者、職員の個性を認め、力を出し合い成長できる職場にする。
・部門連携することで安心して働ける職場にする。
3．稼働率の向上
・稼働率 70%を達成させ、維持していく。(精神面の崩れなどから出勤率が低下しないよう支援)
・利用者２名増員の為、各自治体や相談支援事業所と連携し空き状況のお知らせを訪問、郵送、FAX にて報告することで新規獲得を図る。

《く・る・る(就労継続支援Ｂ型)》
〈重点事項〉
1．利用者それぞれに合わせた能力発揮・向上を目指す。
・定期的な個別支援会議を実施し、職員間での情報共有・共通認識を持ち個別の障害特性や本人の意向に沿った個別支

援計画の作成へと繋げ統一したサービスを提供する。

・安全な作業環境の確保と作業提供を行い就労の幅を広げられるよう支援する。

２．他者理解や社会性を身につけられるよう支援する。

・地域にとけ込める機会を持ち、他者理解や社会性を身に付けられるよう支援する。

・他者と協力し作業をすることで、一人ひとりが達成感や責任感を高めることができるよう支援する。

３．利用者家族や各機関との連携を図る。

・利用者家族・各機関と情報交換を密に行い相互協力し、本人に適した支援をする。

４．利用者確保の取り組み

・支援学校や相談事業所への定期的な利用状況等と併せ、特養の情報も含めた発信を強化し、新規利用者確保や既存利用者の増回を促し稼働率アップに繋げていく

<table>
<tr><th rowspan="2">2022年度　就労AB行動計画</th><th colspan="3">Ⅰ半期</th><th colspan="3">Ⅱ半期</th><th colspan="3">Ⅲ半期</th><th colspan="3">Ⅳ半期</th></tr>
<tr><th>4月</th><th>5月</th><th>6月</th><th>7月</th><th>8月</th><th>9月</th><th>10月</th><th>11月</th><th>12月</th><th>1月</th><th>2月</th><th>3月</th></tr>
<tr><td rowspan="2">自己実現に向けた支援　利用者それぞれに合わせた能力発揮・向上</td><td colspan="12">情報共有・共通認識をもち、統一した支援を提供する</td></tr>
<tr><td colspan="12">計画内容の理解・結果の共有　計画に反映し実行していく</td></tr>
<tr><td>協働できる職場・社会性を身につけられるよう支援する。</td><td colspan="3">障がい特性の理解</td><td colspan="3">利用者間支援
他者理解に繋げる</td><td colspan="6">他部門への情報発信・連携（一般職登用への機会）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">新規利用者確保・利用率向上</td><td colspan="12">ポスティング・評価・分析（絞り込み含む）・相談事業所営業・ハローワーク登録</td></tr>
<tr><td colspan="6">新たな加算取得の準備</td><td colspan="3">学校訪問（法人）</td><td colspan="3">工賃向上に向けた検討・作業内容の精査</td></tr>
<tr><td rowspan="2">利用者家族や関係機関との連携</td><td colspan="12">家族連絡（利用状況の共有・信頼関係の構築・緊急時対応）</td></tr>
<tr><td colspan="12">関係機関との連携（利用者状況の共有・担当者会議・卒後支援以外での連絡調整）</td></tr>
</table>

令和4年度　ゆいま～る　行事研修計画表

月	行事	伝達研修	その他の研修	改修・購入	管理	声掛け タイミング
4月	お膳式 (実行委員なし) 園芸	・ヒヤリハット (担当：委員会) ・緊急時の対応 (担当：　)	・認知症基礎研修 対象ピックアップ ・新入社員研修			2月運営会議
5月	花見	・感染予防 (担当：委員会)	・光生舎施設見学 ・新入社員研修	寝具 バスタオル	地域交流 運営協議会	2月運営会議
6月	セレクト会食	・身体拘束 ・虐待防止 (担当：委員会)	・新入社員研修			4月運営会議
7月	夏祭り	・褥瘡予防 (担当：委員会)	・認知症基礎研修 対象ピックアップ ・新入社員研修		避難訓練+ 消防設備点検	4月運営会議
8月	移動動物園	・環境衛生 (担当：委員会)	・新入社員研修	移動用リフト リフトシート	健康診断	5月運営会議
9月	敬老会＆寿司職人	・接遇 (担当：委員会)	・新入社員研修			6月運営会議
10月	ハロウィン (または外出レク)	・感染予防 ・緊急時の対応 (担当：　)	・認知症基礎研修 対象ピックアップ ・新入社員研修		風水害 避難訓練	8月運営会議
11月	文化祭・鍋会 (または花火大会)	・法人虐待 (担当：委員会)	・新入社員研修			8月運営会議
12月	クリスマス会	・ヒヤリハット (担当：委員会) ・緊急時の対応 (担当：　)	・新入社員研修			9月運営会議
1月	初詣	・身体拘束 (担当：委員会)	・認知症基礎研修 対象ピックアップ ・新入社員研修		避難訓練+ 消防設備点検	10月運営会議
2月	節分 アイスキャンドル	・褥瘡予防 (担当：委員会)	・新入社員研修		健康診断	11月運営会議
3月	ひなまつり (実行委員なし)		・新入社員研修			12月運営会議

※　5月～12月は外部研修の参加申し込みが多い

「光生舎スクエア経営計画」

〈基本目的〉
１．安心できる職場づくり
２．選ばれるサービスの提供

〈基本方針〉
１．安全であり衛生的な働きやすい職場をつくる。
２．お客様・利用者のニーズに合ったサービスを提供する。
３．サービスに関わる人との情報共有を活発に行う。(営業・家族など)

〈キーワード〉
『 鍛錬 』

〈重点事項〉
１．基礎の定着
２．利用者契約数３５名以上の実現
３．サービスの安定と向上

〈具体的取り組み〉
１．基礎の定着
(1)研修・勉強会の実施
①考える力と伝える力の習得
・研修会や勉強会を実施するために年間計画を作成し、講師側に学ぶ意図を伝えた上でフィードバックを行う。
②クリーニング師研修会の実施
・職員、利用者を対象に勉強会を実施し、クリーニングに対する知識を深め、資格を取得できる道筋を作る。
③利用者勉強会の実施
・一社会人として自立、充実した生活を送るきっかけづくりの為の勉強会を実施する
・光生舎で働くうえで必要な知識習得の為の勉強会を実施する。
(2)フローの見える化と作業のマニュアル化の実施
①フローの見える化
・各工程や工場全体の作業工程を見える化し、誰でも

一連の流れを把握できるようにする。
・決めた取り組みやマニュアルが確実に実行されるよう、確認するための仕組みを作り、評価を行う。

②作業のマニュアル化
・各作業工程や日々のメンテナンスをマニュアル化し、作業を誰でも行えるようにする。

２．利用者契約数 35 名以上の実現

⑴魅力ある事業所づくり

①利用者送迎の充実化
試運転後の検証・改善を行う。

②資格取得制度の構築
クリーニング師資格取得のための勉強会を職員主体で実施する。

⑵事業所の周知

①ＬＩＴＡＬＩＣＯ内のコンテンツの定期更新と充実化

②スクエア紹介動画の定期更新

③学校・自治体訪問の実施

３．サービスの安定と向上

⑴クリーニング

①事故・クレーム・不明品の減少(受注比 0.1％以下)

②納期遅れの撲滅

⑵福祉サービス

①個別支援計画充実に向けた取り組みの実施
・個別支援計画作成の一連の流れを学び、基礎知識を得る。
・計画を反映した支援の実施を行える仕組みをつくる。

②レーダーチャートによる評価基準の統一

③自己点検表等による質の評価の実施

⑶環境整備

①安全・安心な作業環境の提供
危険箇所の早期発見と早期対応

②衛生的な環境づくり
・３Ｓの定着と感染予防の実施
・清掃区域分け、当番表などを作成し、疎かにならないための体制をとる。

〈設備計画〉

No.	実施月	設　備　名	台数	設　備　予　算	設　備　目　的
1		２段乾燥機	1	1,500,000 円	新規
2		人体仕上機	1	1,400,000 円	老朽化に伴う交換
3		スポットクーラー	3	350,000 円	新規
			計	3,250,000 円	

〈研修計画〉

実施月		研修テーマ	非言語コミュニケーション
４月	10 月	面接技法	手話
５月	11 月	情報共有	手話
６月	12 月	記録方法	手話
７月	１月	自己分析・課題分析	手話
８月	２月	障がい者総合支援法、札幌市・国民健康連合会等との関係	手話
９月	３月	集団指導、実地指導、内部監査	手話

※上半期(４月～９月)を生活支援チーム、下半期(10 月～３月)を職業指導員チームに分け、実施する。

※10 月以降は前半の進捗と浸透具合を確認しながら、順番を入れ替えて実施する。

「グループホームピノ経営計画」

〈基本目的〉
利用者が自立した社会生活を送るための支援を行う

〈基本方針〉
１．共同生活と個人生活の折り合いをつけ、居心地の良い場所とする
２．共同生活を通して、社会ルールを学べるようにする
３．個別性を尊重する
４．利用者が自分でできることを、１つでも多くする

〈キーワード〉
『 松ぼっくりから新芽 』

〈重点事項〉
１．運営体制づくり
２．定員増に向けた取り組み

〈具体的取組〉
１．日常生活支援
⑴個別支援計画
利用者の状況やニーズに応じた適切なサービスを提供するための支援計画を作成し、その人らしく過ごすことが出来る支援を実施する
⑵就労支援
日中活動を行う就労場所との連携を密に行い、ＧＨとバックアップ施設が一体的に利用者の日中活動をサポートする
⑶健康管理
①日々の様子を見守り体調管理に留意するとともに、必要に応じて、医療機関への通院同行をするなど可能な範囲でサポートする
②新型コロナウィルス、インフルエンザ、感染性胃腸炎などの感染症の防止に努める
⑷食事提供
食材、栄養バランス、味付け、盛り付け等に配慮し美味しい食事を提供する
⑸防災対策
①バックアップ施設の防災委員と連携し、年２回防災訓練を行う

②火災や地震災害の他、電気、水道、通信が停止した場合は管理者とバックアップ施設が協力し、利用者の安全確保に努める

⑹苦情解決

①利用者、保護者から苦情があった場合は、誠実に速やかに対処するように努めるとともに、利用者本位のサービスが提供できる体制を確保する

②法人が設置する虐待防止委員会の聴き取り調査に協力し利用者の生活の質の向上に努める

⑺スタッフ会議

情報共有と円滑な運営をするためにスタッフミーティングを１か月に１回開催する(管理者、サビ管、相談員、世話人)

⑻利用者ミーティング

利用者がより快適な生活ができるよう、意見や要望を聞き、反映できる取り組みを行う

自分たちの家をつくるという認識をもてるよう取り組む

⑼行事の充実化

３～４ヶ月に一度、利用者の希望を反映した行事を企画、実施する

２．定員 6→9 名に向けた準備

⑴場所・人・物の準備

⑵新規利用者確保

①法人 HP の作成

②スクエア既存利用者へのニーズ調査

〈行事・研修・管理計画〉

月	行　事	研　　修	管　理	備　考
4	歓迎会	中途採用者用動画		
5				
6			避難訓練	
7				
8	餃子パーティー			
9				
10			風水害避難訓練	
11			インフルエンザ予防接種	
12				
1	新年会	虐待防止研修	健康診断	
2		普通救急救命講習	避難訓練	
3				

※バックアップ施設での研修に随時参加する

「キャンパスKITE経営計画」

〈基本目的〉

１．一般就労並びに、誇りある人生に向けて、必要なスキル、マインド等を学び、成長できる機会を提供し、利用者の一般就労を実現する
２．障がい者雇用受入企業を開拓し、障がい者が働きやすい環境を共に創造し、障がい者雇用を通じて企業の発展・繁栄に貢献する
３．地域とも事業を運営し、地域、事業所の繁栄に寄与する
４．利用者、企業、地域、キャンパスKITEが相互に作用し、共に成長、繁栄できる運営を行う

〈基本方針〉

１．利用者よし、企業よし、地域よし、事業所よしの精神で事業を運営する
２．利用者、企業、地域が求めるものが何かを見極め、サービス、取り組みに反映する
３．時代、社会の変化を柔軟に捉え、その時々にあったサービス、取り組みを実施する

〈キーワード〉

『 Fly a KITE 』

〈重点事項〉

１．新規開拓活動(利用者、企業)
２．利用サービスの基盤作り
３．営業体制の基盤作り

〈重点事項の活動計画〉

１．新規開拓活動(利用者、企業)
〈利用者〉
(1)支援学校、相談室、その他関係機関との関係性構築
(2)広告媒体の積極的活用と効果検証
〈企　業〉
(1)HWとも連携を行い受け入れ企業の開拓

⑵実習受入企業の開拓
⑶障がい者雇用の初期障壁を減らす取組みの実施

２．利用サービスの基盤作り
⑴支援体制の基盤作り
⑵就労スキルプログラムの基盤作り
・各利用者にあった形でのプログラムの提供
・動画コンテンツの充実
⑶地域資源の活用

３．営業体制の基盤作り
⑴HW 等の関係性構築
⑵コンサルティング営業体制の基盤作り

〈年間行事計画〉

実施月	行事名	内　　容
12 月	会社行事マナー講座	新年会前にマナーについて学ぶ
１月	新年会	講座から学んだ事を活かして、新年会の実施

〈研修計画〉
→研修研究費にて職員１人当たり年 1.5 万円の予算を用意。
KITE 内のプログラム作成、各自年１回の研修実施に使用可能。

実施月	内容
５月	職員担当研修
７月	職員担当研修
９月	職員担当研修
11 月	職員担当研修
１月	虐待・身体拘束防止研修
３月	職員担当研修